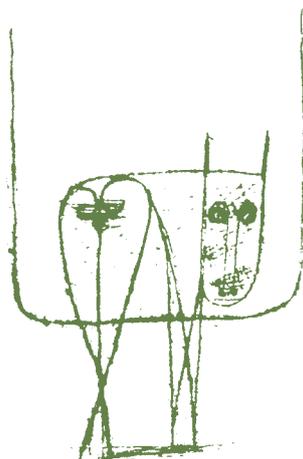


---

神奈川県立近代美術館  
年2023報  
ANNUAL REPORT

---



---

神奈川県立近代美術館

年2023報

ANNUAL REPORT

---

## 目次

[凡例]

- ・本年報に記載する人物は、原則として敬称略とする。
- ・各学芸員の役職は「職員一覧」(p.63)を参照のこと。

あいさつ	3
展覧会活動	
2023(令和5)年度展覧会 会期・観覧者数一覧	4
葉山館	5
鎌倉別館	16
教育普及活動	
2023(令和5)年度 教育普及事業一覧	22
団体来館受入状況、「Museum Box 宝箱」貸出、スタンプラリー、 文化財保護ポスター展 最優秀賞作品展示	26
美術図書室	27
美術館紹介・広報・掲載実績等	28
刊行物	29
2023(令和5)年度の神奈川県立近代美術館の教育普及事業 —「夏のため'23」と学校連携事業を中心に— [西澤晴美]	30
作品蒐集管理活動	
2023(令和5)年度 購入・寄贈・寄託状況	31
2023(令和5)年度 新収蔵作品一覧	31
館外貸出作品一覧	41
2023(令和5)年度 修復作品一覧	42
修復報告	44
美術館資料の保存と活用 —2023年度のアーカイブ事業と美術資料の公開について [長門佐季]	49
調査研究活動	
調査・研究報告	
渡辺千尋旧蔵ポーランド・ポスターのポーランド民主化前後の比較から窺えること —ミェチスワフ・グロフスキ、アンジェイ・ボンゴフスキ、ヴィクトル・サドフスキ、 ヴィエスワフ・ヴァウクスキのポスターを資料として [畠山昌夫]	50
神奈川県立近代美術館における保存修復 20年の取り組み [伊藤由美]	53
調査研究の発表・執筆等	58
外部資金の活用	58
講師派遣・外部委員等就任	59
運営・管理報告	
概況(沿革・所掌事務・施設の状況)	60
PFI事業の概要	60
収入・支出の状況	60
関係法規	61
組織	62
職員一覧	63

## あいさつ

2023年度、葉山館は開館20年を迎えました。また今年(2024年)は鎌倉別館が開館して40年となります。2016年3月末に鎌倉館が閉館してからまもなく9年となりますが、2019年10月に鎌倉別館がリニューアルオープンして半年もたわずにコロナ禍となり、休館やささまざまな制約のもとでの活動を余儀なくされ、2023年度に入りようやく本格的な2館体制がはじまったといえます。

そうした状況での葉山館20周年となりましたが、記念事業として「100年前の未来：移動するモダニズム 1920-1930」展を開催しました。100年前に目を向けると、スペイン風邪によるパンデミックに続き、1923年の関東大震災は首都圏に未曾有の被害をもたらしました。100年前、被災と復興のなかで芸術家が未来を夢見、国境を越えて生み出した作品群を今日の視点をもって捉え直した企画です。100年前と今とを簡単に比較することはできませんが、コロナ禍を経た私たちは100年後の未来に何を残すことができるかあらためて考えさせられました。

2003年の葉山館開館に先立ち、当時の岡崎洋知事は「新しい美術館の誕生に寄せて」として『新館準備ニュース』第1号(2002年8月31日発行)のなかで次のように述べています。「新館が葉山に建設されるのは、今日の時代の役割を十全な形で果たすためにほかなりません。……恵まれた自然環境の中にあります。優れた芸術文化を通して、心を養い、また創造的な見方や考え方を暮らしの中に発見するという意味で、この新館が果たす役割は大きいと思います。多くの方々に愛される施設として利用していただきたいと同時に、神奈川の地から世界に向けて、大きく発信する活力のある美術館として育てていくことを願ってやみません」。この言葉をうけて開館当時の酒井忠康館長は「美術館というものは、一種の生きた時空間のなかで、人間のさまざまな活動を集約し、表象する施設であるということを実感。過去も現在に向かって変貌するということ」(『神奈川県立近代美術館 年報 2002年度』、2004年3月31日発行)と開館に向けて語りました。

葉山館が開館してからの20年を振り返ってみても、美術館とそれを取り巻く環境は変わりました。社会環境の変化が一層の加速をみせる今の時代のなかで、美術館はさらなる変化を求められていくでしょう。こうした状況のなかで美術館のあるべき姿、未来に残すべきものは何か、そして変わらないために変わることの重要性を感じております。一方でそれは、1951年の開館から73年の活動において常に時代とともに変化してきた当館の在り様そのものであるといえるのではないかとも思います。100年後の未来に向けて、これまでと変わらず、過去と現在と未来に交互に視線を向けつつ、変わりながら確実に歩を進めるほかありません。

展覧会や蒐集・発信、教育・普及活動の充実はもとより、各々が調査研究、能力研鑽に励み、美術館の活動が一層有益なものとなるよう努めてまいりたいと思います。

2024年12月

神奈川県立近代美術館長  
長門佐季

# 展覧会活動

## 2023(令和5)年度展覧会 会期・観覧者数一覧

	展覧会名	会期	日数	観覧料		観覧者数 [人]			合計	巡回先
						有料	無料	うち 中学生 以下		
葉山館 企画展	横尾龍彦 瞑想の彼方	[2/4] 4/1   4/9	8日 (56日)	一般 20歳未満・学生 65歳以上 高校生	1,200円 1,050円 600円 100円	807 (4,348)	369 (1,437)	28 (180)	1,176 (5,785)	北九州市立美術館、埼玉 県立近代美術館
	生誕110年 傑作誕生・佐藤忠良	4/22   7/2	62日	一般 20歳未満・学生 65歳以上 高校生	1,200円 1,050円 600円 100円	7,686	2,402	406	10,088	宮城県美術館、群馬県館 林美術館、いわき市立美 術館
	挑発関係＝中平卓馬×森山大道	7/15   9/24	64日	一般 20歳未満・学生 65歳以上 高校生	1,000円 850円 500円 100円	9,268	2,683	735	11,951	
	葉山館20周年記念 100年前の未来:移動する モダニズム 1920-1930	10/7   1/28	95日	一般 20歳未満・学生 65歳以上 高校生	1,200円 1,050円 600円 100円	7,224	3,295	283	10,519	
	芥川龍之介と美の世界 二人の先達―夏目漱石、菅 虎雄	2/10   3/31 [4/7]	45日 (51日)	一般 20歳未満・学生 65歳以上 高校生	1,200円 1,050円 600円 100円	4,105 (4,789)	1,475 (1,981)	224 (267)	5,580 (6,770)	久留米市美術館
小計			274日			29,090	10,224	1,676	39,314	
葉山館 コレクション展	ジョルジュ・ルオーの銅版画	[2/4] 4/1   4/9	8日 (56日)	一般 20歳未満・学生 65歳以上・高校生	250円 150円 100円	873 (4,616)	369 (1,500)	28 (180)	1,242 (6,116)	
	野崎道雄コレクション受贈記念 見えないもの、見たいところ	4/22   7/2	62日	一般 20歳未満・学生 65歳以上・高校生	250円 150円 100円	8,900	2,402	406	11,302	
	加納光於 色(ルーパー)、光、 そのはためくものの	7/15   9/24	64日	一般 20歳未満・学生 65歳以上・高校生	250円 150円 100円	10,398	2,683	735	13,081	
	木茂(もくも)先生と負翼童子	2/10   3/31 [4/7]	45日 (51日)	一般 20歳未満・学生 65歳以上・高校生	250円 150円 100円	4,287 (4,997)	1,475 (1,981)	224 (267)	5,762 (6,978)	
小計			179日			24,458	6,929	1,393	31,387	
鎌倉別館	コレクション展 美しい本 ―湯川書房の書物と版画	[1/21] 4/1   4/16	14日 (60日)	一般 20歳未満・学生 65歳以上・高校生	250円 150円 100円	1,730 (4,927)	340 (1,155)	44 (247)	2,070 (6,082)	
	吉村 弘 風景の音 音の風景	4/29   9/3	111日	一般 20歳未満・学生 65歳以上 高校生	700円 550円 350円 100円	6,446	1,734	552	8,180	
	コレクション展 荘司 福 旅と写生／ドローイング	9/16   11/26	64日	一般 20歳未満・学生 65歳以上・高校生	250円 150円 100円	2,241	1,024	199	3,265	
	イメージと記号 1960年代の美術を読みなおす	12/9   2/12	53日	一般 20歳未満・学生 65歳以上 高校生	700円 550円 350円 100円	1,534	792	196	2,326	
	小金沢健人×佐野繁次郎 ドローイング／シネマ	2/23   3/31 [5/6]	33日 (59日)	一般 20歳未満・学生 65歳以上 高校生	700円 550円 350円 100円	882 (1,892)	351 (830)	155 (237)	1,233 (2,722)	
小計			275日			12,833	4,241	1,146	17,074	
合計 (14 展覧会)						66,381	21,394	4,215	87,775	

※「横尾龍彦 瞑想の彼方」及び「コレクション展 ジョルジュ・ルオーの銅版画」の会期は2023.2/4～4/9、「コレクション展 美しい本―湯川書房の書物と版画」の会期は2023.1/21～4/16。3/31以前の日数、観覧者数については昨年度の年報を参照。( )内は昨年度と今年度の合計の日数と観覧者数。

※「芥川龍之介と美の世界 二人の先達―夏目漱石、菅 虎雄」及び「木茂(もくも)先生と負翼童子」の会期は2024.2/10～4/7、「小金沢健人×佐野繁次郎 ドローイング／シネマ」の会期は2024.2/23～5/6。

※4/1以降の日数、観覧者数については次年度の年報を参照。( )内は今年度と次年度の合計の日数と観覧者数。(各展覧会ページでも同様)

※各展覧会ページの「関連記事」において、ウェブ媒体は公開日を記載。

## 葉山館

781

生誕110年 傑作誕生・佐藤忠良

Sato Churyo: Rereading Three Masterpieces

戦後日本彫刻史に大きな足跡を残した彫刻家・佐藤忠良（1912-2011）。東京美術学校（現・東京藝術大学）で彫刻を学び、従軍とシベリア抑留を経て復員したのちは、新制作派協会（現・新制作協会）を基点に一貫して具象彫刻の道を歩んだ。また、力強く現実感をたたえた素描力を生かし、絵本や挿絵でも広く活躍している。本展はその傑作として知られる彫刻《群馬の人》（1952年）と《帽子・夏》（1972年）、今なお読み継がれるベストセラー絵本『おおきなかぶ』（1962年5月刊）の3作品がいかにして誕生したのか、各年代の代表作を制作年順で紹介するとともに、佐藤が蒐集し生涯手元において西洋美術のコレクションを手がかりとして、その創造の秘密に迫ったものである。

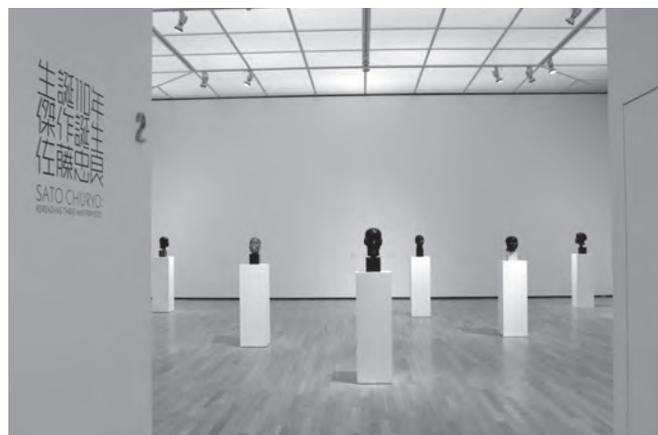
主 催：神奈川県立近代美術館  
監 修：三上満良（元宮城県美術館副館長）  
企画協力：SDアート  
会 期：4月22日（土）～7月2日（日）  
場 所：展示室2・3・4  
休 館 日：月曜日  
開 催 日 数：62日  
出品総点数：作品135点、資料50点  
総観覧者数：10,088人  
担当学芸員：菊川亜騎、高嶋雄一郎 広報：林直央

### 関連企画

- 1) 館長によるトーク 5月20日（土） 話し手：水沢 勉
- 2) 担当学芸員によるスライドトーク 6月3日（土）
- 3) トークイベント「佐藤忠良」を再読する 6月18日（日） 話し手：棚田康司（彫刻家）、富井大裕（美術家・武蔵野美術大学教授）、藤井 匡（東京造形芸術大学教授）、三上満良

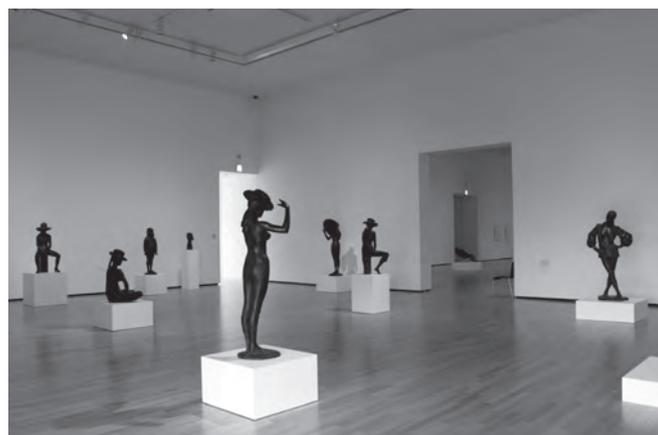


ポスター



会場風景1

撮影：内田亜里



会場風景2

撮影：内田亜里

## カタログ

サイズ：26.0×19.0cm、203ページ 販売価格：2,400円(税込)

監修：三上満良

執筆：水沢 勉、三上満良、赤間和美（宮城県美術館学芸員）、伊藤圭一郎（いわき市立美術館学芸員）、神尾玲子（群馬県立館林美術館学芸係長）、菊川亜騎

編集：宮城県美術館、群馬県立館林美術館、いわき市立美術館、神奈川県立近代美術館

翻訳：ベス・ケーリ

デザイン：梯 耕治

制作：印象社

発行：SDアート

## 関連記事

### ▼展評・解説など

・木下直之「日本人の顔・奇怪なポーズ『生誕110年 傑作誕生・佐藤忠良』」『週刊文春』第65巻25号、2023年7月6日号、p.92

### ▼展覧会紹介：7誌(10回)

### ▼情報掲載：8誌(16回)

### ▼ラジオ：1件

・「湘南ビーチ FM DAILY ZUSHI HAYAMA」(菊川亜騎、聞き手：森川いつみ) 2023年5月10日放送

## 目次

彫刻との向きせぬ対話—佐藤忠良のリアリティ (水沢 勉)

佐藤忠良の芸術—三つの傑作と作者の眼 (三上満良)

第1章 《群馬の人》—フランス近代彫刻から学んだもの

第2章 《帽子・夏》—イタリア近代彫刻への共感と空間の探求

第3章 『おおきなかぶ』—画家・佐藤忠良の足跡

「《群馬の人》—フランス近代彫刻から学んだもの」(神尾玲子)

「佐藤忠良といわき」(伊藤圭一郎)

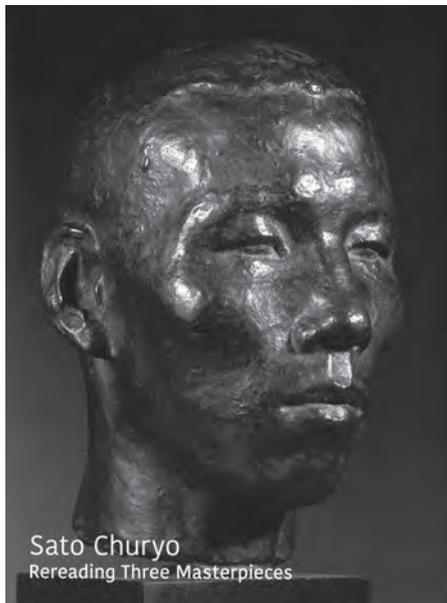
「《帽子・夏》の頃—1970年代の女性表象について」(菊川亜騎)

「『おおきなかぶ』の前史をさぐる—画家・佐藤忠良の足跡」(赤間和美)

略年譜 (三上満良編)

主要文献—著述を中心に (赤間和美編)

出品作品目録



カタログ

# 葉山館

782

## 野崎道雄コレクション受贈記念 見えないもの、見たいところ

Unseen Objects & Desire to See: Commemorating Donation from NOZAKI Michio to the Museum

野崎道雄（1931-2024）氏は眼科医としての業績を重ねるかたわら、1980年代から近・現代の美術への関心を深め、戦後ドイツを代表する画家ゲルハルト・リヒター（1932-）や、彼と並び称されるジグマー・ボルケ（1941-2010）、2人の先達であるヨーゼフ・ボイス（1921-1986）らの作品の収集に長年にわたり注力してきた。2022年度、野崎氏から当館に152件の作品と5件の資料、400冊を超える関連図書が寄贈されることとなり、それを記念して本展を開催した。タイトルの「見えないもの、見たいところ」は野崎氏のエッセイから借りた言葉である。戦後ドイツ美術の位相をたどる前掲の3人に加え、20世紀初めに新しい芸術の価値観を提示したマルセル・デュシャン、ボルケらに影響を及ぼしたポップ・アートの画家ロイ・リキテンスタインの作品など、野崎道雄コレクションの核となる作品群を紹介した。

主催：神奈川県立近代美術館  
会期：4月22日(土)～7月2日(日)  
場所：展示室1  
休館日：月曜日  
開催日数：62日  
出品総点数：作品74点、資料2点  
総観覧者数：11,302人  
担当学芸員：西澤晴美、長門佐季 広報：ハリントン角皆萌仁香

### 関連記事

#### ▼展評・解説など

- ・橋爪勇介「リヒター含む150点はなぜ寄贈されたのか。神奈川県立近代美術館を“選んだ”コレクター」『ウェブ版美術手帖』2023年5月21日 <https://bijutsutecho.com/magazine/news/report/27200>
- ・神宮桃子「個人収集アート 公立館華やか @神奈川 リヒター、ウォーホルらの一級品 地元へ寄贈 @静岡 交流から広がる企画 少額予算 収集の問題も」『朝日新聞』2023年6月20日夕刊、3面

#### ▼展覧会紹介：1紙(1回)／1誌(2回)

#### ▼情報掲載：3誌(5回)

### 関連企画

- 1) 館長によるトーク 5月20日(土) 話し手:水沢 勉
- 2) 担当学芸員によるスライドトーク 5月27日(土)

### リーフレット

サイズ：24.0×19.0cm、20ページ、無料配布  
執筆：水沢 勉、西澤晴美  
デザイン：栗原幸治（クリ・ラボ）  
撮影：大谷一郎  
制作：瞬報社写真印刷株式会社  
編集・発行：神奈川県立近代美術館

### 目次

あいさつ（水沢 勉）

### 図版

野崎道雄コレクション 作家と作品（西澤晴美）

野崎道雄氏略歴・主な自筆文献

野崎道雄コレクション全作品・資料リスト



会場風景1

撮影：内田亜里



リーフレット



会場風景2

撮影：内田亜里

## 葉山館

783

挑発関係＝中平卓馬×森山大道

Provocative Relationship＝MORIYAMA Daido×NAKAHIRA Takuma

日本の写真史に大きな独自の足跡を残す二人の写真家・中平卓馬（1938-2015）と森山大道（1938-）は、1964年の晩冬に、写真家・東松照明の紹介によって知り合った。当時は雑誌編集者であった中平と、写真家としての活動を開始したばかりだった森山は、同い歳であること、ともに逗子に住んでいたことから、頻りに会うようになる。二人は、寺山修司に請われてその雑誌連載とともに写真を掲載し、伝説的な写真誌『PROVOKE』の同人になるなど、交流を深め、刺激し合いながらも、それぞれ独自の写真表現を模索していった。この、お互いを唯一無二の同志として意識し挑発しあう特別な関係は、中平が亡くなる2015年まで、あるいは森山にとっては、その関係はいまもまだ継続している。本展は、そうした半世紀以上にわたる二人のつながり——出会い、交流、共同作業、相違、交差、反発、共感、畏敬——をあらためて美術館という空間に引き込み、ぶつけ、検証する、はじめての試みとなった。ここ葉山・逗子を中心とした神奈川県内で撮影された、60～80年代の貴重な雑誌や写真集、ヴィンテージ・プリント、本展のために制作したプリント、映像、さらには2000年代以降の作品などを展示し、日本のみならず海外のアートにまで影響を与えてきた、二人の「挑発関係」を明らかにしようとしたものである。

主催：神奈川県立近代美術館

会期：7月15日(土)～9月24日(日)

場所：展示室2・3・4

休館日：月曜日（7月17日、9月18日を除く）

開催日数：64日

出品総点数：作品135点、資料50点

総観覧者数：11,951人

担当学芸員：高嶋雄一郎、菊川亜騎 広報：太田原笙子

関連企画

1) 館長によるトーク 8月19日(土) 話し手:水沢勉

2) 担当学芸員によるギャラリートーク 9月10日(日)



ポスター



会場風景 1

撮影：永禮賢



会場風景 2

撮影：永禮賢

## カタログ

サイズ：21.0×14.5cm、288ページ 販売価格：2,640円(税込)、  
ISBN：978-4-86503-172-0 C0072

著者：中平卓馬・森山大道  
執筆：水沢 勉、森山大道  
編集：高嶋雄一郎、町口 寛、神林 豊  
編集協力：オシリス、一般財団法人森山大道写真財団、木村一也  
造本設計：町口 寛  
デザイン：清水紗良（マッチアンドカンパニー）  
印刷：株式会社誠晃印刷  
プリンティングディレクター：糸川正悟  
進行：石川泰彦  
製本：株式会社プロケード  
発行日：2023年9月15日 第1刷  
発行所：有限会社月曜社  
発行者：神林 豊

## 目次

あいさつ（水沢 勉）

- (I) 〈無言劇〉『来たるべき言葉のために』
- (II) 寺山修司と／「現代の眼」「カメラ毎日」『にっぽん劇場写真帖』
- (III) 『路上』そして『プロヴォーク』へ
- (IV) 『写真よさようなら』『なぜ、植物図鑑か』
- (V) 『Adieu à X』『光と影』
- (VI) 『記録』『Documentary』
- (VII) 『Nへの手紙』
- ( ) 資料編 ドキュメント 挑発関係  
挑発関係 = N+M たち自身による（構成：高嶋雄一郎、神林 豊）  
Mへのインタビュー 出会い、交流、共同作業、相違、交差、反発、共感、  
畏敬（聞き手：高嶋雄一郎）  
年譜（作成：高嶋雄一郎、神林 豊）  
岬へ（森山大道）

## 関連記事

### ▼展評・解説など

- ・森山大道『挑発関係＝中平卓馬×森山大道』森山大道インタビュー『写真 = Shashin magazine』No.4、2023年7月20日、pp.117-121
- ・北村信彦「art 今月の展覧会『挑発関係＝中平卓馬×森山大道』二人が切磋琢磨した時代に憧れて」『Numéro Tokyo』No.170、2023年10月号、p.156
- ・村田真「挑発関係＝中平卓馬×森山大道 artscape レビュー」『artscape』2023年9月1日  
[https://artscape.jp/report/review/10187761\\_1735.html](https://artscape.jp/report/review/10187761_1735.html)
- ・苺部太郎「『挑発（プロヴォーク）』の波打ち際 『挑発関係＝中平卓馬×森山大道』展レポート」『IMA ONLINE』2023年9月8日  
<https://imaonline.jp/articles/report/20230908provocative-relationship/>
- ・高橋直彦「本橋成一とロベール・ドアノー、あるいは中平卓馬と森山大道。2人展を通して、見慣れた写真が違って見えてくれる様を恵比寿と葉山で堪能する」『マリクレール』2023年9月19日  
<https://marieclairejapon.com/culture/145475/>

▼展覧会紹介：4紙(4回)、14誌(16回)

▼情報掲載：9誌(22回)



カタログ

## 葉山館

784

コレクション展 加納光於 色（ルーパ）、光、そのはためくもの

KANO Mitsuo - Rūpa, Light, Fluttering Things

70年にわたり豊かなイメージを追求してきた独行の作家・加納光於（1933-）の個展を当館コレクションによって紹介した。当館の加納コレクションは、1994年度、1995年度に購入した1950～60年代の初期モノクロ版画を基盤に、その後、2013年、鎌倉館で開催した個展を機に作家から寄贈された色彩版画、オブジェなどの100点以上から成る。本展ではそれらに加えて、作家から新たに寄贈された最新作を含む油彩画の数々を含めて展覧し、色彩をめぐる独自の思考「Rūpa（ルーパ）」をもとに、版画から油彩へと展開した創作の軌跡を追った。また、加納の創作風景やアトリエ風景などの映像展示も行った。

主催：神奈川県立近代美術館

会期：7月15日(土)～9月24日(日)

場所：展示室1

休館日：月曜日（7月17日、9月18日を除く）

開催日数：64日

出品総点数：作品67点、資料15点

総観覧者数：13,081人

担当学芸員：朝木由香、靱山昌夫 広報：林直央

### 関連企画

- 1) 館長によるトーク 8月19日(土) 話し手：水沢勉
- 2) 担当学芸員によるギャラリートーク 8月13日(日)、9月12日(火)

### リーフレット

サイズ：21.0×15.0cm(4つ折り)、無料配布

執筆：加納光於、朝木由香

編集：朝木由香

発行：神奈川県立近代美術館

### 目次

[無題] (加納光於)

[解説] (朝木由香)

1. 強い水一モノクローム版画
2. 揺らぎを映す鏡—メタルプリント
3. 連続性を求めて—版画集
4. 架空の装置—オブジェ
5. 波動のさなかで—多色版画
6. 色、光、そのはためくもの—油彩
7. 鳥は常に円環を目指す

出品リスト

### 関連記事

▼情報掲載：5紙(9回)



リーフレット



会場風景

撮影：山本 紉

## 葉山館

785

葉山館 20 周年記念 100 年前の未来：移動するモダニズム 1920-1930

The Future 100 Years Ago: Modernists on the Move 1920-1930

葉山館の開館 20 周年、および 1923 年の関東大震災 100 年を機に、当館が館名にかかげる「近代（モダン）」の文化が多様に展開した 1920 年代を再考。1910 年代のロシア革命、第一次世界大戦、スペイン風邪によるパンデミックを経て、国境を越えて活動した国内外の芸術家たち、かれらが展開した新興美術運動を概観し、1930 年代中華民国への展開まで、100 年前の世界が夢みた新しさの諸相を紹介した。近代研究の第一人者 3 名を迎え、会期中に 3 回の連続講演会を実施。

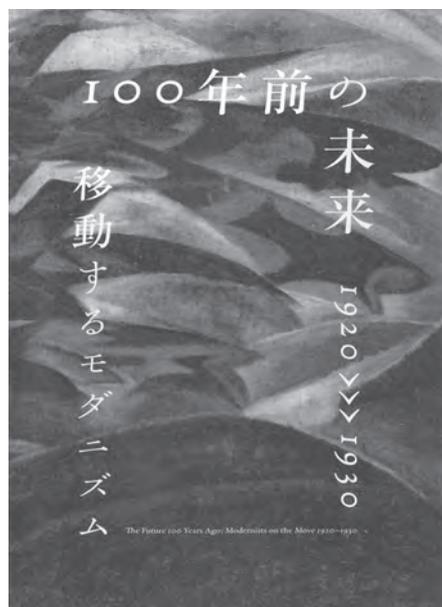
主催：神奈川県立近代美術館  
会期：10月7日(土)～2024年1月28日(日)  
場所：展示室 1～4  
休館日：月曜日(10月9日、1月8日を除く)、12月29日～2024年1月3日  
開催日数：95 日  
出品総点数：234 点  
総観覧者数：10,519 人  
担当学芸員：三本松倫代、西澤晴美 広報：ハリントン角皆萌仁香

### 関連企画

- 20 周年記念トーク「近代美術館のこれまでとこれから」  
10月7日(土) 講師：酒井忠康(世田谷美術館長、元当館館長) 聞き手：水沢 勉
- 令和 5 年度 明治美術学会 第 4 回例会 10月21日(土)  
主催：明治美術学会、神奈川県立近代美術館  
展覧会概要説明：三本松倫代  
対談「モダニズムの揺らぎをめぐってー明治から大正へー」  
話し手：水沢 勉、五十殿利治(筑波大学名誉教授)  
※事前予約制、参加者は明治美術学会会員に限定
- 連続講演会「移動するモダニズム」  
第 1 回「関東大震災とモダニストの想像力」 11月4日(土)  
講師：ジェニファー・ワイゼンフェルド(デューク大学教授)  
第 2 回「中国をめざすモダニストたち：近代中国における日本人美術家について」 12月10日(日)  
講師：呉 孟晋(京都大学准教授)  
第 3 回「久米民十郎 移動・モダニズム・戦争」2024年1月20日(土)  
講師：五十殿利治
- 館長によるトーク 11月25日(土) 話し手：水沢 勉
- 担当学芸員によるギャラリートーク 12月24日(日)、2024年1月21日(日)
- コラージュワークショップ 2024年1月7日(日)



ポスター



カタログ

## カタログ

サイズ：23.6×16.3cm、176 ページ、販売価格：2,400円(税込)  
執筆：五十殿利治、水沢 勉、三本松倫代、西澤晴美  
英文校閲：キャサリン・リーランド  
デザイン：三木俊一（文京図案室）  
印刷：株式会社山田写真製版所  
製本：株式会社渋谷文泉閣  
編集・発行：神奈川県立近代美術館  
発行日：2023年10月7日

## 謝辞

### 目次

流動する中心 神奈川県立近代美術館 葉山の開館 20 周年にあたって（水沢 勉）

A Center in Flux: On the Occasion of the 20th Anniversary of The Museum of Modern Art, Hayama (Mizusawa Tsutomu)

第一次世界大戦と洋画家 遠い戦場は遠い戦争なのか？（五十殿利治）

World War I and Western-style Painters: Is a Distant Battlefield a Distant War? (Omuka Toshiharu)

### 図版

chapter i: ふたつのエロシェンコ像から—東欧、ロシア、日本

chapter ii: タミの夢—ロンドン、ニューヨーク、パリ、横浜

chapter iii: モダニズムのパノラマ—フランス、アメリカの滞在作家たち

chapter iv: 日独文化往来—ベルリン、デュッセルドルフ、東京

chapter v: モダン／カタストロフ—MAVO からはじまる都市と造形

chapter vi: 上海 1931—魯迅と「木刻運動」

参考作家略歴（西澤晴美、三本松倫代編）

Chapter Introduction (English Translation)

出品リスト /List of Works

## 関連記事

### ▼展評・解説など

・五十殿利治「「100年前の未来」とモダニズムの岐路」『美術の窓』2023年10月号、pp. 113-114

・大西若人「美の履歴書 826 体の動き リアルに見えるのは「支那の踊り」 久米民十郎」『朝日新聞』2023年12月12日夕刊、2面

・藤田一人「美術 「100年前の未来：移動するモダニズム 1920-1930」展 揺れ動く時代との共鳴」『公明新聞』2023年12月13日、5面

・山根 聡「かながわ美の手帖 県立近代美術館 葉山「葉山館 20周年記念 100年前の未来：移動するモダニズム 1920-1930」戦争と革命 逃れて 国境を越える美術」『産経新聞』2023年12月24日朝刊、20面

・岩本文枝「文化 機械化の波に恩恵と不安 「モダン・タイムス・イン・パリ 1925」展ほか AI時代に考える 100年前」『日本経済新聞』2024年1月6日、40面

・沼辺信一「新世紀のクラシック 100年前の「最先端」と時間を遡る旅～国境を越えた芸術家たち～ 100年前の未来：移動するモダニズム 1920-1930」『商工ジャーナル』2024年1月号、p. 6

・永瀬恭一「再演される未来のために」『アートコレクターズ』2024年3月号、pp. 126-127

▼展覧会紹介：7紙(7回)／9誌(11回)

▼情報掲載：5紙(40回)／13誌(29回)

### ▼ラジオ

・「湘南ビーチ FM DAILY ZUSHI HAYAMA」(三本松倫代、聞き手：森川 いつみ) 2023年11月16日放送



会場風景 1

撮影：上野則宏



会場風景 2

撮影：上野則宏

## 葉山館

786

芥川龍之介と美の世界 二人の先達—夏目漱石、菅 虎雄

Akutagawa Ryunosuke and His Aesthetics, Two Forerunners—Natsume Soseki and Suga Torao

数々の名作を世に送り出し、今もなお幅広い世代に愛される小説家・芥川龍之介（1892–1927）。芥川は古今東西の芸術に関心を寄せ、自らの文学作品にもそれらを登場させた。本展では、美術に深い関心を持ち芥川が師と仰いだ夏目漱石（1867–1916）と、漱石の友人であり芥川にドイツ語を教えた書家・菅 虎雄（1864–1943）との交流を書簡などの資料でたどり、芥川が言及した作家たちの作品を展示することで、その眼を通した美の世界を紹介した。巡回した作品・資料に加え、本展に関連する当館の所蔵作品を21点出品し、芥川、漱石、菅の3人と本展の出品作家にゆかりのある場所を示した湘南地域と田端の地図も公開した。

主催：神奈川県立近代美術館  
会期：2024年2月10日(土)～4月7日(日)  
場所：展示室1・2・3a  
休館日：月曜日(2月12日を除く)  
開催日数：45日(51日)  
出品総点数：279点(巡回展316点)  
総観覧者数：5,580人(6,770人)  
担当学芸員：長門佐季、橋口由依 広報：太田原笙子  
巡回先：久留米市美術館

### 関連企画

- 1) 講演会「芥川文学の魅力—その美的構造」 2024年3月24日(日)  
話し手：宮坂 覺 (フェリス学院大学名誉教授)
- 2) 館長講演会「三角世界への誘い(いざな)い」 2024年3月30日(土)  
話し手：水沢 勉
- 3) イベント「河童三昧」 2024年2月10日(土)～4月7日(日)  
芥川が描いた河童(《水虎晩帰之図》)のシルエットを展示室ほか館内の5ヶ所に掲示。全ての河童を見つけてクイズに回答した方に、河童のステッカーを配布。入館者全員を対象とし、延べ3,481名の参加があった。

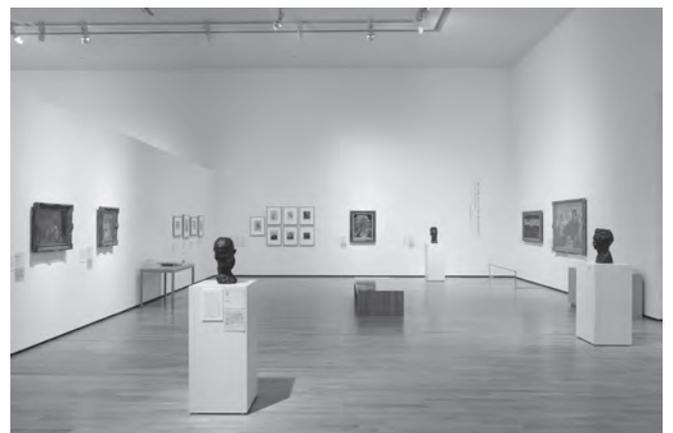


ポスター



会場風景1

撮影：佐藤克秋



会場風景2

撮影：佐藤克秋

## カタログ

サイズ：25.9×19.1cm、296 ページ、販売価格：2,500円(税込)

執筆：芥川耿子（エッセイスト）、原武 哲（福岡女学院大学名誉教授）、  
宮坂 覺（フェリス女学院大学名誉教授）、橋 秀文（目黒区美術館  
館長）、木口直子（田端文士村記念館研究員）、森山秀子（久留  
米市美術館）、佐々木奈美子（久留米市美術館）、長門佐季、橋  
口由依

編集：森山秀子、佐々木奈美子、長門佐季、橋口由依

翻訳：小川紀久子

デザイン：栗原幸治（クリ・ラボ）

制作：株式会社 erA

印刷：光村印刷株式会社

発行：久留米市美術館、神奈川県立近代美術館

## 目次

縁—「芥川龍之介と美の世界」展によせて—（芥川耿子）

夏目漱石と菅虎雄（原武 哲）

芥川龍之介の“美意識”—凄まじい空中の火花だけは—（宮坂 覺）

## 図版

序章 「或阿呆」の一生

第一章 菅虎雄 夏目漱石 芥川龍之介～それぞれのプロフィール

コラム 菅虎雄がモデルに？（森山秀子）

第二章 芥川龍之介 夏目漱石 菅虎雄～三人の関わり

コラム 我猫庵（佐々木奈美子）

コラム 菅虎雄と漱石（原武 哲）

第三章 もうひとつの顔

第四章 芥川龍之介と美術

コラム 漱石と芥川の旧蔵書（森山秀子）

コラム 芥川龍之介と中国美術（橋口由依）

第5章 末期の眼

コラム 「未だに生きてゐるぞ」—芥川龍之介と《若きカフカス人》（長門佐季）

芥川龍之介の美術体験（森山秀子）

菅虎雄という定点からみる芥川龍之介、夏目漱石（佐々木奈美子）

木下奎太郎から見た芥川龍之介（橋 秀文）

芥川龍之介と「東京田端」（木口直子）

主要出品作家略歴（長門佐季、橋口由依、橋 秀文）

参考文献抄（久留米市美術館編）

年表（久留米市美術館編）

出品目録

## 関連記事

### ▼展評・解説など

・藤島俊会「神奈川の文化時評 美術 重く意味深い30年 カスヤの森  
現代美術館 開館30周年記念 松澤有／芥川龍之介と美の世界 二人  
の先達—夏目漱石、菅虎雄」『神奈川新聞』2024年3月4日朝刊、15面

・宮川匡司「文化 美術作品、創造の刺激に 詩心通わす文人精神 「芥  
川龍之介と美の世界」展」『日本経済新聞』2024年3月9日朝刊、44面

・山根 聡「かながわ美の手帖 県立近代美術館 葉山 企画展「芥川龍之  
介と美の世界 二人の先達—夏目漱石、菅虎雄」文豪が眺めた実物 ゆ  
かりの地に巡回」『産経新聞』2024年3月11日朝刊、20面

・遠藤和行「文学好きも美術好きも 葉山で企画展「芥川龍之介と美の  
世界」 夏目漱石、菅虎雄との交流紹介」『毎日新聞』2024年3月29日朝刊、  
18面

▼展覧会紹介：2紙(2回)／4誌(5回)

▼情報掲載：5紙(21回)／9誌(12回)

▼ラジオ：1件

・「湘南ビーチ FM DAILY ZUSHI HAYAMA」(橋口由依、聞き手：森川い  
つみ) 2024年2月27日放送



カタログ（帯付）



イベント「河童三昧」で配布したステッカー



イベント「河童三昧」河童《水虎兜婦之図》のシルエット

# 葉山館

787

## コレクション展 木茂（もくも）先生と負翼童子

Mokumo Sensei and Cupid: AOKI Shigeru Library From the Museum Collection

自らを書痴と称し、愛書家にして愛煙家であった“木茂（もくも）先生”こと美術史家・青木茂（1932-2021）を紹介する展示。幕末明治の洋画家・高橋由一研究の第一人者として長年にわたる研究を重ねた青木が蒐め、当館に譲られた蔵書「青木文庫」は1万冊におよぶ。今後の美術史研究に大きな遺産となる「青木文庫」から明治期の貴重な資料を紹介するほか、青木の調査によって明らかとなり、2019年度収蔵の高橋由一旧蔵作品《負翼童子図》（作者不明）を修復後初公開するとともに修復までの過程を映像展示。そのほか、青木文庫のなかでも珍品に押された「木茂珍藏」印のある書籍資料をまとめて展示した。また、第4展示室では、木村荘八と木下杢太郎の共著『大同石佛寺』（1922年、日本美術学院）に掲載された木村荘八による挿絵の原画63点ほか、掲載写真、青木文庫のなかから中国石窟に関する書籍を合わせて紹介した。

主催：神奈川県立近代美術館  
会期：2024年2月10日(土)～4月7日(日)  
場所：展示室 3b・4  
休館日：月曜日(2月12日を除く)  
開催日数：45日(51日)  
出品総点数：作品99点、資料213点  
総観覧者数：5,762人(6,978人)  
担当学芸員：長門佐季、橋口由依 広報：林直央

### 関連記事

- ▼展評・解説など
  - ・伊藤由美「神奈川県立近代美術館蔵 作者不詳「負翼童子図」修復報告」『修復研究所報告』Vol. 18、2024年2月25日、pp. 2-11
  - ・木下直之「その他の世界 62 人間と神の稀有な出会い 「木茂先生と負翼童子」」『週刊文春』2024年3月7日、p. 110
  - ・山田俊幸「戦後焼け跡の新しい思想文庫—文庫クセジュとアテネ文庫—」『一寸』No.96、2024年3月、p.88
- ▼展覧会紹介：1誌(2回)
- ▼情報掲載：7誌(8回)

### 関連企画

- 1) 特別研究会「青木文庫に埋もれ、木茂先生を語ろう会」2024年4月6日(土) 主催：明治美術学会、神奈川県立近代美術館 司会：木下直之(静岡県立美術館長)、長門佐季 語り手：金子一夫(茨城大学教育学部教授)、河野実(元鹿沼市立川上澄生美術館長)、森登(学藝書院主宰) ※事前予約制、参加者は明治美術学会会員に限定



会場風景 1

撮影：佐藤克秋



チラシ(芥川龍之介と美の世界 二人の先達-夏目漱石、菅虎雄展チラシ裏面)



会場風景 2

撮影：佐藤克秋

## 鎌倉別館

788

吉村弘 風景の音 音の風景

YOSHIMURA HIROSHI Ambience of Sound, Sound of Ambience

環境音楽の先駆けとして1970年代初めから活躍した吉村弘（1940–2003）の没後20年を記念する展覧会。作曲、演奏ばかりでなく、音を描くドローイング（絵楽譜）やパフォーマンス、サウンドインスタレーション、サウンドオブジェ（音具）の創案・製作、執筆と幅広い吉村弘の活動を「音と出会う」、「音をつくる」、「音を演じる」、「音を眺める」、「音を仕掛ける」の5つ章にわけて紹介。エントランスや廊下など、鎌倉別館の建築全体を展示空間として活用し、視覚だけでなく聴覚や触覚で音を感じる展示を試みた。公共空間の音響デザインの仕事やワークショップは記録映像として上映。タージマハル旅行団に関する資料を含む、吉村の多面的な活動を資料群によって紹介した。吉村が1985年に撮影した映像5作品をブラウン管テレビで初展示。さらに、2016年に閉館した鎌倉館で開館・閉館時に流れていたサウンドロゴが本展を機に7年ぶりに鎌倉別館で復活した。

主催：神奈川県立近代美術館

会期：4月29日(土・祝)～9月3日(日)

休館日：月曜日(7月17日を除く)

開催日数：111日

出品総点数：218点

総観覧者数：8,180人

担当学芸員：長門佐季、松尾子水樹 広報：永井慧彦

### 関連企画

- 1) パフォーマンス「報告」 8月5日(土)午後5時30分～7時 場所：展示室  
出演：鈴木昭男（サウンド・パフォーマー）、宮北裕美（ダンサー）
- 2) レクチャーパフォーマンス「あの季節（とき）の音と遊ぶ」 8月20日(日)午前11時～12時 場所：展示室 出演：石賀直之（東京造形大学教授、ジャズサクソ奏者）、石川亮太（作曲家）、Azu（インスピレーション・アーティスト、サクソフォン奏者）、鈴木新（音楽教師、サクソフォン奏者）、渡邊久仁子（ピアニスト）、渡邊林太郎（造形作家、WAY art produce）
- 3) トヨダヒトシ スライドショー「for Nine Postcards」 8月26日(土)午後5時30分～6時30分 場所：展示室 出演：トヨダヒトシ（写真家）



会場風景 1

撮影：上野則宏



ポスター



会場風景 2

撮影：上野則宏

## ブックレット

サイズ：29.0×22.5cm、32ページ、無料配布

執筆：水沢勉、トヨダヒトシ、長門佐季、松尾子水樹

翻訳：小川紀久子

デザイン：梯耕治

制作：株式会社 erA

編集・発行：神奈川県立近代美術館

## 目次

はじめにも終わりにもなくいま響く 吉村弘のメッセージ（水沢勉）

風景の採譜（トヨダヒトシ）

I. 音と出会う—初期

II. 音をつくる—作曲

III. 音を演じる—パフォーマンス

IV. 音を眺める—映像

V. 音を仕掛ける—環境

年譜（松尾子水樹編）

ディスコグラフィ—と自筆文献（長門佐季編）

出品リスト

写真・映像編集クレジット



パフォーマンス「報告」



トヨダヒトシ スライドショー「for Nine Postcards」



レクチャーパフォーマンス「あの季節（とき）の音と遊ぶ」

## 関連記事

### ▼展評・解説など

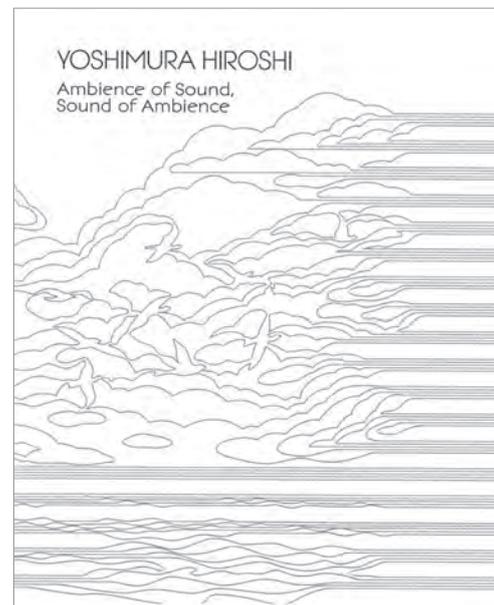
- ・浅見悠吾「吉村弘 風景の音 音の風景」展（神奈川県立近代美術館 鎌倉別館）レポート環境音楽のパイオニアは、どのように音と向き合っていたのか？」『Tokyo Art Beat』2023年5月3日  
<https://www.tokyoartbeat.com/articles/-/hiroshi-yoshimura-report-202305>
- ・石松 豊「日本の環境音楽の先駆者・吉村弘。「空気のような音」はいかにして生まれたか。」『美術手帖ウェブ版』2023年6月25日  
<https://bijutsutecho.com/magazine/news/report/27323>
- ・山根 聡「かながわ美の手帖 県立近代美術館 鎌倉別館 吉村弘 風景の音 音の風景〈環境〉敏感な若者 先駆者に熱い視線」『産経新聞』2023年7月24日、18面
- ・細川周平「#1270 吉村弘 風景の音 音の風景」『Jazz Tokyo』No.304 2023年8月5日  
<https://jazztokyo.org/reviews/live-report/post-90857/>
- ・藤島俊也「神奈川の文化時評 美術 吉村弘 風景の音／音の風景」『神奈川新聞』2023年8月7日、17面
- ・松本良一「音の風景 吉村弘の軌跡 楽譜や自筆ノート展示 没後20年」『読売新聞』2023年8月19日夕刊、5面
- ・小川敦生「音楽を大自然に戻し、五線譜が山と空の風景に化けた！変幻自在な「音」作家、吉村弘」『ONTOMO』2023年8月24日  
<https://ontomo-mag.com/article/report/rakugakist38-yoshimura-202308/>
- ・浅見 旬（文）、浅沼弥沙（写真）「An Ear-Opening Experience 耳のひらく体験」『Subsequence』2023年8月29日  
[https://subsequence.tv/jp/topics\\_stories/discovery/3204/](https://subsequence.tv/jp/topics_stories/discovery/3204/)
- ・生形三郎「吉村弘が目指したサウンド・スケープ—その場所に必要音のあり方を考える【サウンド・アート最前線 #3】」『ART News JAPAN』2023年9月5日  
<https://artnewsjapan.com/article/1475>
- ・Sam Thorne, Hiroshi Yoshimura's "Ambience of Sound, Sound of Ambience", e-flux, September, 8, 2023 (2023年9月8日)  
<https://www.e-flux.com/criticism/558398/hiroshi-yoshimura-s-ambience-of-sound-sound-of-ambience>
- ・村田 真「吉村弘 風景の音 音の風景」（artscape レビュー）『artscape』2023年10月1日号  
[https://artscape.jp/report/review/10187762\\_1735.html](https://artscape.jp/report/review/10187762_1735.html)
- ・野々村文宏「展覧会レビュー 吉村弘『風景の音 音の風景』」『和光大学表現学部紀要』2024年3月18日（24号）、pp.143-146

▼展覧会紹介：2紙(2回)／1誌(1回)

▼情報掲載：4紙(25回)／11誌(18回)

▼ラジオ

- ・田中美登里「6月のミドリコメンド」『トランス・ワールド・ミュージック・ウェイズ』2023年6月25日(日)午前4時30分～5時 TOKYO FM



ブックレット

## 鎌倉別館

789

コレクション展 荘司 福 旅と写生／ドローイング

SHOJI Fuku: Trips, Sketches, and Drawings From the Museum Collection

旅と思索の画家と称される荘司 福（1910-2002）は、石や土、自然の風景を題材に、存在の重みと時間性を玄妙に描き尽くし、単なる風景や心象を超えた深みのある作品を数多く生み出した。本展では、北海道から九州までの日本各地をはじめ、中国、インド、カンボジア、アフガニスタン、エジプトの遺跡などへの旅の中で残されたスケッチとドローイングを、完成した日本画とともに多数展示した。多様な世界観の探求を通して荘司が獲得していった制作の本質と、作品のモチーフに対する独自の視点を、5章に分けて探る構成とした。荘司の作品約60点と写真や画材などの資料に加えて、義理の娘で日本画材の特性を生かした抽象表現を開拓した画家・荘司貴和子の作品も併せて紹介した。

主催：神奈川県立近代美術館

会期：9月16日(土)～11月26日(日)

休館日：月曜日(9月18日、10月9日を除く)

開催日数：64日

出品総点数：作品63点、写真・画材などの資料約30点

総観覧者数：3,265人

担当学芸員：西澤晴美、橋口由依 広報：永井慧彦

### 関連企画

- 1) 日本画ワークショップ「土や石、植物を日本画の絵具で描く」  
11月22日(水) 講師：内田あぐり(日本画家)
- 2) 担当学芸員によるギャラリートーク 10月28日(土)、11月11日(土)

### 関連記事

#### ▼展評・解説など

- ・山根 聡「かながわ美の手帖 県立近代美術館 鎌倉別館 「荘司 福 旅と写生／ドローイング」 「心の力」抜いて 自然の「美」抽出」『産経新聞』  
2023年10月23日、18面

▼展覧会紹介：2紙(2回)／1誌(1回)

▼情報掲載：2紙(12回)／5誌(7回)



ポスター

### リーフレット

サイズ：21.0×29.7cm、8ページ、無料配布

執筆：荘司 準、水沢 勉、西澤晴美

編集：神奈川県立近代美術館

デザイン：秋澤一彰

制作：株式会社野毛印刷社

発行：神奈川県立近代美術館

### 目次

あいさつ(水沢 勉)

母のこと(荘司 準)

図版(文：西澤晴美)

荘司 福 略年譜—旅を中心に



リーフレット



会場風景

撮影：内田亜里

## 鎌倉別館

790

イメージと記号 1960年代の美術を読みなおす

Images and Symbols: Rereading the Art in the 1960s

読売アンデパンダン展（1949-1963）が幕を閉じ、反芸術の喧騒が過ぎ去った1960年代後半。新たに登場したのが、記号や幾何学を取り入れた理知的な美術の動向で、視覚を惑わすだまし絵のような表現や、量産されたマルチプル・オブジェが流行した。それは「見る」ことによって成り立つ美術の制度を問いかけ、作品のオリジナリティ（真性）を見直そうとするものであった。社会に氾濫するイメージを知性とユーモアで表現へと昇華した作品は、同時代の視覚文化を色濃く映しだしている。本展では当館コレクションを中心に、堀内正和、山口勝弘、岡崎和郎、飯田善國、宮脇愛子、高松次郎、若林 奮などの60年代の作品に焦点をあて、その独創的な表現を振り返った。

主 催：神奈川県立近代美術館  
助 成：日本学術振興会科学研究費（20K12874）  
会 期：12月9日（土）～2024年2月12日（月・振替休日）  
休 館 日：月曜（2024年1月8日、2月12日を除く）、12月29日～  
2024年1月3日  
開催日数：53日  
出品総点数：作品63点、資料19点  
総観覧者数：2,326人  
担当学芸員：菊川亜騎、靱山昌夫 広報：永井慧彦

### 関連企画

1) 担当学芸員によるギャラリートーク 2024年1月27日（土）、2月10日（土）

### カタログ

サイズ：18.2×12.4cm、112ページ、販売価格：900円（税込）

執筆：水沢 勉、菊川亜騎

編集：菊川亜騎

デザイン：川村格夫（ten pieces）

制作：瞬報社写真印刷株式会社

発行：神奈川県立近代美術館

### 目次

あいさつ（水沢 勉）

「蛍光」時代の日本彫刻：1960年代後半における身体イメージの変遷から（菊川亜騎）

### 図版

1 内省する身体、記号としての身体

コラム 若林奮と内科画廊

2 私的な愉しみ：マルチプル・オブジェ

コラム 彫刻史の近代と現代を繋ぐ：読みなおされた堀内正和

3 トポロジーと環境芸術：形から光へ

コラム「蛍光菊」展ミニチュア部門について

年譜 [1963-1970]

参考文献

作品リスト

### 関連記事

#### ▼展評・解説など

- 山根 聡「かながわ美の手帖 県立近代美術館 鎌倉別館 企画展「イメージと記号 1960年代の美術を読みなおす」 63年を境に内省化 理知的なスタンス」『産経新聞』2024年1月29日朝刊、20面
- 藤島俊会「神奈川の文化時評 美術 「イメージと記号」展 美術館の存在理由問う」『神奈川新聞』2024年2月5日朝刊、15面

▼展覧会紹介：1紙（1回）

▼情報掲載：2紙（7回）／7誌（11回）



チラシ



カタログ



会場風景

## 鎌倉別館

791

小金沢健人×佐野繁次郎 ドローイング／シネマ

KOGANEZAWA Takehito×SANO Shigejiro: Drawing / Cinema

現代美術作家と当館所蔵作家から二人を特集し、一つの視点で読む展覧会。絵画から映像、立体まで多様な展開をみせる小金沢健人（1974-）が、独特の手描き文字と線画による装幀・挿画の仕事が油彩画と並び愛されている佐野繁次郎（1900-1987）の仕事から素描、装幀本、彫刻、油彩画を選定し、佐野の素描を元に制作した新作映像のほか、両者のドローイング類を中心にインスタレーションとして展示を行った。

主催：神奈川県立近代美術館

会期：2024年2月23日(金・祝)～5月6日(月・振替休日)

休館日：月曜日(4月29日、5月6日を除く)

開催日数：33日(59日)

出品総点数：19件(439点)

総観覧者数：1,233人(2,722人)

担当学芸員：三本松倫代、朝木由香 広報：永井慧彦

### 関連企画

- 1) 「アーティストトーク」2024年2月23日(金・祝) 講師：小金沢健人  
聞き手：水沢 勉
- 2) 「『NOKTO』ドローイング／シネマ・ナイトバージョン」2024年5月  
6日(月・振替休日) 出演：千葉広樹(ベーシスト、作曲家)



ポスター



会場風景 1



会場風景 2

撮影：内田亜里

## カタログ

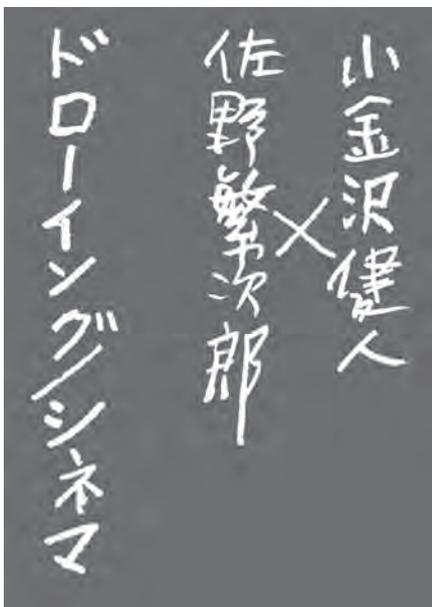
サイズ：14.8×10.5cm、64ページ(蛇腹折)、販売価格：1,200円(税込)  
執筆：小金沢健人、水沢 勉、三本松倫代  
編集：三本松倫代、朝木由香  
翻訳：キャサリン・リーランド  
デザイン：菊地敦己  
印刷：八紘美術  
発行：神奈川県立近代美術館  
発行日：2024年2月23日

### [テキスト面]

あいさつ (水沢 勉)  
Foreword / Mizusawa Tsutomu  
幽霊の蘇生法 (小金沢健人)  
The Resurrection Rite of the Phantom / Koganezawa Takehito  
ことの経緯など (三本松倫代)  
Project Background / Sanbonmatsu Tomoyo  
小金沢健人 略歴  
Koganezawa Takehito CV  
佐野繁次郎 略歴  
Sano Shigejiro CV  
出品リスト  
List of works  
謝辞／クレジット  
Acknowledgements / Credits

## 関連記事

▼展覧会紹介：1紙(1回)／1誌(1回)  
▼情報掲載：4紙(15回)／5誌(7回)



カタログ



イベント風景

# 教育普及活動

## 2023(令和5)年度 教育普及事業一覧

### 受講・参加プログラム(講演会、イベント・ワークショップ、地域連携、学校連携等)

	事業名	事業内容			事業実績			
		テーマまたは内容	講師・出演者等	実施日	実施場所	参加方法等	受講人数	
展覧会関連講演会等	企画展「生誕110年 傑作誕生・佐藤忠良」トークイベント「佐藤忠良」を再読する	ゲストによる対談	棚田康司(彫刻家)、富井大裕(美術家・武蔵野美術大学教授)、藤井匡(東京造形芸術大学教授)、三上満良(本展監修者・前宮城県美術館副館長)	R5.6.18	葉山館講堂	事前申込制	42名	
	企画展「吉村弘 風景の音 音の風景」関連イベント 鈴木昭男・宮北裕美パフォーマンス「報告」	ゲストによるライブ・パフォーマンス、ダンスとのセッション	鈴木昭男(サウンド・パフォーマー)、宮北裕美(ダンサー)	R5.8.5	鎌倉別館展示室	整理券配布	80名	
	企画展「吉村弘 風景の音 音の風景」ギャラリートーク「あの季節(とき)の音と遊ぶ」 *図1	ゲストが吉村の音具や楽譜を読み解く	渡邊林太郎(造形作家、WAY art produce)、石賀直之(東京造形大学教授、ジャズサックス奏者)、石川亮太(作曲家)、Azu(インスピレーション・アーティスト、サクソフォン奏者)、鈴木新(音楽教師、サクソフォン奏者)、渡邊久仁子(ピアニスト)	R5.8.20	鎌倉別館展示室	先着順	56名	
	企画展「吉村弘 風景の音 音の風景」関連イベント「トヨダヒトシ スラドショー「for Nine Postcards」	ゲストによる映像ライブ上映	トヨダヒトシ(写真家)	R5.8.26	鎌倉別館展示室	整理券配布	86名	
	20周年記念トーク「近代美術館のこれまでとこれから」 *図2	企画展「葉山館20周年記念 100年前の未来:移動するモダニズム 1920-1930」開幕にあわせたトークイベント	酒井忠康(世田谷美術館長、元当館館長)、水沢勉	R5.10.7	葉山館講堂	整理券配布	61名	
	連続講演会「移動するモダニズム」第1回「関東大震災とモダニストの想像力」	企画展「葉山館20周年記念 100年前の未来:移動するモダニズム 1920-1930」に関連し、美術界を取り巻く動向や社会状況を多様な視点から再考する	ジェニファー・ワイゼンフェルド(デューク大学教授)	R5.11.4	葉山館講堂	整理券配布	32名	
	連続講演会「移動するモダニズム」第2回「中国をめざすモダニストたち:近代中国における日本人美術家について」	企画展「葉山館20周年記念 100年前の未来:移動するモダニズム 1920-1930」に関連し、美術界を取り巻く動向や社会状況を多様な視点から再考する	呉孟晋(京都大学准教授)	R5.12.10	葉山館講堂	整理券配布	29名	
	連続講演会「移動するモダニズム」第3回「久米民十郎 移動・モダニズム・戦争」	企画展「葉山館20周年記念 100年前の未来:移動するモダニズム 1920-1930」に関連し、美術界を取り巻く動向や社会状況を多様な視点から再考する	五十殿利治(筑波大学名誉教授)	R6.1.20	葉山館講堂	整理券配布	45名	
	企画展「小金沢健人×佐野繁次郎 ドロイング/シネマ」小金沢健人アーティストトーク	企画展「小金沢健人×佐野繁次郎 ドロイング/シネマ」のアーティストトーク	小金沢健人(アーティスト) 聞き手:水沢勉	R6.2.23	鎌倉別館展示室	先着順	38名	
	企画展「芥川龍之介と美の世界 二人の先達一夏目漱石、菅虎雄」展講演会「芥川文学の魅力一その美的構造」	企画展「芥川龍之介と美の世界 二人の先達一夏目漱石、菅虎雄」に関連した講演会	宮坂 豊(フェリス学院大学名誉教授)	R6.3.24	葉山館講堂	整理券配布	43名	
	館長講演会「三角世界への誘い(いざな)い」 *図3	企画展「芥川龍之介と美の世界 二人の先達一夏目漱石、菅虎雄」に関連した講演会	水沢勉	R6.3.30	葉山館講堂	整理券配布	60名	
	イベント・ワークショップ	夏のおたのしみと学びのセット「夏のだね'23でかるこまに〜ってな〜に?」配布	教育普及グッズの配布	永井慧彦、林直央、ハリントン角皆萌仁香、太田原笙子、西澤晴美	R5.7.22~8.27	葉山館、鎌倉別館	18歳以下先着順	924部
		「夏のだね'23でかるこまに〜ってな〜に?」ワークショップ	作品鑑賞後に「夏のだね'23でかるこまに〜ってな〜に?」を用いたデカルコマニー制作を体験する	永井慧彦、林直央、ハリントン角皆萌仁香、太田原笙子、西澤晴美	R5.8.10(午前・午後計2回)	鎌倉別館カフェスペース	18歳以下事前申込制・抽選	13名
「夏のだね'23でかるこまに〜ってな〜に?」ワークショップ *図4、5		作品鑑賞後に「夏のだね'23でかるこまに〜ってな〜に?」を用いたデカルコマニー制作を体験する	永井慧彦、林直央、ハリントン角皆萌仁香、太田原笙子、西澤晴美	R5.8.12/8.18(各日午前・午後計4回)	葉山館講堂、展示室1	18歳以下事前申込制・抽選	52名	
企画展「吉村弘 風景の音 音の風景」関連ワークショップ「雲のおじさんの音を眺める」		学芸員によるワークショップ	永井慧彦、松尾子水樹、長門佐季	R5.8.15	鎌倉別館展示室	先着順	20名	
コレクション展「荘司福 旅と写生/ドロイング」関連日本画ワークショップ「土や石、植物を日本画の絵具で描く」 *図6		ゲストによる日本画制作の体験	内田あぐり(日本画家)	R5.11.22	鎌倉別館カフェスペース	事前申込制	10名	
企画展「葉山館20周年記念 100年前の未来:移動するモダニズム 1920-1930」関連コラージュワークショップ		コラージュ作品の制作を体験するワークショップ	ハリントン角皆萌仁香、林直央、太田原笙子、インターン生	R6.1.7	葉山館エントランスホール、講堂、展示室	自由参加	33名	
ギャラリートーク		コレクション展「野崎道雄コレクション受贈記念 見えないもの、見たいところ」企画展「生誕110年 傑作誕生・佐藤忠良」館長によるトーク	館長による展覧会解説	水沢勉	R5.5.20	葉山館講堂	先着順	26名
	コレクション展「野崎道雄コレクション受贈記念 見えないもの、見たいところ」担当学芸員によるスライドトーク	学芸員による展覧会解説	西澤晴美	R5.5.27	葉山館講堂	先着順	11名	
	企画展「生誕110年 傑作誕生・佐藤忠良」担当学芸員によるスライドトーク	学芸員による展覧会解説	菊川亜騎	R5.6.3	葉山館講堂	先着順	5名	
	コレクション展「加納光於 色(ルウバ)、光、そのはためくもの」担当学芸員によるギャラリートーク	学芸員による展覧会解説	朝木由香	R5.8.13	葉山館展示室	先着順	6名	
	企画展「挑発関係=中平卓馬×森山大道」、コレクション展「加納光於 色(ルウバ)、光、そのはためくもの」館長によるトーク	館長による展覧会解説	水沢勉	R5.8.19	葉山館展示室	先着順	14名	
	企画展「挑発関係=中平卓馬×森山大道」担当学芸員によるギャラリートーク	学芸員による展覧会解説	高嶋雄一郎	R5.9.1	葉山館展示室	先着順	27名	
	コレクション展「加納光於 色(ルウバ)、光、そのはためくもの」担当学芸員によるギャラリートーク	学芸員による展覧会解説	朝木由香	R5.9.12	葉山館展示室	先着順	7名	

	事業名	事業内容				事業実績	
		テーマまたは内容	講師・出演者等	実施日	実施場所	参加方法等	受講人数
ギャラリートーク	コレクション展「荏苒 福 旅と写生／ドローイング」担当学芸員によるギャラリートーク	学芸員による展覧会解説	西澤晴美	R5.10.28	鎌倉別館展示室	先着順	11名
	コレクション展「荏苒 福 旅と写生／ドローイング」担当学芸員によるギャラリートーク *図7	学芸員による展覧会解説	西澤晴美	R5.11.11	鎌倉別館展示室	先着順	12名
	企画展「葉山館20周年記念 100年前の未来:移動するモダニズム 1920-1930」館長によるトーク *図8	館長による展覧会解説	水沢 勉	R5.11.25	葉山館展示室	先着順	25名
	企画展「葉山館20周年記念 100年前の未来:移動するモダニズム 1920-1930」担当学芸員によるギャラリートーク	学芸員による展覧会解説	三本松倫代	R5.12.24	葉山館展示室	先着順	23名
	企画展「葉山館20周年記念 100年前の未来:移動するモダニズム 1920-1930」担当学芸員によるギャラリートーク	学芸員による展覧会解説	西澤晴美	R6.1.21	葉山館展示室	先着順	14名
	企画展「イメージと記号 1960年代の美術を読みなおす」担当学芸員によるギャラリートーク	学芸員による展覧会解説	菊川亜騎	R6.1.27	鎌倉別館展示室	先着順	17名
	企画展「イメージと記号 1960年代の美術を読みなおす」担当学芸員によるギャラリートーク	学芸員による展覧会解説	菊川亜騎	R6.2.10	鎌倉別館展示室	先着順	21名
地域連携	葉山芸術祭こどもプロジェクト「美術館へ行こう！」	葉山近隣に住む子どもたちが美術館の野外彫刻を見て回るプログラム	水沢 勉	R5.5.13	葉山館	事前申込制	15名
	近代美術館入門講座(葉山町共催連続講座)	企画展「生誕110年 傑作誕生・佐藤忠良」	菊川亜騎	R5.5.26	葉山町福祉文化会館	先着順	17名
	近代美術館入門講座(葉山町共催連続講座)	企画展「挑発関係=中平卓馬×森山大道」	高嶋雄一郎	R5.8.18	葉山町福祉文化会館	先着順	23名
	近代美術館入門講座(葉山町共催連続講座)	企画展「葉山館20周年記念 100年前の未来:移動するモダニズム 1920-1930」	三本松倫代	R5.10.27	葉山町福祉文化会館	先着順	15名
	近代美術館入門講座(葉山町共催連続講座) *図9	企画展「芥川龍之介と美の世界 二人の先達—夏目漱石、菅 虎雄」	長門佐季	R6.3.1	葉山町福祉文化会館	先着順	42名
	近代美術館入門講座(逗子市共催連続講座)	企画展「生誕110年 傑作誕生・佐藤忠良」	菊川亜騎	R5.5.24	逗子市役所会議室	事前申込制	39名
	近代美術館入門講座(逗子市共催連続講座)	企画展「挑発関係=中平卓馬×森山大道」	高嶋雄一郎	R5.8.2	逗子市役所会議室	事前申込制	16名
	近代美術館入門講座(逗子市共催連続講座)	企画展「葉山館20周年記念 100年前の未来:移動するモダニズム 1920-1930」	三本松倫代	R5.10.18	逗子市役所会議室	事前申込制	19名
	近代美術館入門講座(逗子市共催連続講座)	企画展「芥川龍之介と美の世界 二人の先達—夏目漱石、菅 虎雄」	長門佐季	R6.2.28	逗子市役所会議室	事前申込制	27名
	葉山特別見学会	企画展「葉山館20周年記念 100年前の未来:移動するモダニズム 1920-1930」	三本松倫代	R5.10.27	葉山館講堂	事前申込制	38名
	葉山特別見学会	企画展「芥川龍之介と美の世界 二人の先達—夏目漱石、菅 虎雄」	長門佐季	R6.2.22	葉山館講堂	事前申込制	33名
学校連携	葉山町立葉山中学校美術部	オリジナル教材「ポータブル・アートミュージアム」を使用したワークショップの実施と展覧会見学	太田原笙子、ハリントン角皆萌仁香	R5.10.21	葉山館講堂、展示室	事前申込制	15名
	藤沢市立藤ヶ丘中学校美術部	オリジナル教材「ポータブル・アートミュージアム」を使用したワークショップの実施と展覧会見学	林 直央、ハリントン角皆萌仁香、太田原笙子	R6.3.28	葉山館講堂、展示室	事前申込制	10名
「むすんでひらいて」プロジェクト	葉山町立一色小学校コスモス学級との連携ワークショップ「色と形をならべてみよう」	オリジナル教材「色と形をならべてみよう」を使用したワークショップの実施と展示室4の「おおきなかぶ」原画の見学	西澤晴美、太田原笙子	R5.6.23	葉山館講堂、展示室	事前申込制	17名
	真鶴町立まなづる小学校ひまわり級との連携ワークショップ「色と形をならべてみよう」 *図10	オリジナル教材「色と形をならべてみよう」を使用したワークショップの実施	太田原笙子、西澤晴美	R5.9.21	真鶴町立まなづる小学校ひまわり1組教室	事前申込制	5名
	神奈川県立保土ヶ谷支援学校小学部3年との連携ワークショップ「色と形をならべてみよう」	オリジナル教材「色と形をならべてみよう」を使用したワークショップの実施	太田原笙子、西澤晴美	R5.11.14	神奈川県立保土ヶ谷支援学校共同学習室	事前申込制	12名
	葉山町立一色小学校コスモス学級との連携ワークショップ「でかるこまに～ってな～に？」	オリジナル教材「でかるこまに～ってな～に？」を使用したワークショップの実施	太田原笙子、林 直央	R5.11.21	葉山館講堂	事前申込制	16名
	神奈川県立相模原支援学校中学部2年との連携ワークショップ「ポータブル・アートミュージアム」	オリジナル教材「ポータブル・アートミュージアム」を使用したワークショップの実施	太田原笙子、西澤晴美	R6.1.26	神奈川県立相模原支援学校	事前申込制	7名
	小田原市立富水小学校特別支援学級との連携ワークショップ「色と形をならべてみよう」	オリジナル教材「色と形をならべてみよう」を使用したワークショップの実施	林 直央、太田原笙子、西澤晴美	R6.2.29	小田原市立富水小学校	事前申込制	30名
実習・研修等受入	神奈川県立総合教育センター「図画・工作・美術・工芸の授業づくり」研修	展覧会見学、授業づくり講座、造形ワークショップの紹介と実践	宮田一宏(神奈川県立相模原弥栄高等学校教諭)、棚山昌夫、高嶋雄一郎	R5.8.1	葉山館講堂	事前申込制	30名
	北区小学校教員見学	東京都北区立田端小学校教員による夏季鑑賞承認研修による別館見学	長門佐季、松尾子水樹、三本松倫代、永井慧彦	R5.8.1	鎌倉別館	事前申込制	13名
	博物館学芸員実習	計6日間/8校(青山学院大学、学習院大学、金沢美術工芸大学、相模女子大学、女子美術大学、多摩美術大学、東京造形大学、明星大学)	西澤晴美、ハリントン角皆萌仁香、水沢 勉、棚山昌夫、高嶋雄一郎、伊藤由美、橋口由依、鈴木めぐみ、坂口 薫、林 直央、太田原笙子	R5.8.1～9	葉山館講堂、展示室、鎌倉別館等	事前申込制	109名
	令和5年度 小・中学校初任者研修 逗子・三浦・葉山合同夏季研修	葉山町教育委員会の教育活動である研修(計2日間)の一部。2日目午前に講義・展覧会鑑賞	松本美穂(葉山町教育委員会学校教育課指導主事)、水沢 勉、林 直央	R5.8.10	葉山館講堂、展示室	事前申込制	26名
	高校生インターンシップ *図11	計3日間/4校(茅ヶ崎北陵高等学校、逗浜高等学校、北鎌倉女子学園高等学校、鎌倉女子大学 高等部)	水沢 勉、棚山昌夫、高嶋雄一郎、伊藤由美、橋口由依、鈴木めぐみ、坂口 薫、林 直央、ハリントン角皆萌仁香、太田原笙子	R5.8.16～18	葉山館	事前申込制	12名

	事業名	事業内容			事業実績		
		テーマまたは内容	講師・出演者等	実施日	実施場所	参加方法等	受講人数
実習・研修等受入	令和5年度5年経験者研修(社会体験研修)	計3日間(各校2日間)／3校(茅ヶ崎市立萩園中学校、神奈川県立湘南支援学校、神奈川県立逗子葉山高等学校)	水沢勉、粕山昌夫、高嶋雄一郎、伊藤由美、橋口由依、鈴木めぐみ、坂口薫、林直央、ハリントン角皆萌仁香、太田原生子	R5.8.16～18	葉山館	事前申込制	6名
	小田原・足柄下地区小学校教育研究会	美術館紹介、教育普及事業紹介、オリジナル教材「○と□」と「ポータブル・アートミュージアム」を使用したワークショップの実施	粕山昌夫、太田原生子	R5.8.23	小田原市立豊川小学校	事前申込制	36名
	職業講話	逗子市立久木中学校「CAREER IN HISAGI FESTIVAL」で2年を対象とした職業講話	ハリントン角皆萌仁香、太田原生子	R5.11.10	逗子市立久木中学校	事前申込制	11名
	中学生職場体験	鎌倉市立大船中学校	三本松倫代、橋口由依、永井慧彦	R5.11.1	鎌倉別館	事前申込制	3名
	中学生職場体験	計2日間／2校(逗子市立逗子中学校、横須賀市立大楠中学校) *図12	西澤晴美、橋口由依、鈴木めぐみ、林直央、ハリントン角皆萌仁香、太田原生子	R5.11.16/ 11.22	葉山館	事前申込制	5名
教育普及事業総計(配布を除く)							1,566名



図1. 企画展「吉村弘 風景の音 音の風景」  
ギャラリーパフォーマンス「あの季節(とき)の音と遊ぶ」  
出演:渡邊林太郎(造形作家、WAY art produce)、石賀直之(東京造形大学教授、ジャズサクソフォ奏者)、石川亮太(作曲家)、Azumi(インスピレーションアーティスト、サクソフォ奏者)、鈴木新(音楽教師、サクソフォ奏者)、渡邊久仁子(ピアニスト)  
日程:8月20日 場所:鎌倉別館 展示室



図2. 20周年記念トーク「近代美術館のこれまでとこれから」  
講師:酒井忠康氏(世田谷美術館長、元当館館長)  
聞き手:水沢勉  
日程:10月7日  
場所:葉山館 講堂



図3. 館長講演会「三角世界への誘い(いざな)い」  
日程:2024年3月30日  
場所:葉山館 講堂



図4. 「夏のたね'23でかるこまに〜ってな〜に?」ワークショップ  
日程:8月18日  
場所:葉山館 展示室



図5. 「夏のたね'23でかるこまに〜ってな〜に?」ワークショップ  
日程:8月18日  
場所:葉山館 講堂



図6. 日本画ワークショップ「土や石、植物を日本画の絵具で描く」  
講師:内田あぐり(日本画家)  
日程:11月22日  
場所:鎌倉別館 カフェ



図7. コレクション展「荳司 旅と写生/ドローイング」担当学芸員によるギャラリートーク  
 日程：11月11日  
 場所：鎌倉別館 展示室



図8. 企画展「葉山館 20周年記念 100年前の未来：移動するモダニズム 1920-1930」  
 館長によるトーク  
 日程：11月25日  
 場所：葉山館 展示室



図9. 近代美術館入門講座（葉山町共催連続講座）  
 「芥川龍之介と美の世界 二人の先達—夏目漱石、菅 虎雄」  
 日程：2024年3月1日  
 講師：長門 佐季  
 場所：葉山町福祉文化会館



図10. 真鶴町立まなづる小学校ひまわり織との連携ワークショップ「色と形をならべてみよう」  
 日程：9月21日  
 場所：真鶴町立まなづる小学校



図11. 高校生インターンシップ  
 日程：8月16日～18日  
 場所：葉山館



図12. 中学生職場体験  
 日程：11月16日、22日  
 場所：葉山館

## 団体来館受入状況

団体種別	件数等
学校教育機関等	小学校：2校／延べ2回81名
	中学校：5校／延べ5回80名
	高校：6校／延べ7回58名
	大学：5校／延べ5回190名
	専門学校：2校／延べ2回48名
	その他：3団体／延べ3回75名
	病院・福祉団体：1団体／延べ1回14名
	旅行会社・観光等の団体：2団体／延べ4回54名
	その他団体：11団体／延べ11回215名

〔註〕

1. このデータは事前申込による団体来館受入数に限る。

2. 5月21日、5月26日、6月8日、6月13日、7月2日、8月1日、8月8日、8月10日、10月21日、10月27日、10月31日、11月9日、12月10日、12月16日の団体来館受入時には、学芸員がレクチャーを行った。

## 「Museum Box 宝箱」貸出

内容	件数等
貸出総個数	16個
貸出先	4校
貸出回数	延べ4回
利用総人数	138名
内訳概要	小学校：1校／延べ1回 中学校・高校：2校／延べ2回 専門学校：1校／延べ1回
地域	葉山町1ヶ所、鎌倉市1ヶ所、横浜市1ヶ所、東京都1ヶ所

## スタンプラリー

鎌倉文化ゾーン〔小町通り・八幡宮エリア〕ミュージアムめぐり スタンプラリー 期間：2023年5月13日～2024年3月31日

- 「鎌倉文化ゾーン〔小町通り・八幡宮エリア〕」にある鎌倉別館を含め、鎌倉国宝館や鎌倉市鍋木清方記念美術館など5つの施設をめぐるスタンプラリーを実施した。

主催：鎌倉市鍋木清方記念美術館、鎌倉市川喜多映画記念館、神奈川県立近代美術館、鎌倉国宝館、鎌倉歴史文化交流館

葉山を巡るスタンプラリー

期間：2023年11月1日～11月12日

- 葉山館含め葉山しおさい公園、山口蓬春記念館など7つのラリーポイントをめぐるスタンプラリーを実施した。

主催：県立葉山公園、はやま三ヶ岡山緑地指定管理者 株式会社三菱電機ライフサービス

## 文化財保護ポスター展 最優秀賞作品展示

- 第52回文化財保護ポスター応募作品から選ばれた最優秀賞の作品3点を展示した。

主催：神奈川県教育委員会

共催：鎌倉市

場所：葉山館 エントランス

期間：2023年12月1日～12月24日

## 美術図書室

### 鈴木めぐみ

#### 1) 資料の収集・整理

- ・蔵書数(システム登録 2024年3月末現在) 111,119冊
- ・逐次刊行物タイトル数 和 2,461タイトル 洋 393タイトル
- ・2023年度新規図書・AV・図録登録数 4,783冊
- ・2023年度除籍数 28冊

#### 2) 特別コレクション

- ・野崎道雄コレクション、神原泰文庫、高野三三男文庫、末松正樹旧蔵書、佐藤哲三関係資料、上野誠旧蔵書、気谷誠旧蔵書、舛田輝郎旧蔵書、仲田定之助文庫の図書システムへの登録を行った。

#### 3) 閲覧サービス

- ・2023年5月8日から新型コロナウイルス感染症が「5類感染症」となったのに伴い、閲覧サービスに伴う制限はなくなり、混雑時のみ満員表示を出す対応に変更した。
- ・開室日数 274日
- ・入室者数 5,903名 1日平均 22名
- ・複写枚数 2,190枚
- ・レファレンス受付件数 96件
- ・レファレンス事例  
「黄 栄燦についての資料はあるか」  
「葉山御用邸の向かいの丘にあった、一碧荘という斎藤佳三の別荘の所在が分かる資料はあるか」  
「ジャポネズリー研究という雑誌を見たい」  
「司馬遼太郎が観に行ったという須田国太郎の展覧会の図録はあるか? 京都で開催したらいいのだが」  
「日本美術院の関係者の写真はないか?」  
「ブロンズ彫刻を作る際の温度などがわかる書物はないか」等

#### 4) 展覧会関連資料の展示

- ・美術図書室では、展覧会関連資料を「特集コーナー」としてわかりやすくまとめ、来室者が手にとって閲覧できるようにしている。

##### 葉山館の展覧会

「生誕110年 傑作誕生・佐藤忠良」(4月22日～7月2日)  
佐藤忠良編『つぶれた帽子』日本経済新聞社、1988年  
世田谷美術館編『ある造形家の足跡 佐藤忠良展』世田谷美術館、2010年  
奥田史郎編『彫刻の〈職人〉 佐藤忠良』草の根出版会、2003年  
など計 53冊。

「コレクション展 野崎道雄コレクション受贈記念 見えないもの、見たいところ」(4月22日～7月2日)  
林寿美『ゲルハルト・リヒター』水声社、2022年  
千葉市美術館編『瀧口修造とマルセル・デュシャン』千葉市美術館、2011年  
上野の森美術館、国立国際美術館編『ジグマー・ポルケ：不思議の国のアリス』上野の森美術館、2005年

など計 37冊。

「挑発関係＝中平卓馬×森山大道」(7月15日～9月24日)  
中平卓馬『なぜ、植物図鑑か』筑摩書房、2007年  
森山大道写真『写真よさようなら』月曜社、2019年  
『Provoke 1』(復刻版) 二舎舎、2018年  
など計 51冊。

「コレクション展 加納光於 色(ルーパー)、光、そのはためくもの」(7月15日～9月24日)  
神奈川県立近代美術館編『加納光於 | 色身一未だ視ぬ波頭よ 2013』神奈川県立近代美術館、2013年  
大矢雅章『日本における銅版画の「メティエ」』水声社、2019年  
加納光於『KANO mitsuo catalogue raisonne & documents』小沢書店、1992年  
など計 50冊。

「葉山館 20周年記念 100年前の未来：移動するモダニズム 1920-1930」(10月7日～2024年1月28日)  
五十殿利治『久米民十郎 モダニズムの岐路に立つ「霊媒派」』せりか書房、2022年  
神奈川県立近代美術館編『中国木版画展』神奈川県立近代美術館、1992年  
ジェニファー・ワイゼンフェルド『関東大震災の想像力』青土社、2014年  
など計 90冊。

「芥川龍之介と美の世界 二人の先達一夏目漱石、菅 虎雄」(2024年2月10日～4月7日)  
日本近代文学館編『芥川龍之介の書画』二玄社、2009年  
新宿区立漱石山房記念館編『夏目漱石と芥川龍之介』新宿区立漱石山房記念館、2022年  
鎌倉文学館編『鎌倉の禅林と作家たち』鎌倉市芸術文化振興財団、2001年  
など計 67冊。

「コレクション展 木茂(もくも)先生と負翼童子」(2024年2月10日～4月7日)  
青木 茂『書痴、戦時下の美術書を読む』平凡社、2006年  
青木 茂編『高橋由一油画史料』中央公論美術出版、1984年  
青木 茂監修『近代日本アート・カタログ・コレクション 001』ゆまに書房、2001年  
など計 30冊。

##### 鎌倉別館の展覧会

「吉村 弘 風景の音 音の風景」(4月29日～9月3日)  
吉村 弘『街のなかでみつけた音』春秋社、1994年  
神奈川県立近代美術館編『吉村弘の世界：音のかたち、かたちの音』神奈川県立近代美術館、2005年  
鳥越けい子『サウンドスケープの詩学 フィールド篇』春秋社、2008年  
など計 84冊。

「コレクション展 荘司 福 旅と写生/ドローイング」(9月16日～11月26日)

神奈川県立近代美術館編『莊司福展：花、大地、山—自然を見つめて』神奈川県立近代美術館、2009年

麻田辨次『巴里寸描』求龍堂、1977年

佐藤聡史編『「祈り」 莊司貴和子展：刻（とき）の審判の場へ』東御市梅野記念絵画館、2014年  
など計40冊。

「イメージと記号 1960年代の美術を読みなおす」(12月9日～2024年2月12日)

東京国立近代美術館編『高松次郎ミステリーズ』東京国立近代美術館、2014年

横尾忠則『横尾忠則Y字路』東方出版、2006年

山口勝弘『Imaginarium：2006-2014』絶版書房、2014年  
など計76冊。

「小金沢健人×佐野繁次郎 ドローイング/シネマ」(2024年2月23日～5月6日)

佐野繁次郎、西村義孝編著『佐野繁次郎装幀集成：西村コレクションを中心として』みずのわ出版、2008年

神奈川県民ホールギャラリー編『あれとこれのあいだ：小金沢健人展』神奈川県民ホール、2008年

など計51冊。

このほか、「夏のたね」配布期間にあわせた資料展示も行った。

#### 5) 美術図書館横断検索

- ・2011年7月より「美術図書館横連絡会(ALC)」に加盟しており、横断検索の実施や加盟館の展覧会図録の速やかな相互発送により、利用者へのサービス向上に努めている。

参考 2023年度アクセス数

検索合計(項目別・フリーワード) 95,008

トップページ 47,094

## 美術館紹介・広報・掲載実績等

### 1) 美術館紹介記事

「いざ、「美の街」鎌倉へ! 10. 神奈川県立近代美術館 鎌倉別館の空間美 海の波を思わせる有機的な建築」『和楽』2023年6・7月号(第23巻3号)、p.131

「近代美術館 葉山 地域と共に歩み20年「記憶に残る展覧会を」記念展覧会7日から」『タウンニュース(逗子・葉山版)』2023年10月6日(金)号(第442号)、p.4

「海とともにアートを楽しむ 神奈川県立近代美術館 葉山」『ゆうゆう』2023年11月号(第296号)、p.46

### 2) 収蔵作品・作家ほか紹介記事

「No.31 一原有徳(1910-2010)《KYO》」『版画芸術』2023年夏号(第45号)、p.32

「最も穂高らしいモチーフの岩稜を描く」『山と溪谷』2023年7月(第1066号)、p.83

「高村光太郎《上高地風景》」『おとな旅プレミアム：上高地・安曇野・黒部・松本』TAC出版編集部編、TAC出版、2024年、p.58

「学芸員ノート9 丹阿弥丹羽子《実》(メゾチント 紙1982年)」『万年筆の旅：吉村昭記念文学館 News』第22巻、2024年、p.5

### 3) ホームページ閲覧数(2023年4月～2024年3月)

ホームページ訪問者数 総数 642,627人

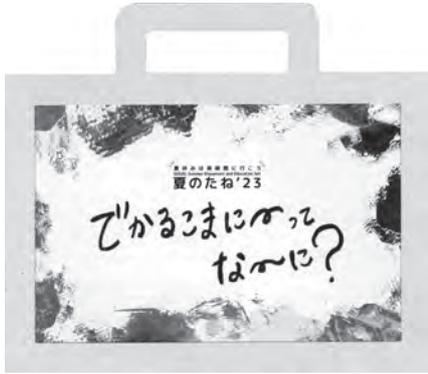
参照ページ 4,924,124

## 刊行物

\* 展覧会カタログについては展覧会活動ページに記載。

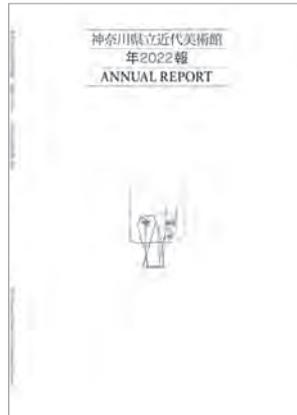
### 1) 「夏のたね'23 でかるとまに〜ってな〜に？」

編集・発行：神奈川県立近代美術館  
印刷：野毛印刷社  
無料配布  
2023年7月発行



### 2) 2022年度年報

編集・発行：神奈川県立近代美術館  
印刷：有限会社リーヴル  
29.7 × 21.0cm、58 ページ、特色 1 図、単色  
98 図  
無料配布  
2023年12月発行  
あいさつ／展覧会活動／教育普及活動／作品蒐集管理活動／調査研究活動／運営・管理報告



### 3) 美術館たより『たいせつな風景』33号

特集：触れる  
編集・発行：神奈川県立近代美術館  
制作：瞬報社写真印刷株式会社  
20.9 × 14.5cm、13 ページ、多色 7 図、単色  
2 図  
無料配布  
2024年3月発行  
あいさつ（水沢 勉）／彫刻に手でふれてみる  
ということ（岡野晃子）／パウル・クレーとリリー夫人 見えるようになった透明さ 宗像久敬のサイン帳に残された《ガラスの動物》（ヴォルフガング・F・ケルステン（柿沼万里江訳）／Paul and Lily Klee —Durchsichtiges sichtbar gemacht. Das »Glastier« im Gästebuch von Munakata Hisataka (Wolfgang F. Kersten) / 青先生、印を楽しむ（原田 光）／表紙作品解説 北川太郎《時空ピラミッド》 梶山昌夫



## 2023(令和5)年度の神奈川県立近代美術館の教育普及事業

—「夏のだね'23」と学校連携事業を中心に—

西澤晴美

本稿では2023年度に特に力を入れた教育普及事業として、「夏のだね'23」と学校連携の取り組みの2つを主に取り上げたい。

当館では毎年、夏休みの期間に子どもたちが来館するきっかけを作り、美術館を楽しんでもらうことを目的とした教材の制作と配布を行っている。2018年からは事業名を「夏のだねSEEdS: Summer Enjoyment & Education Set」とし、18歳以下の来館者に無料配布するとともに、教材を使用したワークショップを開催している。2023年度は、夏季に葉山館で開催されるコレクション展「加納光於 色(ルウパ)、光、そのはためくもの」に合わせ、加納光於の作品や技法への理解を深める教材とワークショップを実施することとし、普及課の担当学芸員の間で話し合いが進められた。その中で、加納が用いたデカルコマニーの技法には、作者もコントロールのできない、偶然にできる色や形の面白さがあるため、その制作過程を体験することで創作の楽しさを感じてもらえるのではないかという意見にまとまった。さらに、絵具を塗った紙を二つに折る方法のデカルコマニーは、小学生以下でも制作したことがあると考えられることと、より加納の制作方法に近いものを体験してもらいたいという理由から、透明シート(プラスチック板)で絵具を塗り広げる手法を体験できる内容とした。また、出来上がった作品を自宅に展示して家族に見せたり、長く楽しんだりできるよう、壁掛けと卓上置きが可能なA5判のケースを製作し、教材のパッケージも兼ねることとした。これまでの「夏のだね」では、外部のデザイナーにデザインを委託することが多かったが、今回は広報印刷物や解説書のデザインも含め、担当学芸員が話し合いながら制作を進めていった。完成した「夏のだね'23」でかまこまに〜ってな〜に?」を使った鑑賞と創作のワークショップは、葉山館と鎌倉別館で計6回開催され、小学生を中心に65名の参加があった(24頁の図4、5)。今年度は葉山町教育委員会の後援を得て、葉山町の全ての小学生に広報印刷物を配布することができたため、葉山町からの参加者が多いことが予想されたが、参加者アンケートの結果、30名と半数近くが葉山町からの参加であった。一方、同じく近隣である逗子市からは2名、鎌倉市からは6名の参加に留まったことから、広報印刷物を全校配布する告知効果は明らかであるため、次年度以降は逗子市内などでも配布できるよう準備を進めている。参加者アンケートからは、作品の鑑賞と創作を組み合わせたことにより、創作の意欲が増した、作品鑑賞をより楽しめたという声や、自宅で絵具を使う機会がないので良かったという感想が多く聞かれた。美術館ならではの鑑賞と創作の体験を、今後もより多くの子どもたちに届けられるよう、ワークショップの内容や告知方法について検討していく。

当館では2018年、正方形の紙から円形を切り出した教材「○と□」を制作し、小学校や地域の体験学習施設などでの造形ワークショップで使用してきた(『2018年度年報』参照)。2022年

度には、武山支援学校との連携事業をきっかけに、教材「色と形をならべてみよう—○△□—」を制作した(『2022年度年報』参照)。この教材は、12色のシール色紙から、さまざまな大きさの円、三角形、四角形を切り出したもので、好きな色のシールのセットを選び、画用紙の上に自由に並べて制作する(図1、2)。「○と□」と同様に、地域の社会福祉法人の事業所に製作を委託している教材で、ハサミを使わず、年齢や障害の有無に関わらず安全に制作ができることから、当館のインクルーシブ事業「むすんでひらいてプロジェクト」や研修等での活用が見込まれていた。2023年度は「○と□」と「色と形をならべてみよう—○△□—」の2つの教材を中心に、「ポータブル・アートミュージアム」や「夏のだね'23」等も使用したワークショップを、当館インクルーシブ事業の一環として、県内6校の児童・生徒を対象に実施した(『2023(令和5)年度教育普及事業一覧』、22～23頁)。2022年度の同プロジェクトの造形ワークショップの実績が1校であったことを鑑みると、新型コロナウイルス感染症の流行に一定の収束が見られたことも一因ではあるが、前年度までに力を入れていた教材開発の成果が、学校連携事業の増加に結びついていると考えられる。教員研修の場でこれらの教材を紹介し、先生たちにワークショップを体験してもらうことにより、出張授業の依頼など新たな学校との連携に繋がるという良い循環が生まれている。今後も、地域の学校との連携事業を継続して実施していくことで、美術館での学びや楽しみ、出会いと発見を後押しする役割を果たしていきたいと考えている。



図1



図2

# 作品蒐集管理活動

2023(令和5)年度 購入・寄贈状況 2024(令和6)年3月31日現在

(作品)  
 購入件数 3件  
 新規寄贈件数 350件  
 収蔵総件数 16,217件

(資料)  
 新規寄贈件数 11件

2023(令和5)年度 寄託状況 2024(令和6)年3月31日現在

(作品・資料)  
 寄託総件数 1,179件

## 2023(令和5)年度 新収蔵作品一覧

[凡例]

- ・寸法の単位はcmである。
- ・版画などのイメージ寸法と支持体寸法および変更がある場合の前後の制作年をそれぞれ「/」で区切り、記載した。
- ・印刷物の制作年について、印刷年(原画制作年)で表記した。
- ・署名年号は、書き込みの位置とあわせて記した。
- ・■は判読不能/困難文字を示す。

### 購入

作家名	作品名	制作年	材質・技法	寸法(縦・高)	寸法(横・幅)	寸法(厚・奥行)	署名年記・書き込み等	備考
-----	-----	-----	-------	---------	---------	----------	------------	----

#### 彫刻・インスタレーション

沖 潤子	Feeling unsaid and unspoken words 01	2019	絹、麻、木綿、木箱	24.0	15.0	9.0		
------	--------------------------------------	------	-----------	------	------	-----	--	--

#### 版画(日本)

石原陸郎	まるい命	2023	木版画、土佐和紙	165.0/169.8	167.0/172.0			第58回神奈川県美術展 神奈川県立近代美術館賞
------	------	------	----------	-------------	-------------	--	--	----------------------------

#### 油彩画・アクリル画など

菊川恵子	タビノカケラ	2023	油絵具、カンヴァス	191.5	159.4		右下:keiko	第62回神奈川県女流美術家 協会展 神奈川県立近代美 術館賞
------	--------	------	-----------	-------	-------	--	----------	--------------------------------------

### 寄贈

〈青木裕子氏寄贈〉

#### 油彩画・アクリル画など

横尾龍彦	赤い実	1966	油絵具、カンヴァス	41.1	32.1		画面右下:T. Yokô 裏面:66/ T. Yokô/"赤い実"	
------	-----	------	-----------	------	------	--	--------------------------------------	--

〈麻生マユ氏寄贈〉

#### 素描・水彩画など

麻生三郎	ソルジェニーツィン著『煉獄のなかで』 上 カバー原画	1960年代	インク、鉛筆、紙	15.7/30.6	23.0/42.3		右下:ASO	
麻生三郎	ソルジェニーツィン著『煉獄のなかで』 下 カバー原画	1960年代	インク、鉛筆、紙	16.0/31.5	23.7/41.3		右下:ASO	
麻生三郎	ソルジェニーツィン著『ガン病棟』上 カバー原画	1960年代	インク、紙	19.8/31.3	29.5/41.6		右下:ASO	
麻生三郎	ソルジェニーツィン著『ガン病棟』下 カバー原画	1960年代	インク、紙	21.5/31.6	28.9/41.2		右下:ASO	
麻生三郎	ソルジェニーツィン著『マトリョーナ の家』表紙原画	1960年代	インク、鉛筆、紙	15.0/31.6	10.5/37.5		右下:ASO	
麻生三郎	野間宏著『青年の環』挿絵原画	1960年代	インク、紙	19.3/31.0	13.7/22.0		中央下:A	
麻生三郎	井上靖著『夏草冬濤』表紙原画	1960年代	インク、紙	20.6/31.5	32.0/40.8		右下:ASO	
麻生三郎	福永武彦著『夜の三部作』(普及版)表紙 原画	1960年代	インク、鉛筆、紙	15.0/16.3	10.6/11.2		右下:ASO	
麻生三郎	福永武彦著『夢見る少年の昼と夜』表 紙原画	1960年代	インク、鉛筆、紙	15.5/31.5	11.0/41.3		右下:ASO	
麻生三郎	「お手帳」1973年 表紙裏表紙原画	1972	インク、鉛筆、紙	14.5/31.4	19.5/41.3		左下:A	
麻生三郎	「お手帳」1973年 見返し原画	1972	インク、鉛筆、紙	14.5/28.0	19.5/41.3			
麻生三郎	『帖面』48号 表紙原画	1972	インク、鉛筆、紙	16.2/31.5	31.5/41.3		右下:ASO	
麻生三郎	『帖面』48号 目次、扉、奥付原画	1972	インク、鉛筆、紙	3.5/16.5、 4.0/16.0、 3.3/15.3	4.0/16.7、 5.3/16.0、 2.0/17.2		右下:A 右下:A 右下:A	
麻生三郎	『帖面』49号 表紙裏表紙原画	1972	インク、鉛筆、紙	16.2/31.5	31.5/41.2		右下:ASO	

作家名	作品名	制作年	材質・技法	寸法(縦・高)	寸法(横・幅)	寸法(厚・奥行)	署名年記・書込み等	備考
麻生三郎	『帖面』49号 扉、目次、奥付原画	1972	インク、鉛筆、紙	3.0/14.7、 3.5/18.0、 3.0/17.5	4.5/16.8、 4.0/15.3、 3.0/17.5		右下:A 中上:A 右下:A	
麻生三郎	『帖面』50号 表紙原画	1972	インク、鉛筆、紙	16.2/31.5	31.5/41.4		右下:ASO	
麻生三郎	『帖面』50号 目次、扉、奥付原画	1972	インク、鉛筆、紙	3.2/18.9、 4.0/13.8、 4.0/18.0	5.5/18.1、 7.2/18.5、 4.5/18.7		中下:A 右下:A	
麻生三郎	『帖面』51号 表紙原画	1973	インク、鉛筆、紙	16.3/31.5	31.5/41.5		右下:ASO	
麻生三郎	『帖面』51号 扉、目次、奥付原画	1973	インク、鉛筆、紙	5.3/17.8、 4.5/16.3、 5.3/16.7	5.5/17.1、 4.5/14.5、 5.0/12.3		右下:A 右下:A 左下:A	
麻生三郎	『帖面』54号 扉、目次、奥付原画	1974	インク、鉛筆、紙	5.8/18.0、 9.0/18.2、 3.5/18.1	4.7/14.3、 2.8/13.0、 4.0/12.0		右下:A 右下:A 右下:A	
麻生三郎	「お手帳」1977年 見返し原画	1976	インク、鉛筆、紙	15.0/31.6	18.8/41.5		右下:A	

<入江 親氏寄贈>

油彩画・アクリル画など

入江 親	海のテラス	2022	油絵具、カンヴァス	162.1	259.1		右下:Kan 裏面:2022/海のテラス/入江親	
------	-------	------	-----------	-------	-------	--	--------------------------	--

<宇井浩一氏寄贈>

油彩画・アクリル画など

横尾龍彦	聖女	1966	油絵具、カンヴァス	72.7	60.8		画面左下:T. Yokō 裏面: "聖女./66/ T. Yokō	
------	----	------	-----------	------	------	--	--------------------------------------	--

<内山小太郎氏寄贈>

日本画

中島清之	[孔雀]	不詳	紙本着彩	89.0	104.5		右上:清之	
------	------	----	------	------	-------	--	-------	--

<沖 潤子氏寄贈>

彫刻・インスタレーション

沖 潤子	Anna Maria	2016	絹、麻、綿、インク、紙、木箱	95.0	36.0	10.0		
------	------------	------	----------------	------	------	------	--	--

<加納光於氏寄贈>

油彩画・アクリル画など

加納光於	赤の中の緑	1982	油絵具、カンヴァス	193.9	130.0			
加納光於	旅と種子と II	1983	油絵具、カンヴァス	130.9	90.6			
加納光於	遠い手へ	1983	油絵具、カンヴァス	112.0	73.9			
加納光於	待つことそれゆえに II	1983	油絵具、カンヴァス	130.4	89.3			
加納光於	導く穂先のように II	1990-91	油絵具、カンヴァス	162.0	112.0			
加納光於	BB—雲形の遍歴者	1999	油絵具、カンヴァス	162.0	97.0			
加納光於	serpentinata I	2004	油絵具、カンヴァス	227.3	363.6			
加納光於	充ちよ、地の髭 I	2005-06	油絵具、カンヴァス	194.0	390.9			
加納光於	ルーパー、降り注ぐもの I	2013	油絵具、カンヴァス	162.0	130.3			
加納光於	遠雷—(あるいは見失った野兎)のための I 2020-21		油絵具、カンヴァス	138.5	201.4			4枚組
加納光於	遠雷—(あるいは見失った野兎)のための II 2021-22		油絵具、カンヴァス	134.5	210.2			4枚組

彫刻・インスタレーション

加納光於	水夫イシュメールよ、お前が波頭に視たものを語れ VIII	1998	木、金属	199.7	54.7	30.9		
------	------------------------------	------	------	-------	------	------	--	--

素描・水彩画など

加納光於	水夫イシュメールよ、お前が波頭に視たものを語れ I スケッチ(1)	1997	鉛筆、紙	26.3	37.0		右下:M.K. [印]	
加納光於	水夫イシュメールよ、お前が波頭に視たものを語れ I スケッチ(2)	1997	鉛筆、水彩、紙	25.7	36.0		右下:M.K. [印]	
加納光於	水夫イシュメールよ、お前が波頭に視たものを語れIII スケッチ(3)	1997	鉛筆、水彩、紙	25.7	36.0		右下:M.K. [印]	

版画(日本)

加納光於	SOLDERED BLUE	1965	メタルプリント、紙	56.6/76.0	38.5/56.0		左下:Ep. d'artiste 右下:M.Kano	
加納光於	SOLDERED BLUE	1965	メタルプリント、紙	68.5/76.0	51.5/56.0		左下:Ep. d'artiste 右下:M.Kano	
加納光於	PENINSULAR 半島状の! No.7	1967	メタルプリント、紙	76.0	56.5		左下:Ep. d'artiste 右下:M.Kano	
加納光於	PENINSULAR 半島状の! No.25	1967	メタルプリント、紙	各76.0	各55.5		左・左下:2/2 M.Kano. 各右辺:peninsular! No.8V	3枚組

作家名	作品名	制作年	材質・技法	寸法(縦・高)	寸法(横・幅)	寸法(厚・奥行)	署名年記・書込み等	備考
〈川崎麻児氏寄贈〉								
<b>素描・水彩画など</b>								
横尾龍彦	獣の名は666なり	1970年代	グアッシュ、和紙	48.5	31.5		画面右下:T. Yokō	日本画家・川崎春彦旧蔵
横尾龍彦	奇異な火	1970年代後半	グアッシュ、和紙	22.5	28.7		画面左下:T. Yokō	日本画家・川崎春彦旧蔵
<b>油彩画・アクリル画など</b>								
横尾龍彦	生命の水	1970年代後半	油絵具、カンヴァスボード	13.8	17.8		画面左下:T. Yokō 裏面:生命の水	日本画家・川崎春彦旧蔵
〈今道子氏寄贈〉								
<b>写真・印刷物</b>								
今道子	キャベツ+寝台(1)	1979	ゼラチン・シルバー プリント、紙	61.0(シート 寸、以下同)	51.0(シート 寸、以下同)		裏面:1979 1/75 今道子	
今道子	鱈+サンダル	1979	ゼラチン・シルバー プリント、紙	51.0	61.0		裏面:1979 1/75 Michiko Kon	
今道子	キャベツ氏	1981	ゼラチン・シルバー プリント、紙	61.0	51.0		裏面:1981 1/75 Michiko Kon	
今道子	セルフポートレート#1	1983	ゼラチン・シルバー プリント、紙	61.0	51.0		裏面:1983 1/75 Michiko Kon	
今道子	鱈+かすみ草	1984	ゼラチン・シルバー プリント、紙	61.0	51.0		裏面:1984 1/75 Michiko Kon	
今道子	金魚+イクラ+歯ブラシ	1985	ゼラチン・シルバー プリント、紙	61.0	51.0		裏面:1985 1/75 Michiko Kon	
今道子	鱈+帽子	1986	ゼラチン・シルバー プリント、紙	61.0	51.0		裏面:1986 1/75 Michiko Kon	
今道子	小鱈+ブラジャー	1986	ゼラチン・シルバー プリント、紙	61.0	51.0		裏面:1986 1/75 今道子	
今道子	鮭+鱈+ハイヒール	1987	ゼラチン・シルバー プリント、紙	61.0	51.0		裏面:1987 1/75 今道子	
今道子	鳥賊+スニーカー	1989	ゼラチン・シルバー プリント、紙	61.0	51.0		裏面:1989 1/75 今道子	
今道子	黍魚子+ランジェリー	1989	ゼラチン・シルバー プリント、紙	61.0	51.0		裏面:1989 1/75 Michiko Kon	
今道子	蛸+メロン	1989	ゼラチン・シルバー プリント、紙	51.0	61.0		裏面:1989 1/75 今道子	
今道子	鱈+鳥足	1990	ゼラチン・シルバー プリント、紙	51.0	61.0		裏面:1990 1/75 今道子	
今道子	向日葵+潤目鱈	1990	ゼラチン・シルバー プリント、紙	61.0	51.0		裏面:1990 1/75 今道子	
今道子	潤目鱈+エプロン	1994	ゼラチン・シルバー プリント、紙	51.0	61.0		裏面:1994 1/75 Michiko Kon	
今道子	鳥賊+椅子	1995	ゼラチン・シルバー プリント、紙	61.0	51.0		裏面:1995 1/75 Michiko Kon	
今道子	十字架+Man	1998	ゼラチン・シルバー プリント、紙	61.0	51.0		裏面:1998 1/75 今道子	
今道子	鱈+秋刀魚+如雨露	1999	ゼラチン・シルバー プリント、紙	61.0	51.0		裏面:1999 1/75 今道子	
今道子	種村季弘氏	2000	ゼラチン・シルバー プリント、紙	51.0	41.0		裏面:2000 2/15 今道子	
今道子	織馬+足袋	2010	ゼラチン・シルバー プリント、紙	41.0	51.0		裏面:2010 5/15 今道子	
今道子	馬三輪車	2011	ゼラチン・シルバー プリント、紙	51.0	41.0		裏面:2011 2/15 今道子	
今道子	甘鯛とレアメタル	2013	ゼラチン・シルバー プリント、紙	51.0	41.0		裏面:2013 2/15 今道子	
今道子	白うさぎと目(1)	2013	ゼラチン・シルバー プリント、紙	41.0	51.0		裏面:2013 5/15 今道子	
今道子	Self portrait in Mexico #6	2016	ゼラチン・シルバー プリント、紙	51.0	41.0		裏面:2016 1/15 今道子	
今道子	パイナップル ジャンパー	2017	ゼラチン・シルバー プリント、紙	51.0	41.0		裏面:2017 2/15 今道子	
今道子	ベチュコートの中	2017	ゼラチン・シルバー プリント、紙	51.0	41.0		裏面:2017 1/15 今道子	
今道子	山羊少年(2)	2017	ゼラチン・シルバー プリント、紙	51.0	41.0		裏面:2017 1/15 今道子	
今道子	点滴	2018	ゼラチン・シルバー プリント、紙	51.0	41.0		裏面:2018 1/15 今道子	
今道子	Yotsuya Simon #6	2019	ゼラチン・シルバー プリント、紙	41.0	51.0		裏面:2019 1/15 今道子	
今道子	泉少女	2019	ゼラチン・シルバー プリント、紙	51.0	41.0		裏面:2019 1/15 今道子	
今道子	蛇少年	2019	ゼラチン・シルバー プリント、紙	51.0	41.0		裏面:2019 1/15 今道子	

作家名	作品名	制作年	材質・技法	寸法(縦・高)	寸法(横・幅)	寸法(厚・奥行)	署名年記・書込み等	備考
今 道子	鳥王子	2020	ゼラチン・シルバ ープリント、紙	51.0	41.0		裏面:2020 1/15 今 道子	
今 道子	巫女	2020	ゼラチン・シルバ ープリント、紙	51.0	41.0		裏面:2020 1/15 今 道子	
〈酒井忠康氏寄贈〉								
版画(西洋)								
カディシュマン、メナシュ 羊飼いの(ファン・ゴッホへのオマージュ)	1995	シルクスクリン、紙	80.3/94.1	57.7/71.6			左下:FOR SAKAI TADAYASU & KUMIKO LOVE Menasche Kadishman 3-2-2001	
〈西野朋子氏寄贈〉								
油彩画・アクリル画など								
高間惣七	カナリヤ	1938	油絵具、カンヴァス、 合板	37.5	45.5		左下:1938 惣七 裏面:カナリヤ	
高間惣七	不詳(蘭)	1944	油絵具、合板	45.5	37.5		右下:二六〇四 惣七	
高間惣七	不詳(インコ)	不詳	油絵具、板	23.7	32.9		右下:惣七	
〈堀江 栞氏寄贈〉								
日本画								
堀江 栞	輪郭 #9	2020	膠、岩絵具、綿布、和紙	53.0	41.0		右上:SHIORI HORIE	
〈増尾典子氏寄贈〉								
素描・水彩画など								
麻生三郎	八幡にて	1939	水彩、墨、紙	27.1	24.2		右上:寒浪 麻生三郎 [印] 渡辺先生 一九三九年五月	
麻生三郎	夏雲が東の空にある夕方	1945	水彩、鉛筆、紙	13.6	19.2		左下:A 裏面:夏雲が東の空にある夕方 昭和二十年七月二十一日 麻生三郎	
麻生三郎	名も知れぬ美しい花	1945	水彩、鉛筆、紙	19.1	13.7		右下:ASO 裏面:名も知れぬ美しい花 麻生三郎 昭和二十年七月十一日	
油彩画・アクリル画など								
麻生三郎	小菊	1943	油絵具、板	15.5	22.8		右下:ASO	
麻生三郎	パンジー	1944	油絵具、板	21.5	14.5		右下:ASO 裏面:一九四四年春	
麻生三郎	花	1946	油絵具、カンヴァス	95.6	67.0		右下:ASO 裏面:一九四六夏 麻生三郎	
〈水沢 勉氏寄贈〉								
版画(日本)								
柄澤 齊	肖像XXVIII 李賀	1985/2020	木口木版、手彩色、紙	12.5/37.8	7.0/28.8		画面中下:H.Karasawa 左下:肖像 XXVIII 李賀 中下:手彩色ヴァリエ ーション 右下:1985/2020	
柄澤 齊	肖像L 関根正二	2020	木口木版、手彩色、紙	17.5/30.0	12.5/25.5		画面左下:芍 右下:Karasawa 齊 左下:肖像 L 関根正二 右下:2020	
水島爾保布	阪神名勝図絵 六甲山	1917	木版、紙	29.9/37.8	18.5/25.7		左:阪神名勝図絵 六甲山 水島 爾保布	
版画(西洋)								
ヤンセン、ホルスト	湿原の第一理論	1988	エッチング、アクアチ ント、和紙	59.8/71.1	49.8/59.1		右下:29/100 HJ 88 左下:1. Theorie einer Wiese 9. 7. 88 下辺中央: Love to 直	
素描・水彩画など								
横尾龍彦	岸辺の沈黙	1985頃	グアッシュ、紙	58.9	38.0		右下:T. Yokō	
〈水野千依氏寄贈〉								
版画(日本)								
加納光於	稲妻捕り L-No.21	1977	カラー・リトグラフ、紙	61.5	49.5		右下: M.Kano 左下:9/15 松井茂旧蔵(以下同)	
柄澤 齊	『死と変容』第1集 夜 18 地の房	1986-1988	木口木版、紙	15.5/37.0	21.8/45.4		左下: 46/70 右下: Hitoshi Karasawa	
柄澤 齊	『死と変容』第1集 夜 19 地の鉢	1986-1988	木口木版、紙	16.2/37.0	20.5/45.4		左下: 55/70 右下: Hitoshi Karasawa	
菊池伶司	Finger Sample	1967	エッチング、紙	19.7/32.5	12.5/25.0		左下: 5/30 右下: Reiji [スタンプ]	刷り: 林 達夫
菊池伶司	Finger Sample	1968	エッチング、アクアチ ント、紙	36.2/41.0	39.7/52.7		左下: 1/15 中下: Finger Sample 右下: Reiji '68	作家による刷り(1968年2月)

作家名	作品名	制作年	材質・技法	寸法(縦・高)	寸法(横・幅)	寸法(厚・奥行)	署名年記・書込み等	備考
若林 奮	『地方に於ける小気象』崖の凹	1977	ドライポイント、アルシュ紙	29.5/45.8	36.0/63.0		左下:1/30 I.WAKABAYASHI '77	発行・刷り: 林グラフィックプレス 発行年: 1978
若林 奮	『BLACK COTTON』No.1	1989	リトグラフ、アルシュ紙	100.0	75.5		右下:30/30 I.WAKABAYASHI	発行: AC&T Corporation 刷り: Edition Works
若林 奮	『BLACK COTTON』No.9	1989	リトグラフ、アルシュ紙	98.5	74.5		左下:H.C. I.WAKABAYASHI	発行: AC&T Corporation 刷り: Edition Works
<b>版画 (西洋)</b>								
エルンスト, マックス	愛の歌	1958	リトグラフ、紙	31.5	24.4			発行: XXe Siècle, Paris
ベルメール, ハンス	道徳小論	1968	カラーエッチング、紙	27.5/38.0	21.0/28.5		右下: Bellemer	
〈宮田敏子氏寄贈〉								
<b>彫刻・インスタレーション</b>								
若林 奮	マニキュア・テキスト 桜のはなびら	1963頃	鉄	17.5	13.7	4.5		
〈森 要造・森眞理子氏寄贈〉								
<b>日本画</b>								
梅崎雲嶺	溪閣秋吟図	1929	紙本墨画	179.0/252.0	79.0/100.0		左上: 読画黙楽[印]/溪閣秋吟/己巳菊月雲嶺逸人/梅崎之印[印] 雲嶺[印]	
梅崎雲嶺	蓬萊朝陽図	1940	紙本着色	170.4/283.0	85.5/283.0		左上: 読画黙楽[印]/蓬萊朝陽/皇紀二千六百年即 /昭和庚辰十五年秋/雲嶺 梅崎之印[印] 雲嶺[印]	
梅崎雲嶺	蓬萊山水図(未完)	制作年不詳	紙本着色	168.5/274.5	84.3/169.3			
〈山本正道氏寄贈〉								
<b>彫刻・インスタレーション</b>								
山本正道	腕組み	1969	テラコッタ	53.0	30.0	25.0		背面: Accademia Belle Arti di Roma/1969/ Masamichi Yamamoto
山本正道	雲の形	1973 (2008年鋳造)	ブロンズ	49.0	105.0	42.0		足の裏: '08 M. YAMAMOTO
山本正道	裸婦	1979	檜、木屎	43.0	7.5	8.5		側面: NEW YORK/ MASAMICHI YAMAMOTO/ 1979
山本正道	こもれび	2002	大理石	49.0	113.0	10.0		右下: '02 Masamichi Yamamoto
山本正道	こだま	2009	ブロンズ	68.0	70.0	24.0		背面: 2009/ Masamichi Yamamoto
〈横尾嘉子氏寄贈〉								
<b>油彩画・アクリル画など</b>								
横尾龍彦	不可知の雲	1985頃	油絵具、板	90.6	59.6			画面右下: T. Yokô 裏面上部: 不可知の雲 / Gehcimmic-Volle Wolke / T. Yokô 裏面下部: 1984
〈横河電機株式会社寄贈〉								
<b>日本画</b>								
小泉淳作	建長寺天井画《雲龍図》小下図	1997	紙本墨画	212.0	273.0			
〈吉村洋子氏寄贈〉								
<b>素描・水彩画など</b>								
池下昌徳	浮遊する世界	1967	インク、紙	22.0/37.6	37.3/53.3		右下: M.ikeshta	
相笠昌義; 小畑 勉; 小松弘忠; 島 州一; 鈴鹿芳康; 前島国長; 松本 奨; 溝淵 尚; 若江漢字	COMPACT GALLERY 第1回展・Symbol	1968	インク、紙等	20.0	20.0			
相笠昌義; いわた・きよし; 小畑 勉; 木村光佑; 日下賢二; 島 州一; 栃木順子; 船坂芳助; 細田政義; 松本 奨; 渡辺豊重	COMPACT GALLERY 第3回展・Miniature (あなたへのプレゼント)	1969	インク、紙等	20.0	20.0			
<b>版画 (日本)</b>								
相笠昌義	文明嫌悪症連作・ベリベリビィズィ	1968	エッチング、紙	40.5/57.5	34.5/47.6		右下: II-1968-M.アイガサ	
田辺和郎	楽園シリーズ 群青体	1979	シルクスクリーン、紙	44.7	64.2		左下: '79 2/50 右下: KAZURO. TANABE	
<b>写真・印刷物</b>								
安齊重男	「HOT BREATH 地下室にひそむ魚たちの熱い吐息 実験室とメディアの箱」1977 サウンド・パフォーマンスの吉村弘	1977	ゼラチン・シルバー・プリント、紙	25.5	20.2			
安齊重男	「HOT BREATH 地下室にひそむ魚たちの熱い吐息 実験室とメディアの箱」1977 サウンド・パフォーマンスの鈴木昭男(左)と吉村弘(右)	1977	ゼラチン・シルバー・プリント、紙	20.2	25.5			

作家名	作品名	制作年	材質・技法	寸法(縦・高)	寸法(横・幅)	寸法(厚・奥行)	署名年記・書込み等	備考
吉村 弘	楽譜〈音・群青体〉〔田辺和郎の個展 (8月21日～27日、日動サロン、銀座)の ための会場音楽〕	1979	鉛筆、五線譜	52.5/72.2	38.0/54.2		右上:hiroshi yoshimura AUG 19 1979	
〈渡辺紀子氏寄贈〉								
<b>版画 (日本)</b>								
渡辺千尋	一枚の森〔試刷り〕	1979	エングレーヴィング、紙	103.3	72.9			
<b>印刷物 (ポスター)</b>								
アダムツィク、ミロスワフ	命令027	1988(1988)	印刷、紙	95.6	67.0		左下:Adamczyk 88	
ヴァウクスキ、ヴィエスワフ	雨女	1981(1981)	印刷、紙	95.7	67.1		右下:W. Wałkuski 81	
ヴァウクスキ、ヴィエスワフ	それは6月に始まった	1982(1982)	印刷、紙	97.5	67.0		右辺:Wałkuski 82	
ヴァウクスキ、ヴィエスワフ	あなたの涙は無駄だ	1984(1984)	印刷、紙	96.8	66.7		右辺:Wałkuski '84	
ヴァウクスキ、ヴィエスワフ	アキレウスと乙女たち	1985	印刷、紙	66.8	97.5			
ヴァウクスキ、ヴィエスワフ	カラヴァッジョ	1986	印刷、紙	66.5	97.2		右下:WALKUSKI	
ヴァウクスキ、ヴィエスワフ	カラヴァッジョ	1986	印刷、紙	66.5	97.2		左下:WALKUSKI '86	
ヴァウクスキ、ヴィエスワフ	中年	1987(1986)	印刷、紙	67.0	96.3		左下:WALKUSKI '86	
ヴァウクスキ、ヴィエスワフ	まむし獵師	1987(1987)	印刷、紙	66.9	96.0		左辺:Wałkuski '87	
ヴァウクスキ、ヴィエスワフ	山猫	1987(1987)	印刷、紙	94.6	67.0		右下:WALKUSKI '87	
ヴァウクスキ、ヴィエスワフ	やり直して…	1987(1987)	印刷、紙	68.2	46.9		右辺:WALKUSKI '87	
ヴァウクスキ、ヴィエスワフ	侠女十三妹	1988	印刷、紙	96.6	67.3		左下:WALKUSKI	
ヴァウクスキ、ヴィエスワフ	不幸の兆し	1988(1988)	印刷、紙	68.0	47.8		左下:WALKUSKI '88	
ヴァウクスキ、ヴィエスワフ	クロード・シャブロール監督映画 仮面	1988(1988)	印刷、紙	66.7	95.9		右辺:WALKUSKI '88	
ヴァウクスキ、ヴィエスワフ	焼けた家の秘密	1988(1988)	印刷、紙	67.0	96.8		右下:WALKUSKI '88	
ヴァウクスキ、ヴィエスワフ	自由の幻想	1989(1989)	印刷、紙	65.2	93.1		右辺:WALKUSKI '89	
ヴァウクスキ、ヴィエスワフ	秋にさようなら	1990	印刷、紙	67.2	95.8		下辺中央:WALKUSKI	
ヴァウクスキ、ヴィエスワフ	ジャガイモの埋葬	1990	印刷、紙	67.5	95.7		右下:WALKUSKI	
ヴァウクスキ、ヴィエスワフ	テレサ・コトラルチク監督作品 賭け	1990	印刷、紙	96.3	67.7		右下:WALKUSKI	
ヴァウクスキ、ヴィエスワフ	H. Ch. アンデルセン 火打ち箱	1990	印刷、紙	66.8	93.4		下辺中央:Wałkuski	
ヴァウクスキ、ヴィエスワフ	ウィリアム・シェイクスピア リア王	1991	印刷、紙	96.5	67.5		右辺:Wałkuski	
ヴァウクスキ、ヴィエスワフ	果たして彼らが馬にとどめをさした のか?	1991	印刷、紙	96.2	67.1		左辺:Wałkuski	
ヴァウクスキ、ヴィエスワフ	ヴォイチェフ・ノヴァク監督映画 漁色家の死	1991	印刷、紙	95.7	67.4		右辺:WALKUSKI	
ヴァウクスキ、ヴィエスワフ	ポーランド・ポスター・サロン	1991(1991)	印刷、紙	67.2	95.9		下辺中央:WALKUSKI '91	
ヴァウクスキ、ヴィエスワフ	ボンゴフスキ、サドフスキ、スタシス、 ヴァウクスキによるポーランドのポ スター	1991	印刷、紙	95.9	67.0		右辺:WALKUSKI	
ヴァウクスキ、ヴィエスワフ	イグナツィ・ヤン・パデレフスキ マンル	1991	印刷、紙	96.5	67.5		左辺:WALKUSKI	
ヴァウクスキ、ヴィエスワフ	存在しないポスター・ギャラリー	1992	印刷、紙	67.5	97.5		右辺:WALKUSKI	
ヴァウクスキ、ヴィエスワフ	ヴィトカツィの日	1995	印刷、紙	93.5	66.1		右辺:WALKUSKI	
ヴァウクスキ、ヴィエスワフ	ポーランド・ポスターの巨匠たち	1996	印刷、紙	86.5	60.5		右辺:WALKUSKI	
ヴァウクスキ、ヴィエスワフ	第6回演劇ポスター国際ビエンナーレ	1997	印刷、紙	56.5	81.1		右辺:WALKUSKI	
ヴァウクスキ、ヴィエスワフ	ヴィエスワフ・ヴァウクスキ クシ シュトフ・ディド・コレクシオンの演 劇ポスター	1998	印刷、紙	98.0	68.0		右辺:WALKUSKI	
ヴァシレフスキ、ミェチスワフ	りんごゲーム	1978	印刷、紙	97.1	67.2		右下:M. Wasilewski	
ヴァシレフスキ、ミェチスワフ	コブラ	1979	印刷、紙	96.1	66.0		右上:M. Wasilewski	
ヴァシレフスキ、ミェチスワフ	依頼恋愛	1983	印刷、紙	93.4	66.8		中央下:M. Wasilewski	
ヴァシレフスキ、ミェチスワフ	チャチャ	1983	印刷、紙	68.0	96.8		上辺中央:M. WASILEWSKI	
ヴァシレフスキ、ミェチスワフ	裏切りと復讐	1988	印刷、紙	67.0	95.3		右下:M. WASILEWSKI	
ヴァシレフスキ、ミェチスワフ	冬の嵐	1988	印刷、紙	67.5	96.1		下辺中央:M. WASILEWSKI	
ヴァニェク、ヘンリク	フォート13	1983	印刷、紙	94.8	66.8		右下:Henryk Waniek	
ウォボジニスキ、アンジェイ	小さなドラマ	1959(1959)	印刷、紙	85.7	58.5		左下:LOBODZIŃSKI 59	
ウルバニェツ、マチェイ	サーカス	1978	印刷、紙	96.2	66.6		左下:URBANIEC	
エイドリゲヴィチウス、スタシス	無題(鳥の埋葬)	1986(1986)	印刷、紙	84.0	64.8		下辺右:1986 Stasys	
エイドリゲヴィチウス、スタシス	1987年 第2回バリ国際ポスター・ サロン	1987	印刷、紙	92.4	65.4		右辺:Stasys	
エイドリゲヴィチウス、スタシス	1987年 第2回バリ国際ポスター・ サロン	1987	印刷、紙	92.4	65.4		右辺:Stasys	
エイドリゲヴィチウス、スタシス	1956-1965におけるポスターのポー ランド派	1988	印刷、紙	66.9	95.1		右辺:Stasys	
エイドリゲヴィチウス、スタシス	1956-1965におけるポスターのポー ランド派	1988	印刷、紙	66.9	95.1		右辺:Stasys	

作家名	作品名	制作年	材質・技法	寸法(縦・高)	寸法(横・幅)	寸法(厚・奥行)	署名年記・書込み等	備考
エイドリゲヴィチウス, スタシス	上り階段、下り階段	1988	印刷、紙	97.1	66.8		右下:Stasys	
エイドリゲヴィチウス, スタシス	第2回クラクフ・スペイン文化大会	1988	印刷、紙	97.9	67.8		右下:Stasys	
エイドリゲヴィチウス, スタシス	アガサ・クリスティー ねずみとり	1989	印刷、紙	83.7	57.8		下辺右:Stasys	
エイドリゲヴィチウス, スタシス	エコロジー・セミナー	1989	印刷、紙	88.8	65.0		下辺右:Stasys	
エイドリゲヴィチウス, スタシス	グダニスク・ミニヤチュール劇場の40年—1949-1989	1989	印刷、紙	89.5	65.8		右辺:Stasys	
エイドリゲヴィチウス, スタシス	最後のフェリー	1989	印刷、紙	66.9	94.3			
エイドリゲヴィチウス, スタシス	ジョヴァンニ・ボッカッチョ デカメロン	1989	印刷、紙	95.3	66.2		下辺右:Stasys	
エイドリゲヴィチウス, スタシス	ネオカンテス—バロック聖歌隊	1989	印刷、紙	83.8	65.1		中央下:Stasys	
エイドリゲヴィチウス, スタシス	アルフレッド・ジャリ ユビュ王	1990	印刷、紙	67.5	95.6		右上:Stasys	
エイドリゲヴィチウス, スタシス	ジャン・アヌイ 素晴らしき人生	1990	印刷、紙	82.3	65.7		右下:Stasys	
エイドリゲヴィチウス, スタシス	第13回現代蔵書票国際ビエンナーレ	1990	印刷、紙	95.5	66.5		右下:stasys	
エイドリゲヴィチウス, スタシス	ポーランド・ポスターにおけるスペイン主題	1990	印刷、紙	92.4	66.4		右下:Stasys	
エイドリゲヴィチウス, スタシス	劇場ポスターにおけるポーランドの古典	1991	印刷、紙	67.0	88.8		右辺:Stasys	
エイドリゲヴィチウス, スタシス	スタシス・エイドリゲヴィチウス クシシュトフ・ディド・コレクションのポスター	1991	印刷、紙	97.5	67.6		右下:stasys	
エイドリゲヴィチウス, スタシス	第14回現代蔵書票国際ビエンナーレ	1992	印刷、紙	90.7	68.0		右下:stasys	
エイドリゲヴィチウス, スタシス	ヤン・ヴィルコフスキ 悲しみと喜びについてのたとえ話	1992	印刷、紙	97.0	67.6		右下:Stasys	
エイドリゲヴィチウス, スタシス	若手声楽家のための第1回スタニスワフ・モニューシュコ記念国際コンクール	1992	印刷、紙	84.8	67.5		右下:Stasys	
エイドリゲヴィチウス, スタシス	スタシス・エイドリゲヴィチウス 蔵書票とポスター	1993	印刷、紙	94.7	64.5		右下:Stasys	
エイドリゲヴィチウス, スタシス	自分の政治を持って	1994	印刷、紙	97.4	67.5		右辺:stasys	
エイドリゲヴィチウス, スタシス	スタシス	1994	印刷、紙	97.7	67.8		右下:Stasys	
エイドリゲヴィチウス, スタシス	第15回現代蔵書票国際ビエンナーレ	1994	印刷、紙	93.9	69.5		右下:stasys	
エイドリゲヴィチウス, スタシス	スタシス	1995	印刷、紙	97.8	67.6		中央上:Stasys	
エイドリゲヴィチウス, スタシス	スタシス	1996	印刷、紙	98.2	68.2		右下:Stasys	
エイドリゲヴィチウス, スタシス	第16回現代蔵書票国際ビエンナーレ	1996	印刷、紙	98.0	68.5		右下:stasys	
エイドリゲヴィチウス, スタシス	家で 第2回民族テレビ映画と番組の国際フェスティバル	1998	印刷、紙	95.9	67.1		右辺:stasys	
エイドリゲヴィチウス, スタシス	モリー・スウィーニー	1998	印刷、紙	97.5	67.7		右下:stasys	
エロル, ヤクブ	テレウキンの死	1975(1975)	印刷、紙	95.9	67.7		下辺中央:J. EROL 75	
エロル, ヤクブ	初婚	1981(1981)	印刷、紙	96.9	67.0		左辺:EROL 81	
エロル, ヤクブ	ゲスト出演	1986(1986)	印刷、紙	97.0	66.6		右下:J.EROL III86	
エロル, ヤクブ	殺人についての短編映画	1988(1988)	印刷、紙	93.8	66.4		右下:■, J. EROL · 88	
オルピンスキ, ラファウ	ラファウ・オルピンスキ近作絵画展	1992	印刷、紙	98.1	68.2			
オルピンスキ, ラファウ	第3回ルードヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン復活祭フェスティバル	1999	印刷、紙	96.8	69.5			
オルピンスキ, ラファウ	ヴェルディ 椿姫	1990年代	印刷、紙	97.3	67.6		左下:Olbinski	
カスティリオーニ, ルイジ	パンを見よ!	1988	印刷、紙	49.5	69.1			
カスティリオーニ, ルイジ	ルイジ・カスティリオーニ——創造的ファンタジーの爆発	1989(1989)	印刷、紙	97.7	65.3		下辺中央:Luigi Castiglioni 1989	
カラルス, ロマン	価値に向かって 第3回全ポーランド芸術的グラフィック・コンクール	1990	印刷、紙	99.7	69.8		左辺:Kalarus ®	
カラルス, ロマン	ポスター・ギャラリー	1990	印刷、紙	95.4	68.0		右辺:Kalarus ®	
カラルス, ロマン	環境を守ろう	1991	印刷、紙	93.8	64.4		左辺:Kalarus ®	
カラルス, ロマン	環境を守ろう	1991	印刷、紙	70.0	100.0		右下:Kalarus ®	
カラルス, ロマン	日本の優れたポスター 100選 1945-1989	1992	印刷、紙	93.8	64.4		左辺:Kalarus ®	
ギオルギ パラシュカイ	思い出してください	不詳	印刷、紙	97.5	67.7			
クノテ, ヤン	ワルシャワ	1954	印刷、紙	85.2	58.0		下辺右:J. KNOTHE	
グルカ, ヴィクトル	アウレリアのための錠剤	1958(1958)	印刷、紙	84.9	57.6		右辺:W. GÓRKA 58	
グルカ, ヴィクトル	ハンカの日記	1963(1963)	印刷、紙	83.1	58.4		右上:Wiktor GÓRKA 63	
グルカ, ヴィクトル	犯罪者と少女	1963(1963)	印刷、紙	84.3	58.7		右上:WIKTOR GÓRKA 63	
グルカ, ヴィクトル	マロナの愛	1966(1966)	印刷、紙	84.0	57.4		右辺:W. GÓRKA 66	
グルカ, ヴィクトル	ユリア、アンナ、ゲノヴェファ	1968(1968)	印刷、紙	82.9	58.3		右上:GÓRKA 68	
グルカ, ヴィクトル	サーカス	1971(1971)	印刷、紙	97.7	65.7		右下:W. GÓRKA 71	
グルカ, ヴィクトル	電話	1971(1971)	印刷、紙	83.9	58.0		右下:GÓRKA 71	

作家名	作品名	制作年	材質・技法	寸法(縦・高)	寸法(横・幅)	寸法(厚・奥行)	署名年記・書込み等	備考
グルカ、ヴィクトル	キャバレー	1973(1973)	印刷、紙	96.0	66.6		右辺:W GÓRKA 73	
グロフスキ、ミェチスワフ	世界のベスト・ポスター	1988	印刷、紙	66.6	94.5		右上:MGórowski	
グロフスキ、ミェチスワフ	ムロジェク 警察	1989	印刷、紙	82.6	58.8			
グロフスキ、ミェチスワフ	ポスター・エキスポ	1990(1984)	印刷、紙	67.0	97.2		左下:MGórowski-84	
グロフスキ、ミェチスワフ	ポスター・ギャラリー	1990(1990)	印刷、紙	67.5	96.3		左辺:MGórowski 90	
グロフスキ、ミェチスワフ	ワレサ	1990(1990)	印刷、紙	67.2	96.0		下辺左:MGórowski 90	
グロフスキ、ミェチスワフ	ヨーロッパ ヨーロッパ	1991(1991)	印刷、紙	97.0	67.5		左辺:M. Górowski 91	
グロフスキ、ミェチスワフ	第2回国際軍隊音楽フェスティバル	1992(1992)	印刷、紙	67.8	97.0		右辺:MGórowski 92	
グロフスキ、ミェチスワフ	ピカソ	1992(1992)	印刷、紙	67.7	97.8		左下:MGórowski-92	
グロフスキ、ミェチスワフ	ジョン・R.ジョンセン 肉体は限られた空間である	1994(1994)	印刷、紙	97.5	68.0		右下:M. Górowski-94	
グロフスキ、ミェチスワフ	第6回ポーランド消化器病学会大会	1994(1994)	印刷、紙	97.4	67.7		左下:M. Górowski 94	
グロフスキ、ミェチスワフ	デュセップ:コ・ラ・コ!	1994(1994)	印刷、紙	99.0	68.7		中央下:M. Górowski 94	
グロフスキ、ミェチスワフ	ピカソ	1995(1995)	印刷、紙	68.0	98.0		右下:M. Górowski 95	
グロフスキ、ミェチスワフ	ポスターの中の絵画芸術展	1997	印刷、紙	98.0	67.8		左下:M. Górowski	
グロフスキ、ミェチスワフ	ジュゼッペ・ヴェルディ シモン・ボツカネグラ	1997(1997)	印刷、紙	98.0	67.7		左下:M. Górowski 97	
グロフスキ、ミェチスワフ	ポスター・ギャラリー	1997(1997)	印刷、紙	68.0	97.8		左下:M. Górowski 97	
グロフスキ、ミェチスワフ	習作'98 第5回国際映画祭	1998(1997)	印刷、紙	99.8	70.1		左下:M. Górowski -1997-	
ザゴルスキ、スタニワフ	街	1958	印刷、紙	83.1	58.5		左辺:S Zagórski	
サドフスキ、ヴィクトル	ザンベジアの夢	1983(1983)	印刷、紙	99.6	67.2		下辺左:SADOWSKI 83	
サドフスキ、ヴィクトル	タデウシュ・トレブコフスキ没後30年記念	1984/1985(1984)	印刷、紙	94.9	66.6		下辺右:SADOWSKI 84	
サドフスキ、ヴィクトル	オオカミの歯痕	1985(1985)	印刷、紙	97.1	67.8		左下:SADOWSKI 85	
サドフスキ、ヴィクトル	第23回国際ショート・フィルム・フェスティバル	1985/1986(1985)	印刷、紙	94.8	67.3		下辺中央:SADOWSKI 1985	
サドフスキ、ヴィクトル	ポスター・ギャラリー	1986(1985)	印刷、紙	93.7	66.5		右辺:SADOWSKI 85	
サドフスキ、ヴィクトル	第9/10回国際ポスター・ビエンナーレ優勝者	1986(1986)	印刷、紙	97.3	66.5		右辺:SADOWSKI 86	
サドフスキ、ヴィクトル	ここは笑わないでください	1988	印刷、紙	96.7	67.0		左辺:SADOWSKI	
サドフスキ、ヴィクトル	ビューヒナー ダントンの死	1988	印刷、紙	97.7	66.8		右辺:SADOWSKI	
サドフスキ、ヴィクトル	モリエール ジョルジュ・ダンダン	1989	印刷、紙	90.8	67.0		右下:SADOWSKI	
サドフスキ、ヴィクトル	LITHOAG	1989	印刷、紙	65.0	95.2		右下:SADOWSKI	
サドフスキ、ヴィクトル	マイ・フェア・レディ	1989(1989)	印刷、紙	67.9	46.8		右辺:SADOWSKI 89	
サドフスキ、ヴィクトル	モリエール 町人貴族	1991	印刷、紙	96.6	67.2		右辺:SADOWSKI	
サドフスキ、ヴィクトル	モーツァルト 魔笛	1992	印刷、紙	67.4	98.0		下辺左:SADOWSKI	
サドフスキ、ヴィクトル	画家の契約	1992	印刷、紙	95.4	67.7		右辺:SADOWSKI	
サドフスキ、ヴィクトル	ピーター・グリーナウエイ ベイビー・オブ・マコン	1993	印刷、紙	98.6	67.0		下辺左:SADOWSKI	
サフカ、ヤン	FAMA(学生芸術祭)	1972	印刷、紙	93.1	67.6			
サフカ、ヤン	サーカス	1975(1975)	印刷、紙	97.5	67.5		左下:JAN SAUKA '75	
ザメツニック、スタニスワフ	鉄道の男	1956	印刷、紙	86.6	61.3		左下:STANISŁAW ZAMECZNIK	
ジェプロフスキ、レシェク	オスカー・ワイルド ニヒリストたち	1989	印刷、紙	67.5	97.2		右辺:ŻEBROWSKI LESZEK	
ジェプロフスキ、レシェク	ポスター・ギャラリー	1992	印刷、紙	67.5	97.5		左辺:L. ŻEBROWSKI	
シフィエジ、ヴァルデマル	ベスト	1972	印刷、紙	83.9	58.6		左上:SWIERZY	
シフィエジ、ヴァルデマル	頭と尾	1974	印刷、紙	84.0	59.0		左下:SWIERZY	
シフィエジ、ヴァルデマル	第6回国際ポスター・ビエンナーレ優勝者	1978	印刷、紙	97.4	66.8			
シフィエジ、ヴァルデマル	サーカス	1979	印刷、紙	98.3	67.9			
シフィエジ、ヴァルデマル	ポスター展	1981	印刷、紙	96.0	66.6		左下:SWIERZY	
シフィエジ、ヴァルデマル	常に警戒しよう	1983	印刷、紙	96.0	65.9		左辺:SWIERZY	
シフィエジ、ヴァルデマル	英雄的な牧歌	1983	印刷、紙	96.4	67.6		左下:swierzy	
シフィエジ、ヴァルデマル	ゴンプロヴィチ 前後ろ	1984	印刷、紙	97.3	67.9		左辺:SWIERZY	
シフィエジ、ヴァルデマル	小さき神の子ら	1988	印刷、紙	96.0	67.2			
シフィエジ、ヴァルデマル	ポスター美術館の20年	1988	印刷、紙	96.5	66.6		左辺:swierzy	
シフィエジ、ヴァルデマル	第12回国際ポスター・ビエンナーレ受賞者	1990	印刷、紙	97.2	67.1			
シフィエジ、ヴァルデマル	セロニアス・モンク	1992	印刷、紙	97.7	68.2		左下:SWIERZY	
シューラ、ヤロスラフ	第18回ショパン・フェスティバル	1977	印刷、紙	98.7	69.7		中央下:SÚRA、底辺右:SÚRA 77	
シューラ、ヤロスラフ	第23回ショパン・フェスティバル	1982	印刷、紙	100.6	69.7		右下:SÚRA	
シューラ、ヤロスラフ	第15回ブルノ・ビエンナーレ	1992(1992)	印刷、紙	100.4	70.2		右下:SÚRA	

作家名	作品名	制作年	材質・技法	寸法(縦・高)	寸法(横・幅)	寸法(厚・奥行)	署名年記・書込み等	備考
シュレツキ, トマシュ	ポーランド・ポスターにおける思想と形式: 1892-1944	1987	印刷, 紙	66.2	95.2		左上: SZULECKI	
シリフカ, カロル	第10回フレデリック・ショパン国際ピアノ・コンクール	1980(1979)	印刷, 紙	96.0	67.1		右辺: K. ŚLIWKA '79	
スタフスキ, マリアン	大河のふたり	1958	印刷, 紙	58.5	85.5			
スタフスキ, マリアン	フェリー	1970	印刷, 紙	84.0	57.2		右下: STACHURSKI	
スタロヴィエイスキ, フランチシェク	クラシンスキ 非神曲	1982(1982)	印刷, 紙	66.7	91.4		左下: F. STAROWIEYSKI '82	
スタロヴィエイスキ, フランチシェク	変身1944-1984	1984	印刷, 紙	67.6	94.7			
スタンキェヴィチ, エウゲニウシュ ゲト	ルバン・ミュージック・キャンプ	1980(1979)	印刷, 紙	94.7	67.0		右下: GET 79	
スタンキェヴィチ, エウゲニウシュ ゲト	ポーランド・ポスターにおける形式と内容 1944-1955	1987(1987)	印刷, 紙	94.8	66.3		下辺左: get '87	
スロコフスキ, イェジ	屍の残念	1964(1964)	印刷, 紙	83.0	57.6		右下: J. SROKOWSKI 64r	
ソーン, マヤ	アウシュヴィッツは警告する	不詳	印刷, 紙	85.4	55.5			
ソハ, ロムアルド	ありがとう、まあまあ	1981	印刷, 紙	68.1	47.0		右下: Socha	
ダシェフスキ, ヴワディスワフ	復讐	1957	印刷, 紙	86.2	59.1		左辺: WD	
チェルニャフスキ, イェジ	スペイン・ポスター	1976(1976)	印刷, 紙	66.0	97.6		左下: J. Czerniawski 76	
チェルニャフスキ, イェジ	サーカス	1978	印刷, 紙	97.0	67.2		右下: J. Czerniawski	
チェルニャフスキ, イェジ	11月の夜	1979(1979)	印刷, 紙	94.3	66.5		右辺: J. CZERNIAWSKI 79	
テレホヴィチ, ヴウオジミェシュ	「巡礼」船長	1986以降	印刷, 紙	96.0	66.1		右下: TERECHOWICZ	
ドレシンスキ, ヤヌシュ	クラクフ国際ユダヤ・フェスティバル 1990	1990	印刷, 紙	64.0	40.1		下辺右: Janusz Dresinski	
ドンヴロウスキ, アンジェイ・オネギン	他方	1962(1962)	印刷, 紙	81.4	57.5		左下: A. DABROWSKI 62	
ドンヴロウスキ, アンジェイ・オネギン	火を浴びて	1964(1964)	印刷, 紙	83.2	57.1		左下: ONEGIN DĄBROWSKI 64	
ニェミェツ=ゴムウカ, ハリナ	アウシュヴィッツ	1990	印刷, 紙	83.5	59.0			
ノイゲバウエル, ヤチェク	トム・ソーヤーの冒険	1969	印刷, 紙	83.3	57.1			
ノイゲバウエル, ヤチェク	太平洋の海賊たち	1975	印刷, 紙	84.1	58.5			
ノヴィンスキ, マリアン	チュレンドラ	1986	印刷, 紙	97.2	66.5		左下: m.Nowinski	
ピヴォン (ピヴォニススキ, アンジェイ)	ユダの処刑	1978	印刷, 紙	83.2	58.2		左下: PIWON	
ヒブネル, マチエイ	大きな、もっと大きな、とても大きな	1963	印刷, 紙	84.0	58.8		左下: Hibner	
ファンゴル, ヴォイチェフ	1939年9月はこうだった...	1961	印刷, 紙	84.1	58.5		上辺右: Fangor	
フミェレフスキ, ヴィトルト	ブッチーニ	1957	印刷, 紙	87.1	59.0			
ブラトコフスカ, マルチナ	アウシュヴィッツ1940-1945	1984	印刷, 紙	96.4	67.2			
ブラトコフスカ, マルチナ	これ以上は無い	1990(1984以前)	印刷, 紙	97.5	67.2			
ブルタ, ヴワディスワフ	クラクフのC4terech	1995	印刷, 紙	94.5	66.4			
ブロンジンスキ, ボーダン	オシフィエンチム=プジェジンカ アウシュヴィッツ=ビルケナウ	1990(1990)	印刷, 紙	83.5	57.4		左下: B Prądzyński 90	
ブロンジンスキ, ボーダン	国家記録月間	1990(1990)	印刷, 紙	83.2	57.4		左下: B Prądzyński 90	
ベトリツキ, バヴェウ	熱	1981	印刷, 紙	95.8	67.6			
ホウダノーヴィチ, レシェク	ファラオ	1965	印刷, 紙	116.8	81.3		左辺: L. ŻEBROWSKI	
ボシュ, ベトル	チェコスロヴァキア映画の回顧展	1990(1990)	印刷, 紙	84.7	60.1		左下: Poś 90	
ホフマン, クリスチナ	成功	1980	印刷, 紙	95.7	67.3		右下: HOFFMANN	
ボンゴフスキ, アンジェイ	愛なくて	1980	印刷, 紙	95.4	67.2		左下: A. PAĞOWSKI	
ボンゴフスキ, アンジェイ	1901年子どもストライキ	1981	印刷, 紙	95.7	67.9		右辺: A. PAĞOWSKI	
ボンゴフスキ, アンジェイ	錆	1981	印刷, 紙	93.8	66.9		右辺: A. PAĞOWSKI	
ボンゴフスキ, アンジェイ	鷺のごとく高く舞い上がれ	1981	印刷, 紙	94.2	67.6		左辺: PAĞOWSKI	
ボンゴフスキ, アンジェイ	ヴァバンク	1981(1980)	印刷, 紙	95.7	66.8		右下: ■80 A. PAĞOWSKI	
ボンゴフスキ, アンジェイ	ブッチ・キャンディとサンダンス・キッド	1983(1983)	印刷, 紙	67.3	94.6		左下: A. PAĞOWSKI '83	
ボンゴフスキ, アンジェイ	ハッピー・エンド	1986	印刷, 紙	67.6	94.1		右下: A. Pagowski	
ボンゴフスキ, アンジェイ	ミハイル・ブルガーコフ 巨匠とマルガリータ	1988	印刷, 紙	96.1	67.6		右辺: A. PAĞOWSKI	
ボンゴフスキ, アンジェイ	イェジ・ウオイェク 国王殺し	1989	印刷, 紙	97.5	65.4		右辺: A. PAĞOWSKI	
ボンゴフスキ, アンジェイ	告発者ディミトル・カラマゾフ	1990	印刷, 紙	92.8	66.6		右辺: A. Pagowski	
ボンゴフスキ, アンジェイ	ザボルスカ、ザボルスカ...	1990	印刷, 紙	93.3	69.9		左辺: A. PAĞOWSKI 680	
ボンゴフスキ, アンジェイ	ジャン=ポール・マラーの迫害と暗殺...	1991	印刷, 紙	94.8	67.7		左下: A. PAĞOWSKI	

作家名	作品名	制作年	材質・技法	寸法(縦・高)	寸法(横・幅)	寸法(厚・奥行)	署名年記・書込み等	備考
ボンゴフスキ, アンジェイ	カルメン	1995	印刷、紙	93.2	66.5		左下:A. PAĞOWSKI.	
ボンゴフスキ, アンジェイ	西欧人の眼に	不詳	印刷、紙	94.0	67.0		右辺:A. PAĞOWSKI.	
ボンゴフスキ, アンジェイ; クブチク, クシシュトフ	タデウシュ・ミチンスキ のテルモビレー	1988	印刷、紙	96.4	65.0		右辺:A. PAĞOWSKI, K. KUPCZYK	
マイエフスキ, レフ	第11回国際ポスター・ビエンナーレ 受賞者	1988	印刷、紙	93.5	65.9		左上:LECH MAJEWSKI	
マルキェヴィチ, マレク	オシフィエンチム—警告	1990	印刷、紙	97.6	67.4			
マルシャウェク, グジェゴシュ	日々天に近く	1983	印刷、紙	97.0	66.1		右辺:Marszalek	
ミーシェク, カレル	フランツ・カフカ	1990	印刷、紙	101.4	72.0		中央下:PRIBOR 20/20 MÍŠEK 92	
ミーシェク, カレル	芸術としてのポスター	1992	印刷、紙	100.5	70.1			
ミクシェフスキ, ミロス ワフ; タリク, イェジ	1940-45	1987	印刷、紙	66.5	97.1		右下:1/2 MÍŠEK 90	
ムウォドジェニェツ, ヤン	ドクトル・ユディム	1975	印刷、紙	82.0	57.2		下辺右:JAN MŁODOŻENIEC	
ムウォドジェニェツ, ヤン	ディックとジェーン	1978	印刷、紙	94.9	67.3		下辺右:JAN MŁODOŻENIEC	
ムウォドジェニェツ, ヤン	嘘つき娘	1981	印刷、紙	97.2	67.1		下辺左:JAN MŁODOŻENIEC	
ムウォドジェニェツ, ヤン	普通の人々	1983	印刷、紙	97.3	66.9		下辺左:JAN MŁODOŻENIEC	
ムウォドジェニェツ, ヤン	グレムリン	1985	印刷、紙	98.0	67.4		下辺右:JAN MŁODOŻENIEC	
ムウォドジェニェツ, ヤン	ハニー、愛している	1988	印刷、紙	96.2	67.5		左下:JAN MŁODOŻENIEC	
ヤノフスキ, ヴィトルト	3人と森	1962	印刷、紙	84.1	57.8		上辺左:W. JANOWSKI	
ヤノフスキ, ヴィトルト	二度目の結婚	1964	印刷、紙	84.2	57.2		左下:W. JANOWSKI	
ヤマ, ヴァルデマル	39847アウシュヴィッツ	1987	印刷、紙	66.9	97.0			
ヨドウォフスキ, タデウシュ	マルテンス船長の宝	1957	印刷、紙	84.9	58.6		上辺右:T. JODŁOWSKI	
ヨドウォフスキ, タデウシュ	脱走兵	1958	印刷、紙	84.8	58.9		右側:T. JODŁOWSKI	
ラドウツキ, マチエイ	真実の次へ	1965(1965)	印刷、紙	85.7	59.9		右下:M. RADUCKI 65	
レニツァ, ヤン	マックス・エルンスト	1991	印刷、紙	92.2	66.5		下辺右:Lenica	
レニツァ, ヤン	私たちです	1991	印刷、紙	98.0	66.6		下辺右:Lenica	
レニツァ, ヤン	私たちです	1991	印刷、紙	97.8	66.2		下辺右:Lenica	
ロソハ, ヴィエスワフ	イェジ・コシンスキ 描かれた鳥	1991(1988)	印刷、紙	95.2	68.6		左下:W. Rosocha	
ロソハ, ヴィエスワフ	イェジ・コシンスキ 描かれた鳥	1991(1988)	印刷、紙	68.3	97.0		右下:W. Rosocha	
ロソハ, ヴィエスワフ	助産師	1991(1988)	印刷、紙	91.5	68.3		左下:W. Rosocha	
不詳	軍法に従って	1984	印刷、紙	93.1	67.8			

## 関連資料

〈水沢 勉氏寄贈〉

オーストリア美術家同盟『ヴェル・サクルム』第1巻1月号	1898	29.0	28.4				ゲルラハ&シェンク出版、 ウィーン (以下同) 表紙:アルフレート・ロラー
オーストリア美術家同盟『ヴェル・サクルム』第1巻2月号	1898	29.0	28.4				表紙:コロマン・モーザー
オーストリア美術家同盟『ヴェル・サクルム』第1巻3月号	1898	29.0	28.4				表紙:グスタフ・クリムト
オーストリア美術家同盟『ヴェル・サクルム』第1巻4月号	1898	29.0	28.4				表紙:ルドルフ・フォン・オッ テンフェルト
オーストリア美術家同盟『ヴェル・サクルム』第1巻5・6月合併号	1898	29.0	28.5				表紙:グスタフ・クリムト
オーストリア美術家同盟『ヴェル・サクルム』第1巻7月号	1898	29.0	28.4				表紙:アルフレート・ロラー
オーストリア美術家同盟『ヴェル・サクルム』第1巻8月号	1898	29.0	28.4				表紙:ハンス・シュヴァイガー
オーストリア美術家同盟『ヴェル・サクルム』第1巻9月号	1898	29.0	28.5				表紙:ヨーゼフ・エンゲルハルト
オーストリア美術家同盟『ヴェル・サクルム』第1巻10月号	1898	29.0	28.4				表紙:カール・ミュラー
オーストリア美術家同盟『ヴェル・サクルム』第1巻11月号	1898	29.0	28.4				表紙:フェルナン・クノップフ
オーストリア美術家同盟『ヴェル・サクルム』第1巻特別号	1898	29.0	28.4				表紙:ヨハン・ヴィクトール・ クレマー

## 館外貸出作品一覧

開催初日が2023年4月1日から2024年3月31日までの展覧会に限る  
(巡回展の場合は、第一会場の会期による)

件数	点数	作家名(作品名)	「展覧会名」会場
1	1～4	ロボ、バルタザル《母親》、ホレス、フランシスコ《くしげずる女》、クラーベ、アントニョ《ガルガンチュア》より32、42	「スペインのイメージ：版画を通じて写し伝わるすがた」長崎県美術館(2023年4月8日～6月11日)、国立西洋美術館(7月4日～9月3日)
2	5	刑部 人《山畑》	「開館記念展 明日につながる物語」栃木市立美術館(4月15日～6月18日)
3	6～17	朝井闌右衛門《ファルスA》、《祭I - お狐》、《祭II - 巫女さん》、《祭III - 鶴ヶ岡》、《丘の上》、《薔薇(法華齋)》、《ロリルの踊り》、《奇しきヘロデ王の怒りとサロメ(A)》、《電線風景》、《三好達治大壺を見る》、《過去現在因果経》、《玉葱のある静物》	「没後40年 朝井闌右衛門展」横須賀美術館(4月22日～6月18日)
4	18～159	麻生三郎《死者》、《裸》、《裸》、《隅田川(起重機)》、《のぞく》、《自画像》、《ある群像》、《ある群像2》、《ある群像3》、《子供》、《人のいる風景》、《窓》、《草と石と頭》、《子供》、《日雇い労働者》、《煙突》、《自画像》、《椎名麟三著「永遠なる序章」口絵原画》、《椎名麟三著「永遠なる序章」挿画原画1》、《椎名麟三著「永遠なる序章」挿画原画2》、《椎名麟三著「永遠なる序章」挿画原画4》、《椎名麟三著「永遠なる序章」挿画原画5》、《椎名麟三著「美しい女」挿画原画1》、《椎名麟三著「美しい女」挿画原画4》、《野間宏著「真空地帯」口絵原画》、《野間宏著「暗い絵」挿画原画1》、《野間宏著「顔の中の赤い月」挿画原画》、《野間宏著「真空地帯」挿画原画9》、《野間宏著「真空地帯」挿画原画10》、《野間宏著「崩壊感覚」口絵原画》、《野間宏著「青年の環」口絵原画》、《太宰治著「ダズ・ゲマイネ」挿画原画》、《太宰治著「東京八景」挿画原画》、《太宰治著「ヴィヨンの妻」挿画原画》、《太宰治著「人間失格」挿画原画1》、《太宰治著「人間失格」挿画原画2》、《『帖面』第26号表紙原画》、《『帖面』第27号表紙原画》、《『帖面』第28号表紙原画》、《『帖面』第29号表紙原画》、《『帖面』第41号表紙原画》、《『帖面』第46号表紙原画》、《『帖面』第58号表紙原画》、《『文章入門』、『暗い絵』第三十六号》、《『青年の環』1》、《『三好十郎追悼特集』冒した者》、《『人間の運命』より第一巻「父と子」、第二巻「友情」、第三巻「愛」、第四巻「出発」、第五巻「失われた人」、第六巻「結婚」、《『新生』4月号、『潮鳴』第1年 第2・3号、『赤い孤独者』(書き下ろし長編小説)、『赤い孤独者』、『長い谷間』、『ガン病棟(上)』、『ガン病棟(下)』、『イワン・デニーソヴィチの一日』、『煉獄のなかで(上)』、『煉獄のなかで(下)』、『マトリョーナの家』、シャーン、ベン《砂あらし》、《松葉杖の女》、《ピーターと狼》、《ワルシャワ》、《花を持つ男》、《不屈の精神》// [自筆の詩篇とデッサン]》、《リルケ「マルテの手記」より：一行の詩のためには…より「扉一」、『扉一2』、『1 多くの都市を』、『2 多くの人を』、『3 多くの事物を』、『4 禽獣を知らねばならない』、『5 飛ぶ鳥の姿』、『6 小さな草花のたたくずまい』、『7 まだ知らぬ国々の道を』、『8 思いがけない邂逅』、『9 遠くから近づいてくるのが見える別離』、『10 少年の日の思い出』、『11 心を悲ませてしまった両親を』、『12 少年時代の病気を』、『13 静かなしんとした部屋』、『14 海辺の朝』、『15 海そのものの姿』、『16 星屑とともに消え去った旅寝の夜々』、『17 愛に満ちた多くの夜の回想』、『18 産婦の叫び』、『19 白衣のなかに眠りに落ちて回復を待つ産後の女』、『20 死んでゆく人々の枕元』、『21 死者の傍らで』、『22 一篇の詩の最初の言葉』	「麻生三郎展 三軒茶屋の頃、そしてベン・シャーン」世田谷美術館(4月22日～6月18日)
5	160～161	古賀春江《サーカスの景》、寄託作品1点	「顕神の夢—幻視の表現者— 村山樸多、関根正二から現代まで」川崎市岡本太郎美術館(4月29日～6月25日)、久留米市美術館(8月26日～10月15日)、町立久万美術館(10月21日～12月24日)、碧南市藤井達吉現代美術館(2024年1月5日～2月25日)
6	162～163	中国孔二《Untitled》、《Untitled》	「中国孔二 ソウルメイト」丸亀市猪熊弦一郎現代美術館(6月17日～9月18日)
7	164～301	シャガール、マルク『ラ・フォンテーヌ寓話集』より「1 からすと狐」、「2 牛と同じくらい大きくなりたいと思った蛙」、「9 狐とこうのとり」、「10 子供と学校の先生」、「14 二頭の牡牛と一匹の蛙」、「15 矢に傷ついた鳥」、「20 獅子と鼠」、「24 ジュノンに不平を言う孔雀」、「25 人間の女に変わった靴箱」、「28 粉ひきとその息子とろば」、「33 獅子とろばいとその奥さん」、「36 白鳥と料理人」、「40 恋する獅子」、「45 鹿に復讐しようとした馬」、「48 狼と母親と子供」、「52 熊とメルキュール」、「54 陶器の壺と鉄の壺」、「57 サテュロスと旅人」、「59 金の卵を産む雌鶏」、「61 鷲と泉」、「68 村人と蛇」、「70 ゆかるとみにはまった荷馬車」、「72 若い未亡人」、「75 乳しぼりと女の牛乳壺」、「78 女勇者」、「80 女性と秘密」、「83 熊と園芸愛好家」、「87 二羽の鳩」、「93 亀と二羽の鴨」、「96 二羽の鸚鵡と王と王子」、「97 猫と二羽の雀」、「99 病気の鹿」、「馬の日記」より1～15、「タトウ、中表紙、奥付」、「悪童たち」より1～10、「ダフニスとクロエ」より「1 扉絵」、「2 ラモンに見つけたされたダフニス」、「3 ドリアスに見つけ出されたクロエ」、「4 ラモンとドリアスの夢」、「5 牧場の春」、「6 狼の落とし穴」、「7 泉のほとりのダフニスとクロエ」、「8 クロエの審判」、「9 クロエの接吻」、「10 ドルコンの計略」、「11 夏の真昼」、「12 つばめ」、「13 ドルコンの死」、「14 ニンフたちの洞窟」、「15 葡萄の収穫」、「16 フィレタスの果樹園」、「17 フィレタスの教え」、「18 メティアヌスの若者たち」、「19 略奪されたクロエ」、「20 ダフニスとニンフの夢」、「21 プリャクシス船長の夢」、「22 ニンフたちへの供物」、「23 羊飼の神パンの宴会」、「24 シランジュの物語」、「25 冬」、「26 鳥を追う」、「27 ドリアスの家の食事」、「28 春」、「29 ダフニスとリセオノン」、「30 エコー」、「31 夏の季節」、「32 死んだいるかと300エキュ」、「33 クロエ」、「34 果樹園」、「35 寺院とパカスの話」、「36 荒らされた花園」、「37 ダフニスとグナトン」、「38 ディオニソフへの到着」、「39 クロエを着飾るクレアリスト」、「40 祭りの時娘を見つけたメガレス」、「41 ニンフの洞窟の婚礼の祝い」、「42 結婚」『サーカス』より1、2、4、6、8、10、12、14、16、17、18、19、20、22、24、26、28、30、31、32、34、36、38、『ボエム』より1、4、6、7、8、9、10、11、16、18、20、21、22、23、24	「シャガール 版に生じた光の詩 神奈川県立近代美術館コレクションから」世田谷美術館(7月1日～8月27日)
8	302～307	上野 誠《晩秋》、《農家の家族》、《野良の昼めし(戦中カラ芋ぐらし)》、草間彌生《かぼちゃ軍団》、《幻の野》、中谷 泰《実らぬ稲》	「土とともに 美術にみる〈農〉の世界—ミレー、ゴッホ、浅井忠から現代のアーティストまで—」茨城県近代美術館(7月8日～9月3日)
9	308	土橋 醇《火の誕生》	「土橋醇展 バリ、湖南—幻想を追って」郡山市立美術館(9月2日～10月22日)
10	309～319	岸田劉生《近藤医学博士之像》、《童女図(麗子立像)》、小山敬三《アルカンタラの橋》、青山義雄《風景》、森田勝《裸婦》、加山四郎《室内》、田畔司朗《旗》、藤井令太郎《アッカドの椅子》、田中岑《丘原》、深沢幸雄《愛憎》、《生(2)》	「春陽会誕生100年 それぞれの闘い 岸田劉生、中川一政から岡鹿之助へ」東京ステーションギャラリー(9月16日～11月12日)、栃木県立美術館(2024年1月13日～3月3日)、長野県立美術館(3月16日～5月12日)、碧南市藤井達吉現代美術館(5月25日～7月7日)
11	320～321	瓜南直子《ムーンダンス》、《信太》	「絵は奏で、物語は一はるかなる時空の旅人たち—」倉敷市立美術館(10月7日～12月17日)
12	322～338	ファン・ゴッホ、フィンセント《パイプをくわえた医師ガシェの肖像》、ゴヤ・イ・ルシエンテス、フランシスコ『気まぐれ』より「1 自画像」、「22 可愛そうな娘たち!」、「36 ひどい夜」、「51 おめかしごっこ」、「64 よいご旅行を」、梅原龍三郎《椿》、関根正二《女の顔》、中川一政《静物(びん・白布)》、山本 鼎《哥路(ころ)》、ロダン、オーギュスト《ウゴリーヌ》、古賀春江《サーカスの景》、堀 進二《中原梯二郎像》、寄託作品1点 図書資料：『東洋画論集成』上、下、Prinzhorn, Hans, Bildneri der Geisteskranken: ein Beitrag zur Psychologie und Psychopathologie der Gestaltung	「芥川龍之介と美の世界 二人の先達—夏目漱石、菅 虎雄」久留米市美術館(10月28日～2024年1月28日)
13	339～341	阿部展也《飢え》、麻生三郎《形態A》、《形態B》	「『シュルレアリスム宣言』100年 シュルレアリスムと日本」京都府京都文化博物館(12月16日～2024年2月4日)、板橋区立美術館(3月2日～4月14日)、三重県立美術館(4月27日～6月30日)
14	342～346	山口蓬春《ビクトリア・ピーク、香港》、《香港風景》、《九龍碼頭》、《九龍碼頭を望む》、藤田嗣治《横たわる裸婦》	「新春特別展 嗣治と蓬春 二人の見た景色」山口蓬春記念館(2024年2月3日～3月31日)

件数	点数	作家名(作品名)	「展覧会名」会場
15	347～371	谷中安規『少年画集』より「1 祭り」、「2 桜」、「3 見世物」、「4 運動会」、「5 公園」、「6 水あそび」、「7 盆おどり」、「8 朝鮮」、 郷野夫「連環画『水災』」より「(一) 洪水」、「(二) 避難」、「(三) 上海へ」、「(四) 野宿」、「(六) 都会生活の第一歩」、 「(七) 組合に入る」、「(八) 仕事」、「(九) 疲れ」、「(十) 圧迫」、「(十一) 反抗」、「(十二) 闘い」、「(十三) 捕われる」、 「(十四) 牢獄へ」、「(十五) 請願」、「(十六) がんばる」、「(十七) 釈放」、李権《真夜中の恐怖》	「横浜トリエンナーレ 野草:いま、ここで生きている」横浜美術館 (3月15日～6月9日)
16	372～416	『新版画』第一号より藤牧義夫「朝」、『新版画』第二号より柴 秀夫「表紙」、『新版画』第三号より藤牧義夫「都會風景」、 『新版画』第四号より藤牧義夫「表紙」、「御徒町驛の附近で(御徒町驛(東京夜曲 A))」、柴 秀夫「飛躍する南部(第十回オリンピック)」、 「帝大橋内」、大久保一「愛国號を迎へる(奉天忠靈塔にて)」、小野忠重「一九三二年九月一日」、 「瓦斯工場」、「工場区の人々」、「街の子(街角)」、「狐市街」、「鮮苔」、武藤六郎「都市禮讃(東京驛)」、「銀座に 雨が降る(東京夜曲 C)」、水船六洲「聖母病院(落合風景)」、竹村温次郎「新宿街(東京夜曲 B)」、吉田正三「千 住大橋夜景(東京夜曲 D)」、吉原正道「日比谷公園音楽堂(東京夜曲 E)」、江端芳市「海濱・愛知縣・新舞子」、 武藤完一「耶馬溪青洞門(大分縣)」、蓬田兵ヱ門「荒川風景」、新田 穰「とりとめもない風景(吹屋の街)」、「樹間 の海」、「勝浦港外風景」、「勝浦港内風景」、「那智村風景」、「新版画』第五号より吉原正道「表紙」、藤牧義夫「彼 等の集り」、「新版画』第十一号より藤牧義夫「銀行について」、「新版画』第十二号より武藤六郎「表紙」、荒井東留「ぼ たん」、藤牧義夫「つき」、堀 一恵「ボンボン蒸氣」、菊地善二郎「子供」、水船六洲「鍵を持つ男」、武藤完一「豊 後日田町」、小野忠重「裸婦」、柴 秀夫「手について」、清水正博「明るい晩」、鈴木健夫「或る舞台」、常察英雄「モ デル」、谷口薫美「三婆叟」、「新版画』第十三号より藤牧義夫「びようぶ坂」	「版画の青春 小野忠重と版画運動 —激動の1930-40年代を版画に刻んだ若者たち—」町田市立国 際版画美術館(3月16日～5月19日)

## 2023(令和5)年度 修復作品一覧

[凡例]

- ・寸法の単位はcmである。
- ・修復担当の記載のあるものは外部委託、ないものは当館修復担当研究員 伊藤由美と修復担当学芸員 橋口由依が行った。

作家名	作品名	制作年	材質・技法	寸法(縦・高)	寸法(横・幅)	寸法(厚・奥行)	修復担当
<b>油彩画・アクリル画など</b>							
青山義雄	風景	1929	油絵具、カンヴァス	89.6	116.9		
麻生三郎	ある群像3	1970	油絵具、カンヴァス	194.0	130.0		
大河内信敬	静物	1949-1950	油絵具、カンヴァス	72.5	90.5		
加納光於	待つこととそれゆえに II	1983	油絵具、カンヴァス	130.4	89.3		
加山四郎	室内	1956	油絵具、カンヴァス	96.5	130.6		
岸田劉生	近藤医学博士之像	1925	油絵具、カンヴァス	45.8	38.0		
木村忠太	クロサンビエールの夕方	1978	油絵具、カンヴァス	100.1	100.2		
久米民十郎	山間の裸婦	1910-1920	油絵具、カンヴァス	33.5	45.5		
小出楯重	静物(乙女椿とレモン)	1920	油絵具、カンヴァス	44.5	37.5		
サン・ジョヴァンニ、アッキーレ	牛	不詳	油絵具、紙	27.0	30.0		
重松岩吉	支那の賭博室	1921	油絵具、カンヴァス	60.6	50.4		
田畔司朗	旗	1961	油絵具、カンヴァス	130.4	162.7		
椿 貞雄	村山政司の像	1925	油絵具、カンヴァス	45.5	33.5		
土橋 醇	火の誕生	1956	油絵具、カンヴァス	146.1	136.2		
中園孔二	Untitled	2009	油絵具、カンヴァス	60.6	50.0		
原 精一	三人の女	1963	油絵具、カンヴァス	100.4	100.4		
藤井令太郎	アッカドの椅子	1957	油絵具、カンヴァス	130.6	162.2		
フックス, エーミール	久米民十郎の肖像	1915	油絵具、板	48.2	32.7		
ボルケ, ジグマー	無題	1985	アクリル絵具、紙	100.0	75.0		
森田 勝	裸婦	1929頃	油絵具、カンヴァス	55.1	46.0		
<b>日本画</b>							
瓜南直子	ムーンダンス	2011	麻布着彩	117.4(一扇)	91.0(一扇)		
荘司 福	聖河渇仰	1970	紙本着彩	178.5	261.8		
山口蓬春	流れに青葉	1930頃	紙本着彩	128.6	31.1		瑠春堂有限会社
<b>素描・水彩画など</b>							
麻生三郎	裸	1950	水彩絵具、コンテ、黒インク、ペン、紙	44.2	31.7		
木村荘八	『大同石佛寺』「第181圖 音楽する天使」原画	1920	鉛筆、紙	14.2	22.6		
木村荘八	『大同石佛寺』「第225圖 馬場の諸窟見取圖」原画	1920	水彩絵具、鉛筆、紙	12.3	17.8		
木村荘八	『大同石佛寺』「第225圖 馬場の諸窟見取圖」原画	1920	水彩絵具、鉛筆、紙	12.3	17.8		
木村荘八	『大同石佛寺』「第225圖 馬場の諸窟見取圖」原画	1920	水彩絵具、鉛筆、紙	12.2	18.6		
木村荘八	『大同石佛寺』「第225圖 馬場の諸窟見取圖」原画	1920	水彩絵具、鉛筆、紙	12.4	17.7		
木村荘八	『大同石佛寺』「第225圖 馬場の諸窟見取圖」原画	1920	水彩絵具、鉛筆、紙	12.2	18.7		
木村荘八	『大同石佛寺』「第225圖 馬場の諸窟見取圖」原画	1920	水彩絵具、鉛筆、紙	12.5	18.6		
木村荘八	『大同石佛寺』「第225圖 馬場の諸窟見取圖」原画	1920	水彩絵具、鉛筆、紙	12.3	18.0		
<b>版画(西洋)</b>							
ロタ, マルティン	【『最期の審判』 ミケランジェロに基づく】	1569	エングレーヴィング、紙	31.2	23.3		
<b>版画(日本)</b>							
加納光於	植物 No.3	1955	エッチング、紙	12.0	21.2		
加納光於	種族	1956	エッチング、紙	22.3	27.0		
加納光於	鐘が鳴る鐘がなる	1957	エッチング、紙	19.2	22.0		
加納光於	密猟者	1957	エッチング、紙	25.0	24.7		
加納光於	星とキルロイが濡れる	1957	エッチング、紙	19.0	30.0		

作家名	作品名	制作年	材質・技法	寸法(縦・高)	寸法(横・幅)	寸法(厚・奥行)	修復担当
加納光於	グザヴィエ・フォルヌレの肖像	1959	インタリオ、紙	10.6	6.5		
加納光於	筈	1959	インタリオ、紙	24.5	13.7		
加納光於	サドの肖像	1959	インタリオ、紙	11.6	7.4		
加納光於	ド・クインシイの肖像	1959	インタリオ、紙	8.6	8.2		
加納光於	燐と花と	1959	インタリオ、紙	36.6	27.5		
加納光於	慄える鹹水	1960	インタリオ、紙	33.1	30.2		
加納光於	翼・予感	1960	インタリオ、紙	30.2	9.3		
加納光於	花・沈黙	1960	インタリオ、紙	41.7	22.1		
加納光於	燐と花と	1960	インタリオ、紙	42.3	36.7		
加納光於	燐と花と S.Tのために	1960	インタリオ、紙	10.0	11.7		
加納光於	Untitled	1961	インタリオ、紙	33.0	12.5		
加納光於	イカルス	1961	インタリオ、紙	30.2	25.1		
加納光於	花・沈黙	1961	インタリオ、紙	17.9	13.8		
加納光於	星・反芻学	1962	インタリオ、紙	45.1	42.3		
加納光於	星・反芻学	1962	インタリオ、紙	55.5	42.5		
加納光於	星・反芻学	1962	インタリオ、紙	33.2	67.8		
加納光於	Untitled	1962	インタリオ、紙	26.9	12.9		
加納光於	HYPNOS	1964	インタリオ、紙	45.1	42.1		
加納光於	Untitled	1964	カラーインタリオ、紙	6.4	10.5		
加納光於	風に沿って	1967	メタルプリント、紙	21.8	29.8		
加納光於	詩集『漆あるいは水晶狂い』のために	1969	メタルプリント、紙	22.0	14.7		
加納光於	オーロラへの応答	1970	併用技法、紙	37.0	25.5		
加納光於	青い鈴	1971	メタルプリント、紙	39.0	53.5		
<b>彫刻・インスタレーション</b>							
堀内正和	エヴァからもらった大きなリンゴ	1966	石膏	16.0	35.5	26.0	
宮脇愛子	作品	1960年代後半	真鍮	6.2	8.8	6.7	
宮脇愛子	作品 1968 #37-(72)C. D.	1968	真鍮	24.5	18.5	18.0	
湯原和夫	無題 No.4-66	1966	鉄、クローム・メッキ	31.0	31.0	31.0	
湯原和夫	作品 No.5-68	1968	鉄、クローム・メッキ	77.0	37.0	37.0	

## 修復報告 1

瑤春堂有限公司 竹内進一・竹内朋世

作者：山口蓬春

作品名：流れに青葉

制作年：1930年頃

寸法(mm)：額装全体寸法 1583×464

本紙寸法 1286×311

### 修理前の状態

紙本着彩の掛軸装であった。彩色の内、特に黄と緑青に剥離や着力の低下がみられ、亀裂・剥離・剥落が生じていた。剥落した緑青の一部は、本来の彩色箇所ではない画面に付着していた。また、画面全体が波打ち、折れも生じていた。

### 修理方針

本修理の主な目的は、絵具層の剥落止だった。剥離・剥落箇所には膠水溶液を注入・塗布する部分的な剥落止処置では、処置箇所の引きつりやその周囲にシミが生じることがあるため、掛軸装の解体を伴う修理とした。

また、処置によって絵具層がさらに硬化することが推測され、「軸で巻く」という掛軸装では作品を取り扱うたびに絵具層に過度の負担がかかり、将来的に同様の損傷が生じる恐れがあったため、今回の修理では額装に仕立て直した。装丁には、これまでの一文字と中縁の表装裂を再使用し、軸装時の雰囲気を残すようにした。

### 施工処置

1. 着工前に作品の状態を計測・撮影し、記録した。
2. 着力が低下した絵具層に兔膠水溶液を用いて剥落止処置を施し、乾燥期間を経て基底材の本紙料紙に安定させた。

#### 修理前

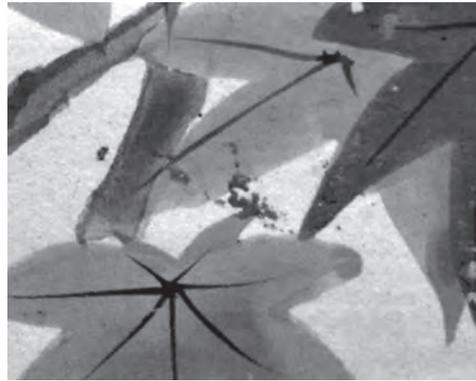


#### 修理後



\* 絵具層の剥離箇所には、料紙と絵具層(黄)の間に兔膠水溶液を筆先で注入し、絵具層全体の着力が低下した箇所(緑青)には兔膠水溶液を塗布した。

#### 修理前



#### 修理後



- \* 本来の彩色箇所から剥落して画面に付着した顔料(緑青)については、本紙に安全な範囲で可能な限り採集し、作品とともに返却した。
3. 本紙及び再使用する表装裂の一文字・中縁と表装裂の上下・風帯・軸木等を分離し、掛軸装を解体した。
  4. 湿した養生紙を敷いた作業台にて、旧裏打紙を除去した。
  5. 本紙の四方に、新糊(小麦粉澱粉糊)にて手付紙(薄美濃紙)を付けた。
  6. 薄美濃紙に新糊を塗布し、本紙に肌裏打ちを施した。

#### 旧裏打紙の除去



#### 肌裏打ち



7. 本紙を仮張り、乾燥させた。
8. 新調した杉製骨木地に新たな下張りを施した。  
尚、下張りの工程は、①骨縛り ②胴張り ③蓑掛け(3層)  
④蓑縛り ⑤下浮け ⑥上浮けの順に行った。
9. 下地の表面に本紙、裏面に額裏裂を上張りした。
10. 額縁・アクリル・吊り金具を取り付け、額装に仕立てた。
11. 額装に仕上げた資料を収納する保存箱を、中性紙  
(アーカイバルボード B) にて作製した。

杉製骨木地



蓑掛け



上張り後



#### 修理後の所見

亀裂や剥離など不安定な状態だった絵具層を本紙料紙に定着させ、額装に仕立てたことにより、全体が安定した状態になった。

また、旧裏打紙を除去し、あらたな裏打ちを施すことで折れが改善された。旧裏打紙除去の作業には、湿した養生紙に本紙の汚れを吸収させるクリーニングの効果もあり、画面が明るく、彩色も鮮やかになった。

修理前：掛幅装 全体



修理前：本紙・一文字・中縁



修理後：額装 全体



## 修復報告 2

伊藤由美

作者：アッキーレ・サン・ジョヴァンニ

作品名：牛

制作年：不詳

材料・技法：油彩、紙

寸法(mm)：修復前 270 × 300

修復後 270 × 300

### 修復前の所見

楕円形の額に額装された油彩画である。額の裏板を外すと、中板があり、その表側に長方形の厚紙に描かれた作品が固定されている(図1～3)。支持体の元の寸法は天地270mm、左右300mmであったが、四隅が大きく欠損している。支持体は劣化のため柔軟性を失っており、和紙で裏打ちが施されたうえで中板に接着されている。上方にヘライレと書かれた紙片が接着下に差し込まれていて、支持体が板に密着していない状態も確認され、取り外しができるように周辺部のみが接着されている。この方法は表具師による接着処置と考えられる。窓部材の裏側で、広い面積が画面に密着する面には、パラフィン紙が接着されている。

画面は汚れと経年の黄変のため全体的に暗く、汚れは絵具層に吸着されているように見える。また、光沢はなく油彩絵具の乾性油は支持体である紙に吸われ、絵具層に堅牢さはなく、やや脆弱になっている。空部分、特に左側には広範囲に細かい縮緬しわが観察できる。薄塗りである空部分の固着はほぼ良好であるが、牛や草むらを描いた厚塗り部分、特に黒褐色部分には目立つ亀裂や剥落が認められる(図4)。額を外すと、額に隠れていた箇所、特に空部分には楕円の窓の形に添って明るい薄青色がみられる。また、支持体周辺部の数ミリに更に薄い色が見られ、当初は矩形の額窓であったこともわかる。紫外線蛍光写真では、空部分に多くの細かい補彩があるのが確認された(図5、6)。

### 修復処置

1. 額の取り外しおよび清掃：裏板を外し、作品が固定されている中板を取り外して、額内部および、汚れの付着していた窓部分を清掃した。
2. 絵具層の亀裂、剥落部分の接着強化：目立つ亀裂部分と剥落箇所周辺に膠水を差し、こてで加温、加圧し、接着して固着強化を行った。
3. 絵具層の洗浄：希アンモニア水と綿棒で洗浄した。
4. 旧補彩除去：キシレンで除去した。紫外線蛍光写真では空部分の広範囲に散在する旧補彩跡が確認されたが、絵具層に脆い部分もあり、鑑賞の妨げとなる部分のみを除去した(図5、6)。
5. ワニス塗布：ダンマル樹脂ミネラルスピリット溶液を塗布した。
6. 充填整形：ボローニャ石膏と膠水を混ぜた充填剤で、剥落箇所を充填した(図7)。
7. 補彩：溶剤型アクリル絵具を使用し、充填箇所を補彩した。また、空部分の額に隠れていた箇所と露出していた箇所の色調の差を、わずかに着色したワニスで目立たなくした(図9)。

8. 額窓裏の緩衝材接着：額窓部材が、画面に広範囲で重なり接触するため、額窓裏面に中性紙を接着した(図8)。
9. 額装：中板に固定された作品と額窓を固定し、裏面に裏板を重ねて固定した(図10)。

### 修復後の所見

洗浄処置では汚れが絵具層に吸着されており、綿棒で汚れが除去された割には、見かけではあまり明るくならなかった。しかし旧補彩や汚れの除去で全体的な明るさは取り戻した。空部分の細かい旧補彩は鑑賞の妨げになる部分のみ除去、旧充填剤の上に再補彩をした。その他の旧補彩は、絵具層の脆弱さが感じられたので現状のままとした。

支持体の裏打ち紙は酸化劣化していたが、板から接着を外して裏打ちをし直すには支持体が脆弱であり、折れの危険性や湿気による収縮、変形が予測されたので現状維持とした。現状のままでも、適切な環境下では問題ないと判断した。

楕円形の額によって周辺部の広い面積が隠れてしまっているため、板から外して矩形の補助材に固定をして全面を見せる額装にし直すことも可能であるが、長年、装着されていた楕円額を保持することは、歴史的にも重要であると判断した。

アッキーレ・サン・ジョヴァンニは1880(明治13)年、工部美術学校の美術教師であったフォンタネージの後任として、政府に雇われ来日したイタリア人画家である。まだ西洋画の技術、技法が日本人になじみの薄い時代において、フォンタネージに続き、作家が美術を志す者たちに与えたであろう影響を知る上で、本作品の技法や現状を観察することは興味深かった。また、サン・ジョヴァンニの門下には曾山幸彦や藤雅三がおり、当館所蔵のフォンタネージや伝・藤雅三の作品との比較では、当時の油彩画の画風が見て取れる。さらには、本作品は曾山幸彦に関係する遺族より寄贈されており、その事実は本額装を歴史的な観点からも維持すべきと判断した基準ともなっている。



図1 修復前 額装 表



図2 修復前 額装 裏



図3 修復前 表 (中板に接着)



図4 修復前 表部分 亀裂および剥落



図5 修復中 洗浄途中、旧補彩除去途中



図6 修復中 紫外線蛍光写真 洗浄途中 黒い部分は旧補彩



図7 修復中 充填整形後

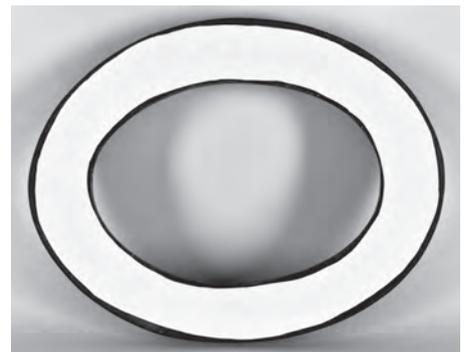


図8 修復中 額窓裏側



図9 修復後 表



図10 修復後 額装 表

## 修復報告 3

橋口由依

作 者：椿 貞雄

作 品 名：村山政司の像

制 作 年：1925年

材料・技法：油彩、カンヴァス

寸法(mm)：修復前 455 × 335

修復後 457 × 337

### 修復前の所見

全体的に埃が堆積し汚れている。画面には光沢のむらがあり、UV ライトを照射してまだらに塗布されたワニスを確認できた。暗褐色の背景部分全体に細かな亀裂が生じている。人物の右上に幅約1cmと幅約2cmの擦り傷があり、約2cmの方は画布を貫通している(図3)。この擦り傷の周辺は画布が変形している。人物部分の絵具の固着状態は良好である。制作に使用したものと考えられる筆の毛が画面全体に多数付着している。画布はタックスで木枠に固定されているが、タックスは全て錆びており、張りしろは短く切断されている。画布と木枠の間にも埃やごみが溜まっている。

### 修復処置

1. アンモニア水溶液(3%)で画面の汚れを洗浄した。また、キシレンを用いてワニスの軽減洗浄を行った(図4)。
2. カンヴァスを木枠から取り外し、画布裏面と木枠を清掃した。あわせてエタノールによる殺菌も行った。
3. 画布の裏面から湿気を与え、アイロンで加温、加圧して擦り傷の周辺部の変形を修正した。
4. 膠水溶液で破損部を接着し、端を薄くした麻布を BEVA371 シートで裏面に接着して補強した(図5)。
5. 木枠の釘穴をエポキシ樹脂の木工パテで充填し、木枠の色調にあわせて着色した。
6. 画布の張りしろを麻布で補強し、元の木枠に張り込んだ(図6)。
7. 擦り傷などの剥落部分に石膏と膠による充填剤を注入し、周囲のマチエールにあわせて整形した。周囲の色彩にあわせて充填部分に溶剤型アクリル絵具で補彩を施した。
8. ダンマルワニスを塗布して光沢を調整した。

### 修復後の所見

画面、裏面ともに堆積していた埃が取り除かれ、汚れた印象が改善された。人物右上の擦り傷と変形が目立たなくなり、画面全体を鑑賞しやすくなった。また、むらのあった古いワニスを洗浄し、新しいワニスを塗布したことで、画面全体が均一な調子の濡れ色になり、鮮やかな色彩が見えるようになった。(図7、8)。



図1 修復前 表

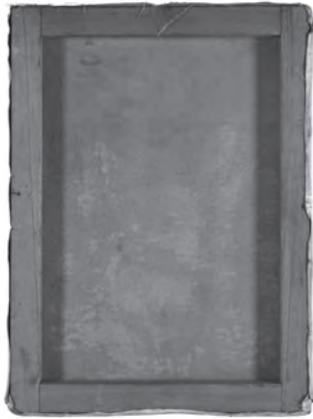


図2 修復前 裏



図3 修復前 擦り傷と画布の変形



図4 修復中 ワニスの軽減洗浄



図5 修復中 破損部接着



図6 修復中 張りしろ補強



図7 修復後 表



図8 修復後 裏

## 美術館資料の保存と活用

### —2023年度のアーカイブ事業と美術資料の公開について

長門佐季

2023年度は新規のアーカイブ資料の受け入れがなかったことから、既存資料の整理・公開に重点を置いて作業を進めた。具体的には、「100年前の未来：移動するモダニズム 1920-1930」展の開催にあわせ、仲田定之助旧蔵資料のうちの図書資料 2,660 件（和書 957 件、和雑誌 275 件、洋書 382 件、洋雑誌 677 件、展覧会図録 369 件）と神原泰旧蔵資料 90 件（洋書 77 件、洋雑誌 13 件）のウェブサイト上でのリスト公開を実施した。仲田定之助（1888-1970）は、大正期新興美術運動の重要な担い手のひとりであり、美術評論家としても活躍したことで知られるが、1922 年から 1924 年にドイツに私費で渡航し、バウハウスなど当時のドイツの美術運動にじかに触れるとともに、画廊兼書店のデア・シュトゥルムで同時代のドイツ美術作品を購入していることが日記から確認される。洋書、洋雑誌が充実しているのが仲田文庫の最大の特徴であるが、なかでもパウル・クレー、ワシリー・カンディンスキー、ジョージ・グロスに関する書籍を購入して日本に紹介した役割は大きく、日独文化交流に関する重要な資料的価値を有している。1996 年度にご令孫である馬場淳子氏より一括寄贈をいただき、資料整理を行い、調査研究に供してきたが、このたびウェブサイト上での公開としたことにより資料へのアクセスがしやすくなった。今後の課題としては、刊行物以外の資料であるノート、書簡、草稿類、スクラップなどの資料の整理・デジタル化、公開がある。

神原泰（1898-1997）もまた詩人、美術評論家としても活動した画家である。神原文庫は 1995 年に神原氏から寄贈された 90 冊からなる。1927 年以降は美術から離れたため作家としての活動期間は短いが、1910 年代に未来派に傾倒し、マリネッティと交友するなど大正期の前衛を先導した人物として重要である。膨大な蔵書のうちピカソ関係と未来派関係は大原美術館に神原泰文庫として寄贈されており、1990 年に『大原美術館神原泰文庫』が同館から刊行されている。当館所蔵の神原泰文庫は、そこに含まれない旧蔵書の一部で断片的ではあるが、デア・シュトゥルムの画集やアーキペンコ関係の文献など貴重な海外資料を含んでおり、今回のウェブサイト上での公開によって神原の美術史的教養の背景を明らかにする一端を担うものと思われる。

また、当館が掲げるアーカイブ事業の 4 つの柱（建築資料、展覧会資料、イベント資料、作家資料）のうち、上記の作家資料とともに重要な柱となっているのが展覧会資料である。1951 年の開館から 2023 年度末までに鎌倉館、鎌倉別館、葉山館において 780 本の展覧会を開催してきた当館に保存されている過去の展覧会資料は膨大である。それらの資料をデジタル化し公開していく作業は容易ではないが、着実に進めており、その取り組みのひとつとして 2023 年度は前年度に開催した展覧会のポスター画像 8 件ならびに鎌倉館、鎌倉別館で開催した過去の展覧会会場風景の画像 2,313 件をウェブ上で公開している。

なお、一次資料のデジタル化については、2021 年度から継続事業として科学研究費（研究成果公開促進 課題番号 21HP7001）の補助を受けている。

2023 年度の海外を含む外部研究者などによるアーカイブ資料の活用のおもな事例としては、次のものがある。

- ・イサム・ノグチ展関連資料
  - ・堀内正和資料
  - ・上野誠資料
  - ・シェル美術賞関連資料
  - ・斎藤義重旧蔵資料
- など合計 7 件 74 点。

2023 年度は、「100 年前の未来：移動するモダニズム 1920-1930」において当館蔵および寄託の久米民十郎旧蔵資料（13 点）、寄託の村山知義旧蔵資料（13 点）、2020 年受贈のヴァーツラフ・フィアラ旧蔵資料（12 点）ならびに仲田定之助旧蔵資料（4 点）を展示したほか、「木茂（もくも）先生と負翼童子」展では、青木茂氏旧蔵書である青木文庫（書籍等 9,358 冊、雑誌 610 タイトル）から 184 冊を展示するなど、展覧会において資料紹介が積極的に行われた。

今後も精度の高い情報と公開件数の増加によって研究者への利便性を高めるとともに、当館においても活用の幅を広げられるよう努めていく。

## 調査研究活動

### 調査・研究報告

#### 渡辺千尋旧蔵ポーランド・ポスターのポーランド民主化前後の比較から窺えること

——ミェチスワフ・グロフスキ、アンジェイ・ボンゴフスキ、ヴィクトル・サドフスキ、ヴィエスワフ・ヴァウクススキのポスターを資料として

榎山昌夫

ポーランド社会の変化がポーランド・ポスターに与えた影響についてもっとも早く述べた論文のひとつは、1989年の民主化から5年後に発表されたボズナン大学のフロリアン・ジェリンスキ教授によるもの( Florian Zieliński, "The Rise and Fall of Governmental Patronage of Art: A Sociologist's Case Study of the Polish Poster Between 1945 and 1990," in *International Sociology* Vol. 9, No. 1, March 1994, 29-41) である。この論文は社会学的視点からの示唆に富んでいるものの、具体例への言及が無いため、美術史やデザイン史の観点からは実証性に乏しいと言わざるを得ない。例えば、ジェリンスキによれば、民主化前にはデザイナーがポスターを「描いて」いたのに対して、民主化後には写真を用いた例が多いとされる。そこで、本稿では渡辺千尋旧蔵のポーランド・ポスターの内、民主化前後にわたり活動したデザイナーから作品数が比較的多いミェチスワフ・グロフスキ (Mieczysław Górowski, 1941-2011)、アンジェイ・ボンゴフスキ (Andrzej Pagowski, 1953-)、ヴィクトル・サドフスキ (Wiktor Sadowski, 1956-)、ヴィエスワフ・ヴァウクススキ (Wiesław Wałkuski, 1956-) の4人を採り上げ、社会の変化が個々のデザイナーの表現などに影響を与えたかどうか、具体的には、表現手段としての写真の使用に加えて、ポスターの分野、タイポグラフィ、紙質、印刷所など他の要素についても確認する。本稿では1989年9月7日の現在のポーランド共和国(第三共和国)の成立をもって民主化とし、便宜的に1989年までに印刷されたものを民主化前、1990年以降に印刷されたものを民主化後のポスターとする。

銅版画家の渡辺千尋(1944-2009)の遺族から2023年に寄贈されたポスター等は、1954年から1999年までに印刷されたポーランドを中心とする63人のデザイナーによるポスター等222点とデザイナー不明のポスター1点、渡辺自身の銅版画試刷1点の計224点である。222点の「ポーランドを中心とする」「ポスター等」というのは、その中にフランスのルイジ・カスティリオーニ(1936-2003)やハンガリーのパラシュカイ・ギオルギ(1954-)が含まれ、カスティリオーニのものは1989年にワルシャワのヴィラヌフ・ポスター美術館で開催された個展「ルイジ・カスティリオーニ——創造的ファンタジーの爆発」のポスターとおそらくその時に販売された印刷複製画(ポスターではない)であるためである。パラシュカイのものはポーランドの国立オシフィエンチム博物館(国立アウシュビッツ=ビルケナウ博物館)のために、おそらく販売用に制作されたポスター《思い出してください》(印刷年不明)(図1)である。カスティリオーニのポスターはワルシャワ端物印刷所(WDA)で、パラシュカイのポスターはポーランド南部カトヴィツェの印刷所(Grafpress Katowice)で印刷されている。本稿末尾で

も触れるが、「ポーランド・ポスター」の範疇については、今後の議論に委ねたい。渡辺は1989年にポーランドとチェコで個展を開いた際に、これらのポスター等をヴィラヌフ・ポスター美術館とポスター蒐集家クシシュトフ・ディド(1945-)が1985年にポーランド南部の古都クラクフに設立したポスター・ギャラリーで入手し、その後も後者から購入し続けていた。

神奈川県立近代美術館には、1980年の「ポーランド現代ポスター展」に際してポーランド政府から290点のポーランド・ポスターが、2019年にはマルティン・ムロシュチャク(1950-)から彼自身のポスター5点が寄贈されている。これら295点のポーランド・ポスターと渡辺旧蔵のポスター等の重複は僅かであり、当館の所蔵するポーランド・ポスターは現在約500点を数える。

#### ミェチスワフ・グロフスキ

1941年にポーランド南部のノヴィ・ソソチ郊外ミウコヴァに生まれた。タルヌフの国立美術技術高等学校を卒業し、1959年にクラクフ美術アカデミーのインテリアデザイン学部に入學し、絵画学部を経て、1963年から1966年に新設の工業デザイン学部でアンジェイ・パヴウォフスキ(1925-1986)の下で学び、卒業と共にその助手になった(註1)。1982年からソブロジー(環境保護学)教育、1999年からオルタナティブ・デザインなど革新的なプログラムを採り入れて2001年に教授になり、2011年にクラクフで他界した。グロフスキの創作の中心は400点以上のポスターであるが、クラクフ美術アカデミーではポスター制作を指導していない。1983年にアメリカのフォート・コリンズのコロラド国際招待ポスター展で1等賞、1985年に世界ポスタートリエンナーレトヤマで銅賞、1989年にワルシャワ国際ポスター・ビエンナーレで特別賞、1992年と2010年のメキシコ国際ポスター・ビエンナーレで金メダルを獲得している。2011年に文化勲章「グロリア・アルティス」金メダルを受章した。

渡辺旧蔵のグロフスキのポスターの16点の内、民主化前は2点、民主化後は14点である。1970年から1995年までデンマーク王立バレエ団の写真家であったジョン・R・ジョンセン(1945-2016)の1994年にクラクフで開かれた写真展「ジョン・R・ジョンセン 肉体は限られた空間である」のポスター(図2)は、ジョンセンの写真の部分



図1



図2

卵の殻の絵にコラージュして、そのタイトルを視覚化している。この1点を除く15点の原画はグロフスキが描いている。民主化前のポスターは展覧会と映画のものである。民主化後のポスターには音楽祭や学会のものもあるが、文化事業以外の分野は無い。民主化後のポスターの内、3点はデイドのポスター・ギャラリーのために制作されたもので、2点はワルシャワの出版社ヴィジュアル・スタジオの依頼による。民主化前後を通してほぼ手書きのタイポグラフィーであり、用紙はコート紙である。

ところで、1980年の展覧会の折に寄贈されたポーランド・ポスターには、グロフスキの1970年代後半の演劇ポスター5点が含まれている。タイポグラフィーには手書きのものと活字のものがあり、少なくともそのひとつ《エウリピデス イオン》(1976年)の表現には写真が用いられていることから、写真の使用やタイポグラフィーの選択に、民主化に伴う社会の変化が影響を与えているとは言えない。

### アンジェイ・ボンゴフスキ

1953年にワルシャワで生まれた。ポズナン国立美術大学グラフィック・アート学部のヴァルデマル・シフィエジ(1931-2013)のポスター教室で学び、1978年に卒業した(註2)。初めは風刺画を描いていたが、1976年からポスターを中心に制作し、ロサンゼルス『ハリウッド・リポーター』誌が主催する映画ポスター・コンテスト「キー・アート・アワード」で1981年、1984年、1986年、1987年、1990年に1等賞を得たほか、1983年にカトヴィツェの第10回ポーランド・ポスター・ビエンナーレで銀メダルを獲得している。レコード・ジャケット、書籍、演劇やテレビの舞台芸術、切手なども手掛けた。ボンゴフスキは、1980年の独立自主管理労働組合「連帯」が結成される舞台となったグダニスクの造船所でのストライキを描いたアンジェイ・ワイダ(1926-2016)監督の映画「鉄の男」(1981年)とアンジェイ・ホダコフスキ(1936-)とアンジェイ・ザヤツコフスキ(1936-2023)監督のドキュメンタリー映画「1980年の労働者たち」(1981年)のポスターで一世を風靡し、1989年にワルシャワのザヘンタ国立美術館で開催された個展「ポスターの都市」には群衆が押し寄せた(註3)。ボンゴフスキが1990年にワルシャワで設立したグラフィック工房スタジオPは、広告代理店クレアツィア・プロとして今日まで存続している。1992年にはポーランド語版『プレイボーイ』のアート・ディレクターになり、2005年には文化勲章「グロリア・アルティス」銀メダルを受章した。

渡辺旧蔵のボンゴフスキのポスターの14点(合作1点は除く)の内、民主化前は9点、民主化後は4点、印刷年が不明なものが1点である。いずれもボンゴフスキが原画を描き、分野は映画と演劇に限られ、すべて手書きのタイポグラフィーで民主化前後の差異は認められない。ただ、民主化前の用紙は上質紙で、民主化後はコート紙が多いが、1881年の《鏑》(図3)も1886年の《ハッピー・



図3

エンド》も1995年の《カルメン》もワルシャワ端物印刷所で印刷されている。

### ヴィクトル・サドフスキ

1956年にクラフクのオレアンドリ地区(旧市街の西側外、ヤギェウォ図書館付近)で生まれた。1976年から1981年にワルシャワ美術アカデミーのヘンリク・トマシェフスキ(1914-2005)の教室で学んだ(註4)。1977年から書籍デザインなどを手掛け、1983年からポスター制作に専心した。1984年に第9・10回ワルシャワ国際ポスター・ビエンナーレで金メダル、翌年にカトヴィツェの第11回ポーランド・ポスター・ビエンナーレで金メダル、1986年にドイツのオスナブリュックの第2回国際演劇ポスター競技会で1等賞と3等賞、1991年の第3回国際演劇ポスター競技会で2等賞、1994年のニューヨーク・イラストレーター協会年次展で金メダルを獲得するなど、ポスター・デザイナー、イラストレーターとして活躍している。

渡辺旧蔵のサドフスキのポスターの15点の内、民主化前は10点、民主化後は5点である。いずれもサドフスキが原画を描き、分野も外国映画や演劇など、民主化前後の差異は認められない。1992年以降の3点はいずれもワルシャワの出版社ヴィジュアル・スタジオの依頼による。民主化前後を通してほぼ手書きのタイポグラフィーであり、用紙はコート紙が多い。

民主化直後に描かれた2点のポスターは、フランスからポーランドに帰化したイヴ・グレ(1960-)監督によるモリエールの演劇のためのもので、文字の配置、レタリングが同じであることからシリーズとして制作されたと考えられる。ひとつはレーニン生誕の地ロシアのウリヤノフスクでの1989年の公演「ジョルジュ・ダンダン」のポスターを翌年に販売用に印刷したもので、もうひとつはポーランドのトルンでの1991年の公演「町人貴族」のポスター(図4)である。双方の連絡先として記載されているレシニャクとは1988年に結婚したグレの妻、女優ズザンナ・レシニャク(1965-1991)であろう。1991年10月10日、グレは、妻と親密な関係にあった歌手のアンドレイ・ザウハ(1949-1991)をクラクフの通りで銃殺し、妻も跳弾で死亡した。グレは獄中で4本の短編映画を制作し、2005年の出所後はイヴオ・カルデルというペンネームで脚本家として活動している。



図4

### ヴィエスワフ・ヴァウクスキ

1956年にポーランド東部のビャウストクで生まれた。1976年から1981年までワルシャワ美術アカデミーでテレサ・パンゴフスカ(1926-2007)に絵画を、マチェイ・ウルバニェツ(1925-2004)にグラフィック・デザインを師事した(註5)。卒業と共に国営映画製作・配給会社フィルム・ポルスキとポーランド映画の輸出機構ポルフィルムに雇われ、映画ポスターを制作した。また1980年代にはワルシャワの出版社ヴィジュアル・スタジオや数多くの劇場の仕

事も手掛けた。1987年からフリーランスの芸術家としてポスター、イラスト、絵画を制作している。250点以上のポスターを制作し、1988年にロサンゼルス『ハリウッド・リポーター』誌の「キー・アート・アワード」で1等賞、1990年のメキシコ国際ポスター・ビエンナーレで銀メダル、1997年にカトヴィツェの第15回ポーランド・ポスター・ビエンナーレで金メダルを獲得するなどしている。現代のもっとも偉大なポスター・デザイナーのひとりとみなされるが、彼の本質は画家であり、伝統的な絵画技法を用いて制作している。

渡辺旧蔵のヴァウクスキのポスターの29種類30点の内、民主化前は14種類15点、民主化後は15点である。いずれもヴァウクスキが原画を描いたもので、分野も外国映画や演劇など、民主化前後の差異は認められない。用紙は民主化前後を通して、原画に応じて上質紙とコート紙を使い分けているようである。例えば、日本の浮世絵版画の表現を模した日中合作映画「侠女十三妹」(1986年)のポスター(1988年)(図5)には上質紙が、ルイス・ブニュエル(1900-1983)監督の映画「自由の幻想」(1974年)

のポスター(1989年)(図6)には油彩画と思われる原画の再現に適したコート紙が用いられている。

ところで、ヴァウクスキの1980年代の10点の映画ポスターに記されているZGGとは、ポーランドの映画や文化イベントのポスター制作を担った「グラフィックおよび雑貨製作チーム(Zespoły Graficzne i Galanteryjne)」の略語であり、その内8点はポルフィルムからの委託によるものである。



図5



図6

渡辺旧蔵のグロフスキ、ポンゴフスキ、サドフスキ、ヴァウクスキのポスター計75点と1980年の展示会の折に寄贈されたグロフスキの5点を確認した結果、彼らのポスターの表現や印刷などに民主化前後での有意な差異を見出すことはできなかった。彼らは確立した自らの表現を時代の変化に合わせて変えることはなかったのである。これら4人は、経歴から明らかなようにポーランドの戦後のアカデミズムの中で教育を受けたデザイナーである——そもそも民主化以前の共産主義体制の中では、高等教育機関でのデザイン分野の卒業証書無しにそれを職業として生活することはほ

ぼ不可能であった。彼らは、1980年代からシュルレアリスム絵画の造形言語を採り入れるなどして頭角を現し、国内外のコンペティションで実績を上げたポーランド・デザイン界の言わば「エリート」たちで、蒐集家デイドのポスター・ギャラリーの扱いの対象作家であるとともに、映画ポスターを描いた最後の世代である。1990年代になるとポーランドに西側の資本主義と商慣行が徐々に浸透し、フィルムリールと共に供給される映画の予告編やスチル写真に基づく宣伝が描かれた映画ポスターにとって代わるようになる<sup>(註6)</sup>。ジェリンスキが指摘する民主化前後の差異のひとつは、こうした映画宣伝そのものの変化によるものであろう。

本稿では、1980年にポーランドに移住したリトアニア人芸術家スタシス・エイドリゲヴィチウス(1949-)の渡辺旧蔵ポスター31点を考察の資料から除外した。なぜなら、1980年の「連帯」誕生以降のポーランドの激動の時代における「ポーランド・ポスター」を、ポーランド人デザイナーによるポスター、ポーランドで印刷されたポスター、あるいはポーランドの施設等のために制作されたポスターなど、どの範疇に収めるべきか決めかねたからである。

#### 註記

- 1) Maciej Pawłowski, "Mieczysław Górowski," in Jacek Mrowczyk ed., *Very Graphic: Polish Designers of the 20th Century*, Warsaw: Adam Mickiewicz Institute, 2014, 336-341.
- Aleksandra Oleksiak, "Mieczysław Górowski (1941-2011)," w Michał Warda red., *123 Polskie Plakaty, Które Warto Znać*, Warsaw: Muzeum Plakatu w Wilanowie, Stowarzyszenie Twórców Grafiki Użytkowej / in Michał Warda ed., *123 Polish Posters You Don't Want To Miss*, Warszawa: Poster Museum at Wilanów, Association of Polish Graphic Designers, 2019, 202-203.
- 2) Rafał Nowakowski, "Andrzej Pągowski (1953)," *ibid.*, 194-195.
- 3) Agata Szydłowska, "Aesthetics of shortages and native optimism," in *Very Graphic*, 374-383.
- 4) Aleksandra Lewandowska, "Wiktor Sadowski (1956)," w *123 Polskie Plakaty, Które Warto Znać*, / in *123 Polish Posters You Don't Want To Miss*, 208-209.
- 5) Mariusz Knorowski, "Wiesław Wałkuski (1956)," *ibid.*, 246-247.
- 6) Agata Szydłowska, 376.

# 神奈川県立近代美術館における保存修復 20年の取り組み

伊藤由美

1951年に日本で最初の公立近代美術館として鎌倉で開館した当館は、1984年に鎌倉別館の増設を経て、2003年10月に葉山館が開館し、2016年に鎌倉館が閉館した。現在は2館体制で運営している。2003年に筆者は保存修復担当研究員として着任した。保存修復担当としてまず行うべきことは、多種多様な美術館業務において「保存修復」の仕事とは何かを理解してもらうことであった。そのためには仕事内容を体系付けて、持続性のある保存業務システムを構築し、その考え方を学芸員のみならず美術館職員全体に浸透させることが重要であると感じられた。学芸、管理課、外部委託業者という、立場も考え方も違う他分野間の理解を深め、協力体制を見出すためである。その骨格となる考え方として据えたのが、「保存管理」「修復」「調査研究」の3本柱である(表1)。

保存管理にあっては、根底に流れるのはIPM(Integrated Pest Management 包括的有害生物管理)の考え方である。このIPM

の考え方は、モンリオール議定書締約国会議において臭化メチルがオゾン層を破壊する物質に指定され、先進国において2005年に全廃される動きを機に、文化財の虫菌害対策に対し、臭化メチルを用いているものも多い燻蒸剤に頼るとい様な事後処置に解決を求めるのではなく、予防処置として包括的な防除策を模索する動きへと大きく方向転換をしたことから始まる。予防保存(preventive conservation)の重要性を中心に据えた考え方であり、現代において文化財保存の主流をなすものである。そして、当館においても保存活動の根幹をなすものである。

本稿は葉山館竣工以後、2003年10月の開館に向けて行った鎌倉館からの作品受け入れ準備、そしてその後、全館に亘って行ってきた保存修復分野の仕事の20年の主な活動の記録であり、当館の環境整備、作品の維持管理がどのような考えの元に始められ、繋げようとしているのかを伝え、経験を今後に生かすために記すものである。

葉山館開館に際しては、葉山館を文化財公開施設とするために文化庁に新規開館を申し出て、東京文化財研究所(以後、東文研と記す)による指導のもと、環境整備を進めた。

表1 保存修復関連業務の体系

保存管理	収蔵庫および展示室の保存環境整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>— 温湿度管理</li> <li>— 空気環境の整備</li> <li>— 文化財有害生物およびカビの防除</li> <li>— 照明、光</li> <li>— 振動</li> </ul>
	展示、収蔵時の作品安全管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>— 展示室における作品の安全確認</li> <li>— 収蔵庫における作品の保管状況確認</li> <li>— 屋外展示作品の展示状況確認</li> </ul>
	貸し出し、搬送時の作品安全管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>— 作品の状態確認と梱包方法の確認</li> <li>— ファシリティーレポートの作成</li> </ul>
	防災マニュアルおよび災害時の行動指針の設定 施設の防犯、防火体制の改善	
修復	館内での修復処置と修復計画	
	外部委託修復の修復計画と実施・確認	
	屋外展示作品のメンテナンス 作品点検と清掃	
調査研究	保存修復関連情報の入手・提供	
	他の美術館、博物館との情報交換、共同研究 調査研究	

## 1 保存管理

作品の保存管理には、環境管理と作品状態の管理がある。当館では建物および空調の維持管理、警備、受付監視、清掃は外部委託業務となっており、作品に対する良好な環境維持管理にはこれらの業務担当者たちの協力が不可欠である。保存担当者の役割として、学芸員をはじめ、すべての業務に関わる人たちとコミュニケーションをとりつつ作品や環境維持に関心を向けてもらい、常時情報を共有できる関係性を築くように努めた。また、各分野の現場の声や運用状況を共有し運用改善に反映させるため、各分野のチーフクラスの職員によるワーキングを立ち上げ、議事録を残すこととした。

2003年の葉山館開館にあたって収蔵作品は葉山館と鎌倉別館に収めることにした。葉山館には二つの収蔵庫と、一時保管庫が設置された。2003年4月の着任当時、当館は葉山館への引っ越し

準備のため休館し、葉山館に移動させる作品を鎌倉別館展示室に仮置きしていた。同年9月葉山館への作品移動、10月葉山館オープンと展覧会、11月鎌倉館、鎌倉別館再開館のスケジュールであった。しかし葉山館は竣工以降、収蔵庫の温湿度調整は全くできておらず40℃を超えることもあり、空調の改善を待つしかなかった。

収蔵作品管理では当初、開館年である1951年を起点に鎌倉別館にはそれ以前の作品を、葉山館にはそれ以後の作品を収蔵するという概ねの住み分けで引っ越しを済ませた。住み分けの根拠は制作年であり、作品材料とは無関係であった。実際の引越に際しては、新収蔵庫には予定していた全作品は収まらず、一部を鎌倉別館に戻す事態となった。収蔵環境の条件は作品の材料によって変わる。保存修復の観点からは当初の住み分けは理にかなわず、また、収蔵庫の空調管理の面から不利な面があった。検討の結果、

5年後、鎌倉別館には日本画、版画、ドローイングやポスター等の紙を材料とした作品、葉山館には彫刻、油彩画等の平面作品、文庫等が収蔵されることになった。作品入れ替えのための大掛かりな引っ越し作業であった。材料を基本とした分別収蔵は、同種の作品が同じ場所にあるという理解のしやすさとともに、空調制御が収蔵品の材料の保存条件に合わせられるというメリットがある。2017年からの鎌倉別館の大規模改修工事に際しては、別館の収蔵作品をすべて外部倉庫と葉山館に預けなければならなかった。その際には対象作品が一定であったので、空調条件や梱包方法など、移送先の条件を設定しやすかった。空調設備の事故や不足の事態が起きた場合も、対象物の材料が一定であると、種々の問題点も単純化され回避策を探りやすいメリットがある。

## 1) 収蔵庫および展示室の保存環境整備

### ・温湿度管理

葉山館の温湿度管理は壁設置のセンサーにより中央監視システムで制御されているが、このセンサーは各部屋の空気の流動が多い入口付近1か所に設置され、空調機には設定値調整のために負荷がかかる。また、作品管理上必要であるのは入口ではなく室内の情報である。そのため、目的に沿った計測ができ、記録媒体を備えた計測機を準備した。毛髪式自記温湿度記録計、デジタル温湿度ロガー、ハンディタイプ温湿度計の3種である。毛髪記録計は設定した一定期間の推移が設置場所で目視で確認でき、日々の管理には欠かせない。温湿度データロガーは、必要な時間間隔で記録が可能で時間を遡って詳細な変動推移が確認でき、また大量のデータ記録やグラフ化も可能であり、通信移送も容易である。葉山館では10年以上前から無線のロガーシステムを導入し、各部屋の温湿度を警備員室のサーバーで常時、確認できるようになった。また、収蔵庫内のデータも受信、確認ができ、学芸員が入室できない時間帯の空調異常の早期発見も可能となった。ハンディタイプ温湿度計は、固定設置の温湿度計では計測できない箇所の状況を把握するために必要である。様々な需要に対応するため、複数の機種や記録媒体を揃える必要があるが、同時に、総合的な評価から、相互の計測器の狂いや異常に気づくこともできる。委託会社に任せきりではなく、美術館側独自の管理、確認も必要である。



図1 アスマン計による毛髪計の調整

### ・空気環境の整備

2003年9月の作品移動と10月の葉山館開館展覧会に先駆け、東文研の指示に従い、全館のガス環境調査を行った。当時の簡易判定方法は、紙に含ませた試薬の色変化によりPHを判別しガス環境を観察する変色試験紙法であった(図2a, b)。当初、かなり酸性が強く、工事用の局所送排風機と延長ダクトを設置し強制排気を行った。収蔵庫に関しては、すでに設置されている棚板からの発生ガスが原因の



図2a 環境モニタリング調査



図2b 環境モニタリング調査(変色試験)

一つと考へ、学芸員総出ですべての棚板をエントランスに持ち出し、枯らしを行った(図3)。また収蔵庫では室温が40℃近くまで上昇してしまうなどシステム制



図3 エントランスでの棚板の枯らし

御の不備が続いたが、皮肉にも、この高温が建材の含有ガスを強制的に排出させるベイクアウトの状態となり、環境改善に功を奏した可能性がある。作品搬入直前に棚板を戻して行った環境測定では、ガス濃度も基準値を下回り、温湿度も多少高下変動は見られたものの要求水準近くとなった。作品搬入後、PFI事業として調査会社による空気環境調査が行われ、有機酸、ホルムアルデヒド、アンモニアガス濃度は基準値以下であった。この調査は捕集液にポンプで室内ガスを取り込んで分析を行なう、最も正確な調査方法である。ただし、時間と費用がかかる。その後、空気環境調査方法としては、有機酸(酢酸、ギ酸)、アンモニアの濃度を色変化の段階で判断できる簡易的な調査方法「パッシブインジケータ」が開発され、2008年の実用化を機に当館でも必要に応じて使用するようになった(図4)。近年では、測定検知管用の吸引ポンプを館予算で入手でき、検知管を使用して、有機酸、アンモニア、ホルムアルデヒドの濃度を数値によってより正確に判断できるようになった。



図4 パッシブインジケータ

特記すべき点として、ガス環境の改善措置は、冬期から梅

雨期前の建物が乾燥しているうちに行うべきであるということも挙げておく。建物躯体が湿った状況では内部のガスは発散され難くなる。今後の新築、改築工事の際には参考にしてほしい。

経年の中で収蔵庫では作品の材料や搬送用のクレート、梱包材など有機ガスを発生する要因が増えた。葉山館収蔵庫2では、当初、絵画ラックに振動があり、天井の給気口からの風量を減らす必要があった。その結果、空気の循環率が減り、その後の調査で酸性ガス濃度が上がり気味であることが分かった。対策として、夜間に空調運転時間を増やし換気をしている。

海に近い当館にとって、塩害問題は重大である。葉山館の展示室、収蔵庫は室内を陽圧にして外気の侵入を避ける策を講じている。車庫では車の入庫に際し、庫内を15分換気してから荷解き室との隔離

シャッターを開け、ガスや塩分の侵入を防いでいる。

#### ・文化財有害生物およびカビの防除

葉山館開館後は、PFI 事業の長期計画として、葉山館、鎌倉別館は、1年おきに収蔵庫の燻蒸が予定されていた。しかしIPMの考え方を基本として、収蔵庫の定期燻蒸は取りやめた。ただし、2003年に葉山館と鎌倉別館で、また、2020年には鎌倉別館改修工事直後に燻蒸を行った。燻蒸剤は、当初は殺虫殺菌効果のあるエキボン（臭化メチル、酸化エチレン）、近年ではアルプ（アルゴン希釈の酸化プロピレン）を使用している。

IPMの基本的な作業として当館が重要視しているのが、収蔵庫の定期清掃である。現在、葉山館、鎌倉別館には合わせて計7室の収蔵庫関連の部屋があり、順番に年に一度は徹底的に学芸員総出で清掃を行うことにしている。最初に床の水拭きで埃をまき散らさずに埃、ごみを拭き取り、その後にHEPAフィルター搭載の掃除機で残りの埃、ごみを除去する。これが収蔵庫清掃の基本である。浮遊菌、落下菌はどこにでも存在するが、この単純な清掃作業がカビ防除に大きく貢献する。また、彫刻作品収蔵の収蔵庫では、室内の清掃のみならず、白手袋や布などを使用しながら、作品も清掃する。日常はあまり目を配らない作品群の把握と、個々の作品の状態チェックも兼ねている。

葉山、鎌倉ともに緑地に囲まれた環境下で館内への虫の侵入は避けがたく、恒常的な対処が必要であるが自然と共存してゆくことも大切である。そこで虫の侵入状況を把握するため、いつ、どこに、どのような状況で発生するのかを調べる調査を行った。全館のエントランス、展示室、警備員室、学芸員室に虫発生調査書を配り、記入をお願いした。その統計結果を参考にして、侵入数の多い5月から9月頃を目途に、その期間のみ一か月おきに建物の外周部に薬剤を散布することにした。正面には液状で目立たないもの、バックヤードには残効性の高い顆粒状のものを毎年散布している。さらに館内の徘徊性害虫の発生調査で害虫トラップを設置、定期調査により、館内発生の状況を把握している。現在でも受付監視、警備員室からの虫発生調査書の提出は続いており、虫発生時には即報告が上がり早い対処ができることはありがたい。また、薬剤のみに頼るのではなく、ドア下や隙間に防虫ブラシ等を取り付け、これも確実に功を奏している。

#### ・照明、光

室内、室外のガラス部分には、UVカットシートを貼り、紫外線防止とともに、飛散防止の対策ともなっている。葉山館内では蛍光管に紫外線防止チューブを装着し、これも災害時の飛散防止を兼ねている。

展示室の照明は、作品の材料に応じた文化財に適した照度を基準としている。展示作業時には保存担当としても相談に乗るように心がけている。葉山館では近年、スポット照明としてLEDも導入している。

#### ・振動

葉山館開館当初、収蔵庫2では、一部の絵画ラックと作品が目視で分かるほど揺れていた。恒常的な微振動は作品にとって大敵である。調査の結果、絵画ラックの真上にある空調の



図5a 振動調査

給気口からの風がラックに振動を与えていることが判明し、プーリー（回転を制御する伝導部品）のサイズを下げて風量を抑える措置を取った（図5a,b）。その結果、収蔵庫2では空気の循環率が下がり、酸性ガス濃度が上がり気味となった。絵画ラックの真上に給気口を設置することは、避けるべきである。



図5b 収蔵庫絵画ラックの振動調査

## 2) 展示、収蔵時の作品安全管理

### ・展示室における作品の安全確認

展示作業は学芸員、搬送・展示業者、会場設営施工業者が関わる作業であり、総合的な視点が必要となる。その際に作品に対して安全な展示方法、展示器具、内装材、照明などがチェックポイントとなる。また、それは作品の材料、形態、重量、耐震、防犯、観覧者の動向など種々の要素を念頭に入れなければならない。展示方法、展示器具は業者の経験に頼る部分が大きいが、作品が接する壁、展示ケースや内装材の、作品材料に対する安全性などの配慮は、保存科学の知識が必要となることがある。観覧者の動向などは、受付監視職員の観察眼や経験も大いに参考になる。作品への接触については時として観覧者の事情も考慮しなければならないが、触れて困る場合は、結界を設けることは基本である。

### ・収蔵庫における作品の保管状況確認

収蔵庫内は、通常、無人であり地震など有事に際しては直ぐに確認に行くことはできない。したがって、日常から転倒、落下、振動などの防止策を確実に実行しなければならない。絵画ラックのストッパー留め忘れや種々の安全対策の処置忘れ、不備に対しては、収蔵庫に入った全員がその都度、目を配るよう習慣を付けることが大切である。なお、当初、鎌倉別館の絵画ラックにはストッパーがなく、2003年の再開後、後付けで装着した。また、保存箱収納の棚には落下防止のベルトを装着した。

### ・屋外展示作品の展示状況管理

日々、庭園を歩き、屋外設置作品の状態、周辺植栽を観察するようにしている。海に隣接して塩害もひどいが、台風の被害も何度も受けた。作品によっては天気予報を元に、補強部材を設置して強風による変形防止策を講じている。また、強風後は、定期清掃以外にも、作品を水洗し、塩分除去処置を行う必要がある。

## 3) 貸し出し、搬送時の作品安全管理

他館からの借用依頼に際しては、事前調査とともに、損傷が見られた場合は可能な限り修復処置をして借用要望に応えられるよう努めている。

### ・作品の状態確認と梱包方法の確認

葉山館開館を機に、作品状態確認のチェック用書類一式を作り替えた。詳細な情報はMusetheque（以後MT）と称する収蔵品管理データベースシステムに記載されているので、コンディションチェックシート（以後CS表）には貸し出しに必要な情報のみを記載し、手で扱いやすいように少し厚めのB5ケント紙を使用した。材料、損傷の種類等は選択肢からのマル付け方式として、記載者

によって用語のばらつきがないようにした。CS表は、モノクロで、書き込みが増えてゆき作品の状態がわかり難くなるので、作品の基本情報とカラー写真を貼り付けた「台帳」を別途作成した。さらに貸し出し履歴と担当者を記載したリスト票を作成し、必要に応じて以前の状態を確認できるようにした。これらの3点を一体として貸し出し用フォルダとした。

CS表や台帳に記された内容はMTに準じているが、目録作製時も含め、材料、技法等の語彙については、修復家の立場からも学芸員と意見統一を図った。

#### ・ファシリティレポートの作成

現在では美術館同士の作品の貸借ではファシリティレポート(以後FR)の提出が必須である。当館では、全国美術館会議(以後全美)の保存研究部会が行ったAAM(アメリカ博物館協会)のFRの翻訳版を、状況によってカスタマイズしながら使用している。

保存修復担当としては、提出されたFRの内容をチェックして貸し出しの可否を判断し、不具合がある場合、条件改善の要求をする必要がある。他館からの作品借用に際しては、FRとともに展示予定箇所の1年前の温湿度データの提出を求められる。したがって、展示室の温湿度は一年後の提出の可能性も見据えて、常に適正な環境を示せる状態しておかなければならない。

#### 4) 防災マニュアルおよび災害時の行動指針の設定

美術館は災害時には来館者の安全な避難誘導、展示作品と収蔵作品の安全管理を目標としているが、各施設と立地特有の条件にあったマニュアルが必要である。防災に対しても、展示室での事故や作品損傷に対しては、受付監視、警備、管理課、学芸など相互の連絡体制と日常の訓練が必要である。それを明確にするために連絡フローを作成している。防災訓練の際には、解散前の反省会とアンケートを提案し、現在では管理課が引き継いで実施している。また、災害時の作品点検等も、参集した人数によって何ができるか、作業の優先順位をつけていくことが大事である。

展示室には作品汚損や事故に備えて、温湿度計の設置台のデザインを工夫して、扉内部に拭き布、白手袋、刷毛、精製水を常備している(図6)。

2011年の東日本大震災においては、交通事情で当館に滞在することとなったが、地震直後と翌日の収蔵庫、展示室点検、翌日の庭園および屋外展示作品の状態確認を行った。当時、全美の保存研究部会の幹事でもあり、東北の被災館に関する入手情報を、夜を徹して全美の本部と連絡、共有をすることも必要であった。

現在では、情報網の改善も行われている。なお、文化財のレスキュー活動が始まってからは、修復家として、石巻文化センターの被災作品に対する宮城県美術館での応急処置、陸前高田市立博物館の被災作品現地状況調査、作品搬出、盛岡での安定化処理に参加し、また修復家の参加要請をするとともに、現地に派遣された学芸員たちと共に作品



図6 温湿度計設置台の内部

の安定化処置を行った(図7)。2022年には、レスキュー活動参加の経験をもとに、全美、川崎市市民ミュージアムと共同で、緊急時のための常備用資機材リストを作成した。



図7 陸前高田市立博物館 文化財レスキュー作業

#### 5) 施設の防犯、防火体制の改善

葉山館開館時においては東文研による指摘事項の改善が必要であった。展示室と展示ロビーを仕切る鉄扉は防火扉としての機能はあったが、防犯上、鍵の施錠だけでは不十分であり床へのフランス落としによるロック機能の追加を指摘された。展示室3bのガラス開口部に関しては、当初、難色を示されたが、二重窓であること、夜間のブラインド閉め、外からの侵入の難しさから許可となった。また、開館当初はUVカット、飛散防止シートが貼られておらず、強力な台風の際に、折れた枝の飛散で外側のガラスが破損したことからガラスにUVカット、飛散防止フィルムの装着をした。当箇所はすべての展示室に通じる箇所であるので、美術館設計としては、ガラス開口部にはシャッター等の防犯設備は必要であろう。

## 2 修復

当館に勤務して最初に修復関連の仕事に着手したのは、休館中の鎌倉別館の展示室に仮置きされていた作品群の清掃であった。長年の埃の堆積は著しく、葉山館の新収蔵庫に搬入するのが憚られるほどであり、急遽、掃除機を買い足して作業を行った。鎌倉館向かいの別棟の倉庫には、普段から収蔵庫に入らない大型作品が収められていたが、これらの作品も埃の堆積、金属部分の錆の発生がひどく、晴れた日に前庭に出し、学芸員皆で錆落としと埃除去を行った。可能な限り、収蔵庫に収める前に、清掃、修復を済ませようと努めたが、おびただしい数の作品に対して応急処置、清掃、葉山館までの搬送に耐えそうにない絵具の浮き上がり接着や養生、額への作品固定等が精いっぱいであった。一方、当時の館長酒井忠康氏から、喫茶室の白い壁の下には田中岑の作品があり、ある時、板で隠されてしまったという話を聞いた。

興味深い話に乗る形で、結局、板を外して外部修復業者とともに修復を行い、喫茶室の壁画として復活させた(図8)。2016年の鎌倉館閉館を機に、葉山館のホワイエに移設した。



図8 旧鎌倉館喫茶室の壁画修復

### 1) 館内での修復処置と修復計画

館内展示や館外貸し出しに際し、事前の状態調査で損傷が見つかった場合は、優先的に処置を行い展示や貸し出しのニーズに応えるように心がけている。一方、修復を必要とする作品をリストアップし、修復計画を立てて、葉山館、鎌倉別館両館での作業の日程調整を図るようにしている。館内のできる修復には、資機材、人手、時間の面から限界がある。しかし美術館における修復担当者の重要な作業は、本格的な修復処置も勿論であるが、損傷を早めに見つけ、拡大させない処置を行うことである。

修復作業に際しては修復記録と撮影写真を残し、特に修復後の写真に関しては、MTに反映させて記録として使用できるようにしている。

### 2) 外部委託修復の修復計画と実施・確認

現在、当館の修復担当者の専門領域は、油彩を中心とする洋画であるが、日本画や彫刻のように材料や構造の違う作品は、適切な修復材料、方法を用いて処置しなければならず、外部委託として専門の修復家に依頼する。その際に、修復担当者は、適切な修復家を選定し、修復家の提案、見積もり、修復処置が適正であるか見定める必要がある。また、修復内容に関し、館としての要望を伝えることも必要である。

### 3) 屋外展示作品のメンテナンス

鎌倉別館、葉山館ともに屋外に彫刻作品が展示されているが、海浜地域において塩害は深刻であり、特に鉄製作品の錆の発生は著しい。他にも地衣類の繁殖や塗装の浮き上がりなど、屋外展示の宿命的な損傷も免れない。損傷の程度が重い場合は外部委託として専門分野の修復家に依頼するが、基本的には可能な限り、館内におけるメンテナンスで良好な状態を維持できるように努めている(図9)。基本かつ重要な処置は水洗である。年に1度は学芸員



図9 屋外展示作品の清掃

### 4) 作品点検と清掃

作品の貸し出しや展示は作品の状態を点検する絶好の機会である。損傷を見つけた場合、軽度のうちに処置できることは美術館内に修復家がいる大きなメリットであり、作品にとっても負担のない処置で済む。

また、埃除去や額縁の裏板装着の単純な作業は、カビ防止対策の基本である。

## 3 調査研究

### 1) 保存修復関連情報の入手・提供

日進月歩の修復関連情報を修復業務に還元するためにも、美術館と保存修復関連の学会や同業者間での交流は必要である。収蔵

庫、展示室で使用する資機材については、業者側からの新情報と共に、使用者の側からも提案し、より使いやすいものを作成してもらうことも必要である。

### 2) 他の美術館、博物館との情報交換、共同研究

全国美術館会議保存研究部会の会合は情報交換の場としては非常に役立っている。美術館特有の悩みや解決法、取り組みについての情報交換は直接的で有用である。また、保存関連業務の業者によるレクチャーは、大いに勉強になる。

### 3) 調査研究

収蔵作品に関し、大学や絵画研究者から技法や材料に関する調査依頼がくることがある。光学調査や材料分析結果などは、当館にとっても重要な資料の蓄積となる。当館からの依頼に応じてもらうこともあり、協力関係の構築は有益である。

助成金を得て、海浜地域における環境整備の調査研究を行ったことがあるが、収蔵庫の空気環境については調査会社の協力を得られたこともあり、ガス環境検査、落下菌、浮遊菌、菌の繁殖について葉山館、鎌倉別館の収蔵庫内の詳細な環境調査を行うことができた。カビ菌に関しては、両館とも菌の数は少なく、清掃や汚い素材を持ち込まない習慣が功を奏していると思われる。

屋外彫刻に関しては、大学の研究室の協力をえて、鉄製作品の錆による落下片の分析から、錆の発生状況を知ることができた。また、塩害に対しても、鉄サンプルによる錆発生状況調査を行い、外部からの空気の侵入防止策が有効であり、収蔵庫には塩害が及んでいないことが分かった(図10a、b)。



図10a 鉄暴露試験一中庭

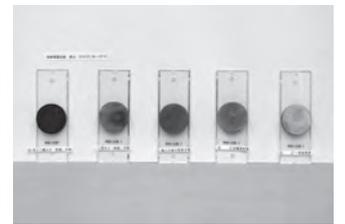


図10b 錆暴露試験結果

### おわりに

葉山館開館以来20年の間に、葉山館、鎌倉別館とともに新築、老朽化、改修工事と様々な様相の変化とそれに伴う工事、対処を必要としてきた。その都度、作品への影響を考慮する必要があった。作品自体も経年劣化があり、屋外展示作品に至っては顕著な損傷を被った作品も多い。費用面も含め、劣化、損傷への対処は程度、内容の如何に関わらず、何か解決策を見つけねばならず、一歩でも改善することを目指してきた。美術館における保存修復において、何をすべきか、何ができるのか、美術館職員全体の理解のもとでそれが見つけられ、成されるよう、この20年の経験のほんの一部ではあるが伝えられ、今後の保存修復活動に役立てば幸いである。

## 調査研究の発表・執筆等

- 1) 文献等の執筆数(専門誌や年報などに掲載された学術論文)
  - 西澤晴美「占領期から一九五〇年代における朝倉摂の舞台美術について」『近代画説』32号、明治美術学会、2023年、pp.69-85
  - 靱山昌夫「ロシア帝国の美術② 十九世紀後半のアカデミズム」『ひらく』第9号、2023年6月30日、pp.87-99
  - 長門佐季「松本竣介の《立ち話》ともう一人のグロス」『神奈川県立近代美術館 年報 2022 年度』2023年12月28日、pp.50-51
  - 橋口由依、本田秀行「美術作品の状態記録を目的とした簡易 3D スキャンの活用」『神奈川県立近代美術館 年報 2022 年度』2023年12月28日、pp.47-48
  - ほか1件 (p.15 参照)
- 2) 図録等の執筆
  - 9件 (pp.5-21 参照)
- 3) 雑誌・新聞等の寄稿
  - 三本松倫代「カディオワ、ジャンナ(人間の記録)」『美術(海外/日本)』『ブリタニカ国際年鑑 2023 年版』ブリタニカ・ジャパン、2023年4月、pp.62, 205-207
  - 西澤晴美「福島秀子(作家解説)」『日本アーティスト事典』(オンライン版)、国立アトリサーチセンター、<https://artplatform.go.jp/artists/A1839>
- 4) 専門的な講座
  - 三本松倫代「TOKAS-Emerging 2023 第2期:アーティスト・トーク」トーキョーアーツアンドスペース本郷、2023年5月20日
  - 朝木由香「講座:世田谷美術館美術大学『マン・レイ その越境する光』」世田谷美術館、2023年10月31日
- 5) 学会や研究集会での発表
  - 橋口由依「戦後セメント彫刻の保存修復と活用—堀内正和《横の作品》を一例にして—」文化財保存修復学会第45回大会、国立民族学博物館、2023年6月24日
  - 三本松倫代「概要説明 100年前の未来:移動するモダニズム 1920-1930」明治美術学会第4回例会、神奈川県立近代美術館 葉山、2023年10月21日

## 外部資金の活用

- 1) 外部資金を活用した調査研究
  - 「日本の抽象彫刻をめぐる批評基準の研究—近代美術館設立と展覧会の再考から」令和5度科学研究費助成事業(若手研究:研究代表者 菊川亜騎)
  - 「日欧シュルレアリスムの交流と共同制作の展開:瀧口修造とジュアン・ミロの書簡研究」令和5度科学研究費助成事業(基盤研究C:研究代表者 朝木由香)
  - 「若江漢字撮影によるヨーゼフ・ボイス・ドキュメントのアーカイブ構築と公開促進」DNP 文化振興財団グラフィック文化に関する学術研究助成(2022年度継続研究:代表研究者 三本松倫代)
- 2) 外部資金を活用した展覧会・事業
  - 「神奈川県立近代美術館アーカイブ事業」令和5度科学研究費助成事業(科学研究費補助金)(研究成果公開促進費:代表者 長門佐季)

## 講師派遣・外部委員等就任

### 1) 講演会講師等派遣(当館主催の学校連携プログラム以外の講師等派遣)

実施日	会場	内容	主催/共催	派遣者
令和5年5月20日	トーキョーアーツアンドスペース本郷	「TOKAS-Emerging 2023 第2期」オープニング・トークゲスト	東京都現代美術館	三本松倫代
令和5年7月22日	ハリウッドビューティープラザ	「富井大裕・堀内正和二人展」トークイベント対談	ユミコバチアソシエイツ株式会社	菊川亜騎
令和5年9月18日	金沢卯辰山工芸工房	「漆芸工房前期講評会」講師	金沢卯辰山工芸工房	高嶋雄一郎
令和5年10月31日	世田谷美術館	講座「世田谷美術館美術大学」講師	世田谷美術館	朝木由香

### 2) 外部委員等就任

職員名	団体名	職名
水沢 勉	神奈川県	神奈川県美術展委員会委員・審査員
	群馬県	群馬県立館林美術館作品収集委員会委員
	神奈川県女流美術家協会	神奈川県女流美術家協会展審査員
羽山昌夫	小田原市	小田原・足柄下地区小学校教育研究会講師
	逗子市	逗子市立久木中学校講師
	平塚市	平塚市美術館協議会委員
	湯河原町	美術品等選定委員会委員
	神奈川県	文化遺産課「文化財保護ポスター展」審査員
	独立行政法人日本学術振興会	科学研究委員会専門委員
	相模女子大学	「空間演出プレゼンテーション論」講師
長門佐季	独立行政法人国立美術館	東京国立近代美術館美術作品評価員
		東京国立近代美術館美術作品購入等選考委員会(美術部門)委員
	東京都	東京都現代美術館美術資料収蔵委員会(評価部門)委員
	宮城県	宮城県美術館協議会美術品収集専門部会委員
	世田谷区	世田谷区立世田谷美術館美術品等収集委員会委員
	宇都宮市	宇都宮美術館美術作品等収集評価委員
	横浜市	横浜市美術資料収集審査委員会委員
	川崎市	川崎市文化芸術振興会議岡本太郎美術館部会委員
	平塚市	平塚市美術品選定評価委員会委員
	横須賀市	横須賀美術館美術品評価委員会委員
	公益財団法人ボニーラ美術振興財団	美術品収集検討専門委員会委員
	多摩美術大学	多摩美術大学アートアーカイヴセンターアドバイザーボード
	高嶋雄一郎	神奈川県
		かながわ労働センター川崎支所「美術品の適切な管理について」アドバイザー
		教育施設課「移設調査」調査員
三本松倫代	茅ヶ崎市	茅ヶ崎市美術品審査委員会委員
西澤晴美	公益財団法人浜松市文化振興財団	特別展「内田あぐり 沱 Fluxes」アドバイザー
菊川亜騎	東京造形大学	「博物館実習Ⅲ」及び「彫刻表現論A」ゲスト講師

# 運営・管理報告

## 概況

### 1) 沿革

昭和26年11月17日	神奈川県立近代美術館として開館（鎌倉館）
昭和41年3月31日	収蔵庫及び常設展示室並びに附属棟を増設
昭和44年3月31日	学芸員室を増設
昭和49年8月1日	神奈川県立近代美術館組織規則（昭和49年神奈川県教育委員会規則第9号）により、管理課、学芸課の2課を置く
昭和59年7月28日	別館を開館
平成3年10月30日	本館の改修工事完了
平成13年7月5日	PFI事業契約の締結
平成15年6月1日	神奈川県立近代美術館組織規則の改正により、管理課、企画課、普及課の3課体制となる
平成15年10月11日	葉山館を開館
平成28年3月31日	鎌倉館を閉館
平成28年12月22日	鎌倉館の建物を（宗）鶴岡八幡宮に譲渡
平成29年9月4日	鎌倉別館を改修工事のため一時休館
令和元年10月12日	鎌倉別館の改修工事完了による再開館
令和元年12月26日	葉山館を改修工事のため一時休館
令和2年4月11日	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため鎌倉別館を臨時休館
令和2年6月9日	感染状況良化に伴い鎌倉別館を再開館
令和2年7月6日	鎌倉別館を改修工事のため一時休館
令和2年7月31日	葉山館の改修工事完了し再開館
令和3年1月12日	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時休館
令和3年3月23日	感染状況良化に伴い再開館
令和3年10月1日	鎌倉別館の改修工事が完了し再開館
令和5年5月8日	新型コロナウイルス感染症の5類変更に伴う通常開館の再開

### 2) 所掌事務

県民の近代美術に対する知識及び教養の向上を図るため、近代美術に関する資料の収集、保管及び展示並びにこれに関する調査研究、情報提供等を実施する。

### 3) 施設の状況

令和6年3月31日現在

ア 土地		面積
県有	（葉山館分）	15,034.86㎡
	※生涯学習課管理	
	（鎌倉別館分）	4,937.00㎡
イ 建物		延床面積
	（鎌倉別館分）	1,902.93㎡
借用	（葉山館分）	（有償分） 7,111.51㎡

## PFI事業の概要

### 1) 事業内容

鎌倉の地における開館以来半世紀が経過する中で不足してきた機能を補うため、既設館と連携する新館を葉山町に建設し連携することで、これまでの高い企画力を受け継ぎ、展示・収蔵機能の充実など、生涯学習時代にふさわしい機能を備えた美術館を整備することとした。その整備に当たっては、PFI法に基づき事業者が新たに葉山町に新館を建設・所有し、維持管理業務・美術館支援業務・備品等整備業務を行うとともに、既設館についても維持管理業務を行うこととした。事業者は、平成15(2003)年4月に開始した維持管理業務・美術館支援業務が終了する30年後の令和15(2033)年3月末をもって県に施設を無償譲渡する。事業者の主な業務は次のとおり。

- ア 葉山館建設業務：葉山館 新築工事、バスベイ・歩道整備工事など
- イ 維持管理業務：葉山館 建築物修繕、建築設備保守管理（修理を含む）、清掃、警備、受付・監視など  
鎌倉館及び鎌倉別館 建築設備保守管理（修理を含まない）、清掃、警備、受付・監視など  
※鎌倉館の業務は借地期限の平成27年度までとする。
- ウ 美術館支援業務：美術情報システムの整備及び運用支援、独立採算による付帯施設（レストラン、ミュージアムショップ、駐車場）運営

### 2) 事業者

株式会社モマ神奈川パートナーズ

所在地：横浜市西区みなとみらい2-2-1

## 収入・支出の状況

収入	令和5年度実績	
科目	金額(円)	内訳
教育総務費使用料	34,959	鎌倉別館電柱等 土地・建物使用料
社会教育費使用料	33,893,690	観覧料収入
社会教育費事業収入	6,890,722	図録等売払収入
社会教育費受講料収入	0	
社会教育費立替収入	2,151,447	レストラン他光熱水費等
教育費雑入	25,720	図書館複写料金
計	42,996,538	

### 支出(人件費含まず)

科目	金額(円)	内訳
維持運営費	23,862,419	維持管理
美術館事業費	60,375,995	展覧会開催費、教育普及事業、 調査研究事業
美術作品整備費	1,758,930	美術作品購入・修復
特定事業費	377,407,691	PFI事業費
県立社会教育施設公開講座事業費	0	
計	463,405,035	

※収入・支出とも近代美術館執行分のみ

## 関係法規

### 神奈川県立近代美術館条例

昭和42年3月20日

条例第6号

(最終改正)平成28年10月21日

条例第77号

(趣旨)

第1条 この条例は、神奈川県立近代美術館(以下「美術館」という。)の設置、管理等に関し必要な事項を定めるものとする。

(設置)

第2条 近代美術に関する資料の収集、保管及び展示並びにこれに関する調査研究、情報提供等を行い、県民の近代美術に対する知識及び教養の向上を図るため、美術館を三浦郡葉山町一色2,208番地の1に設置する。

(職員)

第3条 美術館に、事務職員、技術職員その他の所要の職員を置く。

(観覧料の納付等)

第4条 美術館に展示している美術館資料を観覧する者(以下「観覧者」という。)は、別表に定める額の観覧料を納めなければならない。ただし、公開の施設に展示している美術館資料の観覧については、この限りでない。

2 前項の規定にかかわらず、特別な企画の展覧会を開催する場合の観覧料は、神奈川県教育委員会(以下「教育委員会」という。)がその都度別に定めることができる。

3 教育委員会は、第1項本文及び前項に規定する観覧料を取めた者に観覧券を交付するものとする。

4 観覧者(別表備考2に規定する者を除く。)は、入館する際に、前項に規定する観覧券又はこれに代わるものとして教育委員会が認めたものを提出し、又は提示しなければならない。

(観覧料の減免)

第5条 前条第1項本文及び第2項の規定にかかわらず、教育委員会は、次の各号のいずれかに該当する者については、観覧料を減免することができる。

(1) 教育委員会が開催する行事に参加する者

(2) 教育課程に基づく教育活動として入館する高校生(学校教育法(昭和22年法律第26号。別表備考において「法」という。)第1条に規定する高等学校及び中等教育学校の後期課程並びにこれらに準ずる教育施設に在学する者をいう。別表において同じ。)並びに児童及び生徒の引率者

(3) その他教育委員会が適当と認めた者

(観覧料の不還付)

第6条 既に納付された観覧料は、還付しない。ただし、教育委員会が災害その他特別の事情により還付するのを適当と認めたときは、この限りでない。

(資料の特別利用)

第7条 美術館資料を学術上の研究のため特に利用しようとする者は、教育委員会の承認を受けなければならない。

(利用の制限)

第8条 教育委員会は、美術館の利用者が次の各号のいずれかに該当する場合には、その利用を制限することができる。

(1) この条例又はこの条例に基づく規則に違反したとき。

(2) 他の利用者に著しく迷惑をかけるおそれがあると認めるとき。

(3) 施設、美術館資料等を損傷するおそれがあると認めるとき。

(4) その他教育委員会が必要と認めるとき。

(委任)

第9条 この条例に定めるもののほか、美術館の管理等に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

附則

1 この条例は、昭和42年4月1日から施行する。

2 神奈川県立近代美術館条例(昭和26年神奈川県条例第46号)は、廃止する。

<略>

附則(平成28年10月21日条例第77号)

この条例は、平成28年12月1日から施行する。

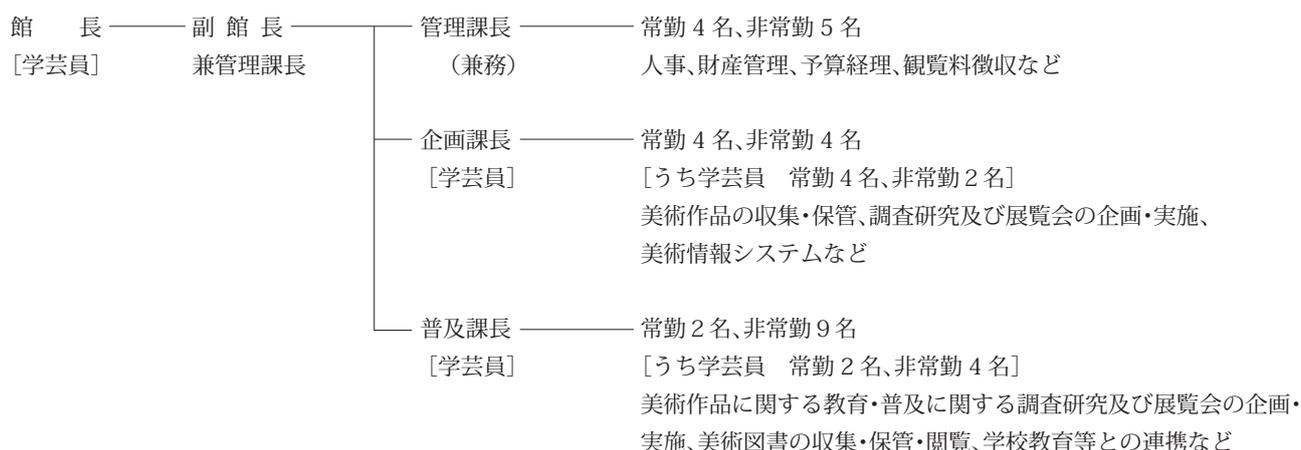
別表(第4条関係)

区 分	個 人	20人以上の団体
20歳以上65歳未満の者(学生及び高校生を除く。)	1人につき 250円	1人につき 150円
20歳未満の者(高校生を除く。) 学生(65歳以上の者を除く。)	同 150円	同 100円
65歳以上の者 高校生	同 100円	同 100円

- 備考 1 学生とは、法第1条に規定する大学及び高等専門学校、法第124条に規定する専修学校並びに法第134条第1項に規定する各種学校に在学する者をいう。  
2 学齢に達しない者並びに法第1条に規定する小学校、中学校、中等教育学校の前期課程及び特別支援学校並びにこれらに準ずる教育施設に在学する者は、無料とする。

組織

葉山館の整備による組織の改編を行うため、神奈川県立近代美術館組織規則を改正(平成15年6月1日施行)し、従来の管理課・学芸課の2課体制から、管理課・企画課・普及課の3課体制となった。令和6年3月31日現在の職員配置状況は次のとおり。



職員数合計 32名  
常勤 13名(臨任 1名、再任用 1名含む)、非常勤 19名(短時間勤務再任用 1名を含む)  
[うち学芸員 常勤 8名(臨任 1名含む)、非常勤 7名]

館別配置状況

葉山館 常勤 10名、非常勤 15名(短時間勤務再任用 1名を含む)  
[うち学芸員 常勤 6名、非常勤 5名]  
鎌倉別館 常勤 3名(臨任 1名、再任用 1名含む)、非常勤 4名  
[うち学芸員 常勤 2名(臨任 1名含む)、非常勤 2名]

## 職員一覧

館長(非常勤)	水沢 勉		
副館長	信太 雄一郎	2023(令和5)年5月31日まで	
副館長	高德 浩二	2023(令和5)年6月1日から	
管理課	課長(兼)	信太 雄一郎	2023(令和5)年5月31日まで
	課長(兼)	高德 浩二	2023(令和5)年6月1日から
	主査	木村 賢介	
	主事	藤堂 安規	
	主事	伊藤 朗	2023(令和5)年5月31日まで
	主事	菅野 宏介	2023(令和5)年6月1日から
	管理業務主任専門員	齋藤 基幸	
	非常勤事務補助員	原田 裕子	
	非常勤事務補助員	菊池 広美	
	非常勤事務補助員	大平 容子	
	非常勤事務補助員	伊藤 智子	
	非常勤事務補助員	伊藤 香織	
企画課	課長	長門 佐季	
	主任学芸員	高嶋 雄一郎	
	学芸員	菊川 亜騎	
	学芸員	橋口 由依	
	臨時学芸員	朝木 由香	
	非常勤研究員	伊藤 由美	
	非常勤学芸員	松尾 子水樹	
	非常勤学芸員	武者 みずほ	
	非常勤事務嘱託	本田 秀行	
普及課	課長	初山 昌夫	
	主任学芸員	三本松 倫代	
	主任学芸員	西澤 晴美	
	非常勤学芸員	太田原 笙子	
	非常勤学芸員	永井 慧彦	
	非常勤学芸員	ハリントン角皆 萌仁香	
	非常勤学芸員	林 直央	
	[美術図書室]		
	図書業務専門員	鈴木 めぐみ	
	非常勤司書	阿部 尚子	
	非常勤司書	山中 久美子	
	非常勤司書	中村 瑞木	
	非常勤司書	坂口 薫	

神奈川県立近代美術館  
年報 2023(令和5)年度

発行日：2024年12月26日

編集：神奈川県立近代美術館

葉山館 〒240-0111 三浦郡葉山町一色 2208-1 電話 046-875-2800

鎌倉別館 〒248-0005 鎌倉市雪ノ下 2-8-1 電話 0467-22-5000

制作：有限会社リーヴル

ANNUAL REPORT 2023

Edited and published by The Museum of Modern Art, Kamakura & Hayama on December 26, 2024

Produced by Livre

© 2024 The Museum of Modern Art, Kamakura & Hayama

